

## 九 大戦が暴露せる獨逸の弱點

### 一 國家としての弱點

【間接税に基く獨逸の財政】獨逸の國家としての弱點を明かにする爲めには、どうしても獨逸帝國の組織を論じなければならぬ。獨逸帝國の最大弱點は、其帝國の組織上財政の基礎甚だ薄弱であると云ふ一事である。各聯邦は成立既に久しいが、獨逸帝國其のものは、建國日尙淺く、財源の確なものを有して居ない。其の確なもの殊に直接税は、各聯邦が徴收し得るだけとつて居る。同一の租税を二重に課することは、國家財政の性質上出來ない事である。そこで帝國の財政は専ら間接税によるより外に仕方がない。是れが小國か國務の少ない國家ならば甚だしい弊害はない。併し今日の如き大なる獨逸帝國

では事甚だ困難である。

國家の財政上間接税と直接税との利害得失は英吉利佛蘭西が十七世紀から十八世紀に亘つて様々に經驗した所である。佛蘭西の經濟財政論が學問として起つて來たのは、煩雜なる間接税があつた爲めである。佛蘭西の國運が伸展して歐洲第一の強國となるに及んで、間接税の弊害が百出した。之れを根本的に矯正せんとする事が動機となつて起つて來たのが、フランソアケネー等のフキジオクラット(重農主義者)の學說である。此學派の根本的主張たる單一税論は、税を單一にし、直接税中の地税を以て國家の財政の基礎とする事であつた。此の議論は遂に行はれなかつたが、是れが動機となつて、國家財政の基礎が間接税から直接税に進むに至つた。併しながら今日と雖も佛蘭西の直接税主義は徹底して居ない。

英吉利も佛蘭西と同様、間接税よりも直接税に重きを置いて居る。英吉利には十八世紀の末から十九世紀に亘つて、不思議といふべき程、政治家中にピット、ビル、ハスキソン、グラッドストーン等の卓れたる財政家が輩出し、而して數十年の財政整理の大事業は、グ

ラッドストーンに至つて大成した。そして國家の基礎は直接税に移つた。

英吉利の所得税制度は、理想的とは言へないが、餘程理想に近いものである。英吉利國民は、之れを制定した大政治家の大手腕に對して、末永く感謝しなければならぬ。併し、是れは、最初から斯うなる様に豫想されて居つたものではない。所得税は、當初戦時非常特別税として新設せられたものであつた。是れが平時であつたならば、民權の發達した英吉利にあつては、國民の異議を買つて到底賦課し難かつたであらうが、戦時であるから斷行が出來たのである。是れが今日では英國財政の大黒柱となつて居るのである。

英國は他の點には幾多の缺陷があるが、其の財政の根本的基礎が所得税の上に立つて居ると云ふ一事は、實に非常の強味である。英國では金持が跋扈して居るが、併し跋扈するだけ國家の財政の大部分を負擔して居ると云つてもいい。而して例の自由貿易で、間接税の種目が甚だ少いので、下層民の財政上の分擔は他國に比すれば遙かに少ないのである。此の點にして變らざる限り、此度の戦争に於けるが如き財政上の大負擔があつても、英國の財政の前途は甚だしく悲觀するを要しない。

【戦争前に於ける財政の弱點】此の英國の強味は即ち獨逸の弱點である。獨逸帝國の財政は此の理想的な直接税による事が全然不可能である。地税所得税、營業税等の直接税は皆各聯邦の課する税である。尤もプロイセンでは地租を全廢して地方税として居るが、兎に角帝國の税にはなつて居ない。近代に及んで、ライヒスエルブシア、フツストイエル(帝國相續税)、資本利益税等の直接税を賦課する議があつて既に一部行はれて居るが、何れにしても、重なる財源にはなつて居ないものである。故に獨逸帝國の大なる財政は基礎甚だ薄弱なる間接税による外はない。間接税は多く下層民の負擔に歸する。小國は姑く措き、大國の財政が之れに依つて立つのは基礎が薄弱である。

ビスマルクは獨逸の大帝國を建設した時、此の弱點に打克つて財政々策を立てた、一つは煙草專賣であり、二つは鐵道國有策である。是れが實行されれば、大なる財源が出来る譯で、實に名案であつた。然るに前者は民間の反對が猛烈であつて遂に成立しなかつた。後者は私設鐵道の買収が出来た。併し其の買収者は獨逸帝國に非ずして各聯邦であつた、今日の國有鐵道の第一はプロイセン王國の國有鐵道である。他に大きな聯邦も各々

鐵道を國有して居る。バイエルン、ウルトンベルヒ、バイデン等には夫れも、國有鐵道がある。獨逸帝國から云へば、此企ては自ら肥えんとして却つて他を肥やした結果に終つて居る。つまり聯邦の爲め好箇の財源を興へたのである。其所でビスマルクは已むを得ず、海關税を主とする財政政策を立てた。此政策は、ビスマルクが其れ迄執つて來た自由貿易主義と兩立しないものである。一千八百七十七年まで漸次進行しつゝあつた自由貿易主義を俄然一擲し、一千八百七十九年鐵道輸入税を課したのを始めとして、保護主義を執るに至つた。此は戦争前まで繼續して來た。

此の保護主義は實は主として帝國政府が好箇の財源を得る手段であつて、本來の動機は内國の産業を發達せしむる爲めでなかつた。根本にこの動機があるのを忘れては、獨逸の保護主義は解することが出来ない。輸入税の賦課が内國産業の保護を目的とすれば、輸入の減少を期せなければならぬ。輸入が減少すれば海關稅收入が減少して、帝國の財源を得る事が出来なくなる。帝國の財源を充實せしめんとすれば、輸入が多くなければならぬ。輸入税を課して輸入の多きを望むのは保護政策ではない。獨逸の保護政策

には此の根本的矛盾がある。薄弱なる帝國の財政は、これを維持する爲めに斯の大矛盾に陥つて居る。而して建國以來帝國の仕事は著しく増大したが就中最も大仕掛けなのは海軍擴張であつた。此の財源は海關稅其の他の間接稅である。然るに海關稅も其の金額が全部帝國の收入となるのではない。帝國はある部分だけ收めて、其他は各聯邦の人口數に應じて、それ／＼割り戻さなければならぬ。是れをコンチンゲンチールグ (Kontingentierung) と名づける。而して獨逸の國民は帝國の財政聯邦の財政の二重の財政を負擔して居る。英佛、日本とは全く事態が異つて居る。英佛、日本では如何に重稅であると云つても、國家稅、地方稅のみであるが、獨逸國民は聯邦稅、地方稅の上に帝國稅を負擔しなければならぬ。而して其の租稅は、租稅力ある財産階級が主として負擔して居るのではない。納稅力の乏しい中流以下が負擔して居る。夫れであるから獨逸の海軍が擴張せられ、ばせらるゝに従つて、國家の地位が高まれば高まるに従つて、下層民の負擔は愈々増加する。

【戦後に來るべき社會的不安】是が戰爭前に於ける財政上から見た獨逸の弱味であり、英國の強味である。佛國はその中間にあると言つてもいい。

所が戰爭が勃發した。英獨佛共に非常に借金した。各國政府は戦後に至つて、元利を支拂はなければならぬ。併し、三國共内國債であつて外國債は甚だ少ない。獨逸の如きは全く外債が無い。今後とも獨逸は外國から借り得る見込はない。最近まで明かになつて居る所獨逸は七回公債を募集して居る。第七回の結果は未詳であるが全部内債である。尤も英佛二國の借金も主として内債であるが、同じ内債であつても之れを償却する場合に生ずる事態に至つては全く別である。

公債を償却する爲めには増稅しなければならぬ。租稅は國民一般が負擔するのであるが、英國に至つては、財産階級が其の重なる部分を負擔するに反して、獨逸に在つては大部分を負擔するものは中流以下の下層民である。公債償却の爲めに獨逸の下層民は、大なる負擔を忍ばなければならぬ。然るに公債の元利支拂高の大部分は財産階級の懐に入つて、下層民の手には歸つて來ない。何故となれば、公債に應じた人數は下層民も多いが、金高は財産階級の方が多からである。戦後に公債の始末をした所で、獨逸帝國の國

富が減ずるわけではない。問題は其の富の在り所が變る點、即ち國民一般に増税して一部少数者の手に運ぶ點にある。此の點に於いて英國と餘程違ふ、嘗さへ國民に取つて不都合な經濟状態は、戦後愈々不都合になる（尤も英國と雖も今後戦争が永引き、公債高が増大すれば獨逸の狀態に近づいて來る可きは勿論である）。

英佛も勿論増税しなければならぬ。併し今日の所では、英國の租税の大なる負擔者は財産階級であるから、財産階級から收めた租税を以て、財産階級が所有して居る公債を償却する姿であつて、云はゞ出す入らずである。唯だ名目が變るだけである。極端に言へば、租税と借金と帳消することも出來なくはないのである。右手からとつて左手に返へすのである。然るに獨逸に在つては、租税をとられるものは財産のない多數の下層民、これを以て公債の償却を受けるものは少數の財産階級である。

獨逸戦時公債の結果に就て第五回までの結果を見ると、獨逸の公債應募者の五分の三は千マルク以下の應募者であるが、其の金額に至つては公債總額中僅か百分の六にしか當つて居らない。即ち公債元利總額中下層民に返るものは僅か百分の六であつて、餘り

の九十四は、公債應募者中五分の二に過ぎない少數財産家の手に歸するのである。公債償却の割合はまだわからないが、國富の大部分が少數者のものとなる事は明かである。

戦後に於ける下層民労働者の負擔は、英佛に於いても最大問題であるが、獨逸に於いてはより大なる問題である。巧みに調理すればいざ知らず、戦前同様の財政方針を踏襲して行くものとすれば、獨逸の下層民は手も足も出ない事になる。戦争中の苦痛も甚だしかつたであらうが、戦後の此の苦痛は更に一層大きいであらう。

従つて此の點のみから見ても、獨逸の社會的不安は著しく増大して來るものと考へる。論じて茲まで來ると、獨逸の社會としての弱點が明瞭となる。

## 二 社會としての弱點

【國中の國社會中の社會】獨逸の社會は、斯くの如き國家の下に立つて居る。其の根本的特色は大いなる社會的不安と云ふ事である。

此の度の戦争中、社會民主黨の多數派は、政府と肝膽相照し忠實なる従僕の態をなして

居るが、是れは此の戦争を以てカイゼルの野心より出たものと考へず、獨逸國民の戦争であると信ずるが爲めである。のみならず、社會民主黨は、今日立派な一個の政黨である。政黨たる以上、社會上、政治上着々其の主張を實行しなければ存在の理由がない。始めから戦争に反對し輿論に背き去れば、戦後の經營に參與する事が出来ない。一切の經綸から除外される。是れは政黨としての自殺的行爲である。今仲間入りをして、いざ戦後の經營と云ふ場合に、其の主張を貫かんとするのは、政黨としての立場に立つ以上は當然の行爲である。稍々不倫の譬ではあるが、社會民主黨の態度は、犬養國民黨總理の外交調査會に入つたのと同様である、何時も逆境黨たる境遇を脱して、黨の主義主張を實現する機會を得んとしたのと相似て居る。社會民主黨は本來の主張を捨てたのでない、豹變したのでもない。其の行動は戦時に處する一種の方便政略である。故に戦後に於いても、現在の態度を持續するものとは見るべきでない。

社會民主黨が戦争中輿論に迎合した事は、一大勢力を得る一原因となつた。戦後の經營から同黨を除外する事など思ひもよらぬ所である。經營に關する儼たる一大勢力で

あるのみならず、戦後の國家施設は悉く民主的色彩を帯びて來るであらう。所謂日給自足は獨逸の經濟の社會主義化である。非資本主義化であるから、政黨としての社會民主黨は頗る有力なものとなるであらう。而して社會の設備に於いても著しく社會主義的になつて來るであらうから、何れの方面より見るも社會民主黨の主張を容れなければ収まりが付かない。之れを度外に置くことは、逆も不可能となる。

併し乍ら、獨逸の社會に之れを容れる準備があるかと云ふに、夫れはまだ出來て居ない。即ち獨逸の社會の弱點は、社會が包含する事が出來ない大勢力が社會内に益々發達して行くこと云ふ事である。國の中に於ける國、社會の中に於ける社會が、駸々として發達して、母體の生長之れに伴はず、社會は營養不良に陥ると云ふことである。

### 三 人としての弱點

【小國根性と小都會根性】是れが自ら獨逸人の人としての弱點に及ぶのである。獨逸人の性格は一概には言へない。北と南と農民と工場労働者とは非常に相違がある。併

し通じて言へば大體我が國でよく言ふ所謂大國民の襟度なるものがないことに歸着すると思ふ。然らばコスモポリタンとしての性格が發達して居るか云ふにさうでも無い。社會主義者はインターナショナルナリズムを主張して居るが其の實獨逸の社會主義者勞働者程非萬國主義的性格を有するものはない。他の國語にはなく獨逸語にのみあつて獨逸人が自ら評し得て適切な言葉がある。クラインシュタターライ(Kleinstate-haus)と云ふ語が是である。クラインは小、シュタターテは國、ライは英語の接尾語shipに當る。適譯ではないが言はず小國根性である。獨逸人は小國根性の持主である。所が可笑しい事には、獨逸の下層民は其語をもじつて、クラインシュテツテライ(Kleinstädter)と云ふ言葉で自ら評して居る。シュテツテは都會であつて小都會根性の意味である。彼等は小都會あるを知つて國家あるを知らず、況んや世界をや、天下をや、己れの住んで居る都會を一番いゝ土地と心得、己れの國を以て天下と思つて居る。其の陋恰も支那人が自國を中華と信ずるのと同じである。彼等は見識狭く調子が低く少しも鷹揚な所がない。獨逸人は英國人を罵つて、番頭素町人、シヨツプキーパーと云ふ。英國人は如何にもそ

れに相違ない。併し獨逸人はもつと下等である。番頭は番頭でも英國人は天下を御客とする大店の番頭である。獨逸人の御客様は小都會の町人ばかりである。英語のシヨツプキーパーに當る獨逸語はクレーマーであるが獨逸には此の語を含む語で、是れ亦他國語になし、自己批評の語がある。それは、グライニヒカイツクレーメライ(Kleinheitskrämer)である。此語は二束三文のガラクタを店先きに並べて賣つて居る奴、そいつの根性と云ふ意味である。強いて日本語に當てれば、番太郎根性である。店中のものをすつかり引つからげて幾らにもならない品を後生大事に守つて、女子供を御得意にして暮らす人間の根性である。

此の根性は、ひとり勞働者のみならず、學者、官吏、詩人、藝術家にも付き纏ふて居る。獨逸人は動もすれば、彼奴はクライニヒカイツクレーメラである、と云ふ、其の罵る人間も亦さうだから、そこで他國語に翻譯する事の出来ない言葉が出来たのである。

獨逸の學問は世界第一でもあらうが、其の學者にも此のクライニヒカイツクレーメライが染み込んで居る。第一流の學者はさうでもないが、二流以下の學者となると、下らな

い問題を据へて、感にもつかぬ事をコテ／＼と書き立て無暗に註を入れ、當人が読みもしない書物の名を麗々しく並べて居る。此の風は日本でも近來大分流行つて來て居るが、誠に閉口千萬な事である。

日本から獨逸に行く醫者などにも大分此の類がある。ドクトルの名稱が欲しいばかりに、何處かの大學に入學して蚤の畢丸の研究をする。こんな事は直ぐ出來る。所が、それが本になつたのを見ると、コテ／＼と本の名を並べて如何にも大掛りである。到底當人が讀め相もない本などが出て居る。所が、是れが出來るわけがある。リテラトゥア販賣業、参考書目販賣業と云ふものがあつて、手紙一本出せば或る問題に關する書名、發行年月日、其の本文の出る頁數まで詳細記述して、タイプライターで送つて呉れる。之れを論文の所々然るべき場所へ嵌め込めば、立所に立派な堂々たる大論文が出來る。他國にもこんな商賣があるかも知れないが聞いた事はない。第一流の學者は知らず、二流以下になると、此のリテラトゥア先生の御厄介になるのが随分ある。彼等はどつちでもいい事を争論し、下らない古い本の中から愚にもつかない事を拾ひ出し、是れを敷衍して前

人未發の新説と號したり何かする。是れなどはクライニヒカイツクレイメライの好い御手本である。

是れは學者のみではない。獨逸國民全體に亘る通弊である。尤も是れも或は學問を進歩せしむるに効があるだらう。物事を綿密にやる瑣事と雖も疎略にしないと云ふ所、謂ジャーマンソローネス (German thoroughness) は此所に胚胎するに相違ない。併しそれと共に、人間として見識の高い襟懷の寛い事を妨げる事も亦事實である。獨逸人は善い意味の常識を缺くと云ふ英人の批評は、此の點に於いて確かに當つて居る。

【シャーデンフロイデとアイゲンジン】獨逸人は斯くの如くコセ／＼して居るから、従つて猜疑嫉妬の念の深い事を免れない。洒々落々たる所が缺けて居る。彼等は何事でも何處までも追究する。其の目的が立派な事大きい事であれば、追究は甚だ結構であるが、單に追究の爲めに追究し綿密の爲めに綿密にするのであつて、其の本來の目的の何であるかを考へない者がある。そして自分の成績を誇り、同じ方面で同じ成績を擧げる者があれば甚だしく之れを嫉む、他が失敗すれば手を打つて、之れを欣ぶ。此根性を言ひ現



はすにも、亦獨逸語特有、他國語に譯すべからざるシャードン・フロイデ(Schadenfreude)と云ふ言葉がある。シャードンは損害フロイデは喜ぶであつて、他人の怪我を喜ぶと云ふ意味である。英語は随分語彙が豊富であるが、一語を以て之れを譯出すべき言語はない。英語すれば甚だしく廻りくどくなる、簡純適切の言葉はない。獨逸人は實にシャードン・フロイデに耽る國民である。

一體國語は屢々其の國民の性格を語るものである。英語のセルフインテレストは、佛語で云へばプロプル・アムールであるが是すら既に原語の含蓄を十分に具有して居ない。それを獨逸語に譯すれば、セルフ・スト・インテレッツであるが、原語の妙味は殆んど傳はらない。英國人はセルフ・インテレストに於いて極意に達して居るから、之れを表現する言葉がある。獨逸人は其の道に於いて發達しないから、譯語はあつても其妙味を傳ふるに足らないのである。イゴイズムと言へば、英語で直ぐ其の意味がわかるが、獨逸語ではわからない。エゴイズムと云ふ語は、言語學上、辭書上の存在であるに止まつて、言葉のジニアス(妙味)から言へば稀薄なものに過ぎない、其代りにシャードン・フロイデは獨逸獨特

である。其の妙味は他國語の傳へる事が出来ない程、獨逸人の性格を現はして居る。

國民の性格を示す語として尙ほ一例を擧げて見る。英語にセルフ・ヘルプ(自助)と云ふ語がある。是も獨逸人にピッタリと來ない言葉である。ゼルフ・スト・ヒルフエは原語の直譯たるに過ぎず、言葉は同じでも其の妙味はうつらない、有名なスマイルスの自助論、原名セルフ・ヘルプを獨逸語に譯して、ゼルフ・スト・ヒルフエと云つただけでは、其の意味がよくわからない。夫れで獨逸の譯書ではゼルフ・スト・ヒルフエと云つただけでは、其の意味がよくわからない。斯う翻譯しなければ、獨逸人には原著の意義が呑み込めないのである。是れ即ち獨逸人にセルフ・ヘルプの觀念が十分發達して居ない證據、英語の自助、即ち福澤諭吉翁の獨立自尊が十分わかつて居ない證據である。獨逸人には此の觀念よりは、寧ろアイゲンジンと云ふ方の觀念が發達して居る。アイゲンジンは日本語に譯せば、手前勝手、己あるを知つて他あるを知らないと云ふ意味の言葉である。是れはつまり、獨逸人が國民全體としては、自己主張の本當の意味に達して居ないと云ふ事を示すのである。獨逸にも立派な人物、セルフ・ヘルプの極意に達して居る人があるが、國民全體としてはそこまで

行つて居ない。全體としてはシャーデンフロイデに耽つて居る。兎角人には怪我あれかし、自分に事なかれとまでに慾張らないが積極的には他人の怪我を喜んで居る。

獨逸は軍國主義の本場であると云ふ。併しそんなものは固有ではない。あると云へば獨逸のみならず各國何處にもみなある。獨逸人が憎まれるのは、軍國主義の爲めと云ふよりは、イケ好かないと云ふ感じを與へるのである。カイゼルは、其の代表者アイゲンジンとシャーデンフロイデの權化と見做されて憎まれて居るのである。カイゼル自身は必ずしもさう云ふ人ではない。カイゼルは寧ろ獨逸人固有の缺點の割合に少い人であると思ふ。併し獨逸人が右に云ふが如き性格であるが故に、カイゼルは其の本尊として憎悪の的となつて居るのであると思ふ。氣の毒ではあるがまた已むを得ない事である。此の性格の弱點は特に外國人に對する場合著しく顯はれる。

【獨逸人を一皮剥いで見ろ】一體獨逸人の性格には一種の矛盾があると云つても宜し。獨逸人は客や外來人を遇すること懇篤で、或る點では殆んど卑屈に見えるほど、自己を虚しうして遠來の客を待つ風がある。是を獨逸語では、ガストフロインドリヒカイトと云

ふが是れあるが爲に留學しても大變居心地がいゝ。所が不思議な事には、一朝何事か起ると、其のガストフロインドリヒカイトはくるりと一變して、恐しい毛嫌い根性が現はれて来る。武士は相見互ひなどと云ふ事は思ひもよらない。今度の戦争の例に就いて見てもそれがよく見える。戦争の始め獨逸人は己れを以て他を付度し、日本人が此の機を奇貨として、ロシアの背後を撃つて呉れるだらうと思つて居つた。夫れが鞭喜びであるとわかると、一日か二日の間にがらりと一變して、國民全體が寄つてたかつて日本の留學生をいぢめ出した。互に眞情を披瀝して交際し親兄弟の様な親しみを以て面倒を見て居つた人までがいぢめ出した。皆んなと云ふではないが、獨逸人には斯う云ふ矛盾した性格がある。

佛語に『ロシア人を一皮剥いで見ろ、韃靼人が出て来るぞ』(Grattez le Russe, et vous trouverez le Tartar)と云ふのがある。獨逸のヒルレブランドと云ふ大の佛蘭西通は、此の言を轉じて『フランス人を一皮剥いで見ろ、ゴール人が出るぞ』(Grattez le Français, et vous trouverez le Gaulois)と云つた。私はもう一轉して、『ドイツ人を一皮剥いで見ろ、シュワブ人

が出て来るぞ』(Grattez le Allemand, et vous trouverez le Suave)と云ひ度と思ふ。即ち残忍酷薄の蠻民の性質、昔歐洲の荒野に水草を逐ふて轉々として虐殺掠奪のみ常として居つた時代の蠻性が、何處にか残つて居つて時あつて出て来るのである。

尤も獨逸軍隊が暴行を働くと云ふが、是れは何も獨逸に限つた事ではない。日本は知らず、何處の軍隊でもやる事である。併し一度やるとなれば徹底的にやるのは獨逸人である。残忍道に於いても獨逸人はなか／＼特色を持つて居はしないかと思はれる。

【佛蘭西のフィデルと獨逸のそれ】併し乍ら歐洲文明國民中、獨逸人が特に残忍だと云ふのではない、それは英國人の言草である。日本人までが尻馬に乗つてさう云ふには及ばない。印度に於ける所業を考へたら、英國人は人の事を残忍呼はりは出来ない筈である。時あつて古い性質が出るが、獨逸人は平素なか／＼可愛い國民である。お人好しの方であつて、直に赤心を披いて他の腹中に置く風がある。佛語でお人好しをボンノミイと云ふ。さう云ふ性質は佛蘭西人にもある。併し、佛蘭西語のボンノミイと獨逸語のゲミニートリヒカイトは大分趣きが異つて居る。獨逸人は學問にたけて居る國民であ

るから、何んでも理窟を捏ねる様に思はれて居るが、實際は必ずしもさうではない。一度城府を撤すれば全く理窟抜きで交際する。佛人のボンノミイは理窟を撤して居ない様に思ふ。佛人は交際を盡して居つても、何處かに打算を捨てずに居る様に思ふ。獨逸人は一度親交を訂すれば羽目を外づす。獨逸人は之れをフィデルと云ふ。此の言葉は本來佛語であつても、とは四角四面忠實の意味であるが、獨逸人はそれを羽目を外づすと云ふ意味に使つて居る。是れに就いて面白い話がある。書生同志が酒を飲み合つて、どうもあの男はフィデルで面白くつていと云つたら、ある外國人があの男が忠實であるのか、自分の飲んだビール代を皆んな君に拂はしたぢやないかと云つた。獨逸人がそれが即ちフィデルぢやないかと云つたが、どうしても外國人にはわからなかつたと云ふ話がある。是れは日本人にはわかる。日本人には獨逸流のフィデルな所がある。勘定を人任せにする事がフィデルと見做される事がある。獨逸人は平生は勘定が規帳面であつて、大學教授と學生とが一所にビールを飲んで、教授が拂つて呉れはしない。めい／＼飲んだ分だけ拂ふ。其れが當り前となつて居る。併しフィデルになれば勘

定はめちやくになつてしまふ。それが大變面白いと考へられるのである。

【プツフイヒカイト】個人として斯んな懐しい所があるかと思つて、他の一面には獨逸人特有のいやな性格がある。それを言ひ現はすにも亦他國語にない言葉がある。プツフイヒカイト(Pfuihkeit)と云ふ。是れこそ本當に翻譯不可能な語であつて、實際獨逸人に打つ突つて見なければ解らない。獨逸の百姓と云ふ者が其の最もいゝ代表者である。都會の人間や勞働者のクライニヒカイツクレイメライと好一對である。強ひて日本語で言つて見れば、わけも分らずに愚圖々々言ふと云ふ様な意味であつて『沒義道』とか『ごくだう』とか云ふのが、或は當つて居るかも知れない。此の性質は獨逸の學問にも多少現はれて居る。自分の頭が悪くつて物の道理が分らないを覺らず、謬見を主張し固く執つて動かない。獨逸人が斯う曲り出すと全く箸にも棒にもかゝらない。獨逸兵の我慢強いのは此の性質が手傳つてゐると思ふ。國家、人道、正義、其なものには百姓出の兵卒には分りはしない。たゞやるんだとなると思ふ。それが獨逸人のナショナル・キャラクテリスチックをなして居る。獨逸全體のプツフイヒカイトは此の戰爭

に良く現はれて居ると思ふ。『デルブ』『グローブ』杯と云ふのは、獨逸人殊に獨逸の百姓に良く見る性格である。

『自由は獨逸の森林より』とモンテスキューは云つたが是れは歴史上の事實ではない。古代獨逸の森林に住んで居つた人間は、自由でもなんでもなかつた。たゞプツフイヒでありデルブであつたのである。自由、正義の念からローマ人と戦つたのではない。プツフイヒカイトから頑強に他に抵抗したのである。是れが偶々彼等の自由を保たしめたのである。

此の性質のいゝ所を言へば、するうでないことゝぼんやりして居ない事である。目に一丁字のない百姓も、無暗に人の言ひなりにならず、に我見を固執する。彼等は小なる樂天家ではない。『まゝよ三升樽横ちよにさげて』と云ふ様な心意氣は、彼等の到底知らない所である。

【外來思想は頭に入るのみ】獨逸の都會には世紀末的氣分がある。佛蘭西のデカダンの的な人間もある。併し乍ら獨逸のデカダンは到底獨逸のデカダンである。人によつて

異見があるであらうが私の見る所は、獨逸人は決して心からデカダンにはなれない。其デカダンは頭のデカダンであつて心のデカダンではない。世紀末にあらずして世紀の始である。故に佛蘭西のデカダンを獨逸流に解してブンメリヒと云つて居るが、夫れには少しも深刻な所がない、眞のデカダンの深刻を缺いて居る。『ずろう』位の意味に解して居るに過ぎない。悪く言へば、獨逸人はデカダンの深刻を悪化してブンメリヒカイトとして居るとも言へる。而して是れ獨逸人が眞の革命家たるを得ない一理由である。革命は獨逸人の頭には入るが心には入らない。佛蘭西では革命が御茶うけであるが、獨逸ではスーブの前に出るオールドウブルである。食べても腹の足しにはならない。宴會には必ず出るが御茶うけにはならない。毎日食ふものではない。佛蘭西では革命思想は日常生活の一部である。獨逸人は麥飯を五六杯づつも喰べなければ腹が納まらぬ。佛人は鮪の鰯を一寸つまんで一度の飯を抜きにすることを好むような風がある。外國の思想は獨逸に入つて來ても頭で理解されるだけで、今迄の所獨逸人の性格を變へる力となつたものはない。英國の徹底した素町人根性も獨逸のものにならない。佛蘭西の

平等思想も獨逸の物にならない。米國のブツシングトウゼフロントも亦さうである。外形では獨逸人のやり方もブツシングトウゼフロントと見えるが、其内容はさうではない。獨逸人はブツシングトウゼフロントでやつても、理窟をこねく進んで行く。其途中で餘計な引つかかりで敵を仆すやうないたづらをしつゝ前進する。

【戦後の新生面の打開は困難ならん】斯くの如き性格だから、社會の中に社會が出來國中に國が出來ても、其の社會其の國の人間になれ切れない。斯う云ふものが出來たのは大勢である、不可抗の變化であるとし、從來の一切を抛つて社會改革を遂行するかと云ふに決してさうではない。ブツフファイヒカイト、ブツフファイヒカイト、ブツフファイヒカイトがそれを妨げる。其の實證は社會民主黨の成立を見れば明白である。無論政府の壓迫にもよつたであらうが、社會民主黨の初期の歴史が紛亂に充ちてゐるのは、主として其領袖間にシヤードン、ブライデン、ジン、ブツフファイヒカイトが行はれて居つたからであると思ふ。ラッセルを好く人もあるが、此の點から見て私は大嫌ひである。人間として少しも感服が出來ない。彼の後繼であつたシュワイツェルも亦同じ事である。彼等の間に

は、中傷離間、醜詆誹謗が盛んであつた。政府に買収されたとか、ビスマルクの犬であるとか言つて咬み合つて居つた。斯る例は他國にもあるが獨逸程甚だしくはない。英國の社會黨を作つた領袖は、型は小さいが立派な人物の行列であると云つていい。マルクスは追放されて長く外國に居り、此渦中に投じなかつたので、人格上の弱點を見せて居ない。エンゲルスはマルクスの副官を以て任じて居つた——其所に人格の閃めきを見る。他の諸領袖に至つては其説に感服しても、其の人物には共鳴が出来ない。是はひとり社會民主黨だけの事ではない、反對派に就て見ても同様である。官僚のみが頑迷固陋なのではない。社會改良學者の中にも、ブッフハイヒカイト、グイゲンジン、シャードン、フロイデが戦はされて居つた。是等の人物の中にあつて、官僚のビスマルクなどが却つて人格に於いて嶄然頭角をぬいて居つた。

而して今日の輿論なるものも、斯るいきさつを経て出来たものであるから、なほ因縁が付き纏つて居る。故に戦後に於いて従來の行き掛を一擲し、虚心恒懷一致して、新生面を打破することは餘程六づかしいであらう。

併し乍ら、私は寸毫も豫言を試みんとするものではない。唯過去を以て將來を推すに過ぎない。而して實は私は將來大いに變らんことを冀ふものである。

#### 四 結 論

【中央經濟同盟は天に三日あらしめん】獨逸の根本的弱點たるクラインシュターテライ、或は四角に云つてパテクラリズム (Partikularismus) も、右の國民的性格を背景として居るものであるから、此の戦争の爲に一掃されることは望み難いかと思ふ。憲法學者、政治學者は獨逸の聯邦制度をいろいろに解釋するであらうが私が見る所、政治上法律上、必ずしも聯邦制度を固執しなければならぬと云ふ事はない。否、今度の戦争によつて獨逸人は聯邦制度の不自由、不便弊害を痛感したのであらう。眞に統一ある帝國を築き度いと考へたであらう。

併しながら此の希望は政治上の手段だけでは實現が出来ないであらう。大國民の襟度を發はなければ、非大國民性格が著るしく變化しなければ、聯邦を廢止しても、なほ國中

に無形の國家が無數に残存する事になる。されば財政の根本的改革も困難であらう。翼はくば今度の苦い經驗で、其の非大國民的性格を一變して貰ひ度いが、今日までの事態は右に述べた通りである。

獨逸の將來に關して、中央經濟同盟を揣摩憶測した議論もあるが、其の真相はなほ不明である。英國側では成立しないと云ひ、獨逸側では成立すると云ふ。其の何れにも可能性がある。併し假に出來たとしても、獨逸は英國の如き國家でないが故に、其上に經濟同盟によるスーパーステート(超國家)を作ると、既に二重な國家組織を三重にする結果になる。支那人は天に二日なく地に二王なしと云つたが、獨逸には今日天に二日がある。中央經濟同盟は更に天に三日あらしめんとするものであつて、若し出來れば獨逸國民は實に厄介な運命に陥るではないかと思ふ。

中央經濟同盟成立の可能不可能を議論せんとするならば、先づ此前提から考へてかゝらなければならぬ。英國のチャムバレンの關稅同盟に對すると同様の筆法を以て論ずべきものではない。

【戦後の獨逸は向上か墮落か】私は公平な立場から獨逸を潰してしまふなどと云ふことは不可能であると信じ、之れに反對するものである。又た、ウキルソンがカイゼルを退位せしめんとするが如きは、餘計な御世話であると思ふ。カイゼルを廢しても、軍國主義は滅亡するものではない。獨逸流の軍國主義を廢しても、米國流のオールマイティダラア式軍國主義が生れて來る。軍國主義の爲めに獨逸を亡ぼさなければならぬと云ふのは理由にならない。私は世界全體の文化と幸福から云つても、獨逸の滅亡は好ましからずと確信を以て斷言するものである。

併し乍ら、非大國弱點を以て居る獨逸が、世界の大国となつて荒ばれ廻るのは大迷惑である。英國が荒れ廻るのも迷惑であるが、二つの悪いものゝ中では、まだ英國の横行の方が我慢が出来る。殿様の威張るのは人民に取つていゝ迷惑であるが、殿様はまだしも鷹揚でいゝ所がある。何處かぬけた處がある。壓制でも横暴でも自ら抜け道があつて、下民が息をつく餘裕がある。之れに反して、成り上り者が俄殿様になつて威張り出しては助からない、下々の何もかも心得て重箱の隅を揚枝でほじくる流に、至らぬくまなく壓制

横暴をやられた日には下民が災難である。夫れであるから此の度の戦争が獨逸人をして其の非大國民的性格を減ぜしむことを希望する。全然なくなつてしまふと云ふ事は考へられない。故に獨逸と對抗する他國たるものは其の覺悟を要すると思ふ。

併し他方から考へて見ると、今度の戦争は此の獨逸人の非大國民的性格を著るしく強めたかも知れない。世界の國と云ふ國は寄つてたかつて獨逸を叩き潰さうとして居る。斯る境遇に置かれれば餘程寛仁大度の性格をもつ國民でも自棄になるのを免れない。四面皆敵である。人を見たら敵と思へ、カイゼルと其の政府が斯う考へるのは仕方が無いとして若し獨逸六千萬の國民に此の念を強からしめれば是れ眞に獨逸國民の墮落である。若し斯くの如くであれば今度の戦争は誠に人類の爲めに不幸な戦争と言はなければならぬ。世界の文明民中から六千萬人丈けを畜生道へ追込んだことになるのは、人類全體の大損失である。兎に角高度の文明を有する獨逸工業藝術學問を以て人類の幸福に偉大な貢献者となつて居る獨逸が唯其非大國民的性格の爲に累せられて居たと云ふ事は、人文發展上の一大恨事であつた。然るに今度の戦争の爲めに獨逸が益々其アイゲ

ンジン、プツフファイヒカイト、シャイデ、フロイデ其等の弱點を強からしめるとすれば、人類全體の文明幸福にとつても一大損失であると言はねばならぬ。

カイゼルを廢し或は獨逸帝國を滅ぼして若し其の國民的性格が著しく改まるならば結構であるが、反對に六千萬の獨逸國民が斯くの如く墮落するならば、心の底から文明の進歩を冀ふものにとつては、此の度の戦争は人類の大々的損失と斷じなければならぬと思ふ。

||大正六年十二月談話全七年一月『中外』掲載||

## 附録一 金と人に困る

獨逸に取つて今が講和をするのに一番いゝ時である、獨逸は今外交よりは國內の統一に就て非常に困つて居る。此上戦争を續けるに於ては益々國內の統一が付かなくなつて了うだらう。第一に先づ公債である、第四回迄はいろいろ細工や辻り繰をして兎も角も成功を収めて來たが、先々月の第五回公債は餘程の難産であつた。第二は國內社會黨の平和促進運動である、此が段々勢力を得て來て今では馬鹿に出來ぬものとなつた。第三に壯丁の不足である、統計



の上でこそ五十歳以下の男何百万人と出てゐても實際役に立たぬものが多い、ヴェルダンの陥落を見る事が出来なかつたのも必竟壯丁不足の爲である。こんないろ／＼な理由から今度のアカレストの陥落を期として提議をしたものと見える、聯合國は恐らく勿附けるだろう。然しそれで却て獨逸に取つてはいゝ口實が出来来る。獨逸は平和を希望するに拘はらず聯合國が應じない、世界の平和を亂すものは彼等だと云ふ譯で、國內の愛國心を刺戟し公憤も成功しようし社會黨も平和説を棄てて奮起しよう。其から又聯合國全體として一應拒絶しても弱つて居る國が單獨講和を始める、是が獨逸に取つて勿論有利である、獨逸は豫め此事を豫想してかゝつて居るかと思はれる。それから此提議が成功すれば、日本の影響は如何かと云ふと、成金連中は困るかも知れぬが、日本の財界の爲には却て都合である。日本のみか米國もさうである、戦争の附景氣はさう永く續くものではない、永く續けば續く程後に大恐慌が来る。今物は騰るだけ騰つて居るし、此上は下るより外はない、それに物資が缺乏して景氣許りいゝのだから、實際の生活は益々苦しくなる。そこで早く平和に復さぬと今に我々の生活上に大恐慌が出現する、獨逸はどうなる。もう此儘で戦争を止めよう、今迄占領した露佛の一部分も無條件で返す、是は電報にある通りだ。獨逸に取つては「獨逸が只強い」と云ふ虚名を博した丈で、非常な損失をし乍ら何一つ得る處が無かつた譯である。

〓大正五年十二月十四日『東京朝日新聞』掲載〓

## 附録二 講和と獨逸社會黨

ストックホルム社會黨大會が講和促進に幾何の影響を及ぼすかと云ふに、五月十五日に開かる可き管の同會が延期され、延期の理由に就ての詳報が未だ到達しないから今遽に斷言し難いが、英佛が其社會黨代表者を参加せしめる事を防止した等そこに種々な困難あるも、同大會は開かれる事は必ず開かれると信ずる。而して茲に見込みがあるが故に延期したと云ふのと、見込みがない故に延期したと云ふのと兩様の見解が成立するが、彼等之の旨は同會の決議が講和を直に促進せしむると云ふよりは、世界平和の爲に一步を進め得れば可なりと云ふにあるであらう。乍併講和が何時成立するに拘らず、戦争の終局に就いては社會黨の運動が一大勢力となつて現はれ、戦後社會黨が益々隆盛に赴く可き事は認め得られる。先づ初め獨逸の社會黨が参戦案に賛成したのは、全然反對側に立つて了へば講和成立の時に政治の圏内から除外されて了ふ虞あると、又社會黨員たるよりは國家危急の際獨逸國民たる事の方が重いと云ふやうな議論もあり、而して一方獨逸の参戦は露國に對する戦争であり、ザーの專制政治を叩き潰す爲には如何なる犠牲を拂つても前進せざる可からずとの説を爲したのである。米國は歐洲の大戦は民主對專制主義の戦争なりと云ふ理由で参戦してゐるが、是は獨逸の社會黨が當初唱説した所である。而して今やザーの專制政治が廢滅されたから單獨講和は成立し得可き機運に向つてゐる。今國際社會事務局の戦前の調査に依るに、獨逸社會民主黨九十七萬人、奧大利社會民主黨二十九萬人、伊太利社會黨四萬人、セルビア社會民主黨三萬人、佛蘭西聯合社會黨八萬人、露西亞社會民主黨十六萬八千人、全社會革命黨不詳、白耳義社會主義勞動黨二十二萬人、英吉利勞動黨百五十四萬人、同社會黨二萬人であつて議員投票數獨逸四百二十五萬、奧大利二萬五千、佛蘭西四十萬、露西亞八十萬、英吉利三十七萬、白耳義六十萬等である。而して選出議員は獨逸百十一人、奧大利八十二人、伊太利四十二人、セルビア二人、

佛蘭西百一人、露西亞十二人、自耳義三十九人、英吉利四十二人である、獨逸では千九百十四年の議會で軍事費協賛の時社會民主黨員中少數者は反對の態度を明かにし、昨年三月分離して社會民主協働團を起した爲め前記議員數八十九人に減じた。其後平和論益々提唱されるに至つてスバルタクス團、國際團（萬國團）之に合して獨立、社會民主黨と稱し、今年一月七日ライプツヒに會合を催したのが、抑も今回ストックホルム社會黨國際大會を開催せしめる機運を作つたのである。而して埃太利に於てもフリードリヒ・アドラ、ザイツ、レンナー等が之に呼應し、革命によつて大勢力を贏ち得た露西亞社會民主黨と三角同盟を形成する状態に至つたのである。斯くて平和を促進せしめたのは社會黨の力であると云ふ事になれば、此一事のみにも大戦後社會黨は歐洲政治界に優勢とならざるを得ない。況んや大戦中軍費食糧問題等よりして經濟組織に多大な變化を來し、社會的或は自給自給的軍國的となつて來てゐるから今やつてゐる此組織が全部戦後に適用せられるものとは見ざるも、必ずや其大部分の政策が續行せらる可きが故に、戦後各國の經濟状態は社會的或は社會主義的となる事は斷言するに難くない。故にカール・マルクスの云ふ社會崩壊説を文字通りに受入れて、舊社會が全然崩壊したとは云ひ得るまでには行かざるも、從來の如き資本的經濟組織の危險にして國民一般に適せざるものと斷定するも過言ではあるまい。即ち從來の資本家本位の組織を改め國民多數の利益を見てかゝる所の變つた經濟組織を必要とするが故に、社會主義の提唱する所と著しく合して來るは看易き理である。斯くて社會黨の幹部の人達は新しき人材として英のヘンダーソンが入閣したるが如く、少くとも獨逸に於いても社會黨員を招致して入閣せしめざるを得ざるに至るであらう。

|| 大正六年六月十七日『中央新聞』掲載 ||

### 附錄三 眞劍の獨逸

講和の時機は將に到來した、ウキルソン大統領と獨逸との問答は斷じて昨日の本紙（國民新聞）に於る武者小路君の觀察の様な弱弱問答ではない、獨逸が誠意を以てした應諾することは見えすいてゐる。第三項の撤兵も無論斷行する、聯合國は西部戦線の戦捷を誇つてゐるが獨逸は決して敗てゐるのではない、撤兵の豫備行爲である豫定通りの退却である。ウキルソンの反問は獨逸にとつて渡りに舟である。第四項の裏面には明かにカイゼルの退位を意味してゐると同時に皇太子の即位せぬ事をも含有してゐるのである。由來國體から論ずれば獨逸の退位は露帝の退位と根本的相違がある、獨逸とは謂へどカイゼルは聯邦參議院の議長に過ぎぬからである、而もカイゼルの退位は些かも屈辱でない、却てカイゼルの人物をして終りを完うせしむるに至るのである。日本人がカイゼルに對しての觀察は全然誤つてゐる、獨逸の世界的野心なる者はカイゼル一人の事ではない況獨逸國民性の發露である、夫れ丈け現下の獨逸國民はカイゼルが世界に悪罵嘲罵されるればされる程、カイゼルに同情し崇拜するのである、今がカイゼル退位の好期節である、退位に依つて國民の同情を得るは延いてはカイゼル一身のためホーヘンツォルレン家の爲めである、又獨逸宰相、『獨逸及び國民の名に於て』と聲明してゐるが、斯の如きは獨逸帝國として未だ其例を見ざる重大意義ある事である、此誠意を以てして尙ほウキルソン大統領が斷乎として拒否するならば、ウキルソンは即ち虚言者であり氏の滅亡の時である、ウキルソンは自己の面目に懸けても講和を成立せしむる強固な決心と重大な義務がなくてはならぬ。私は講和の近く締結される事を固く信じて疑はない、或は獨逸は講和のために一步進んで共和國とならぬとも限らない。目

下の獨逸は世人の想像してゐる様に軍國主義を抱藏しては居ない、獨逸人の思想は根本的に一變して來たのである。

||大正七年十月十六日『國民新聞』掲載||

### 附錄四 獨逸日本を恐る

ウキルソン大統領の回答否な忠告に對し獨逸は條件全部を容れて愈々戦線を撤退すると迄云ひ出した。私をして忌憚なく謂はしむるならば、獨逸の屈服はウキルソン大統領が屈服せしめたと言ふよりは、寧ろ獨逸がウキルソンの回答を渡り船としたに過ぎない、獨逸は既に昨年十月に於て講和を爲すの用意が在つた。其は獨逸帝國內に於るプロシヤ對ババリアの關係に於てババリア出身のヘルトリング伯が宰相となつた事。第二は最近バーデン公が宰相としてヘルトリング伯の後繼者となつた事で、是が獨逸の民主化の歴々たる證據である。獨逸は西部戦線に於て退却してゐるが是は敗戦の結果でなくて講和の爲である。最近の英國の經濟雜誌ステーチストは曰く、獨逸が戦ひ敗れての退却ならば聯合軍は何故に其退路を斷つて獨軍を撃滅せぬか、然るに文字通りの豫定の退却をさせてゐるではないかと。此の公正なる見地は大英國の雜誌に於て初めて見られる處で、私も全く同感だ。其他最近バルカン方面に起つた政治變化は、云ふ迄もなく獨逸屈服の準備であつた、大戦に於ける米國の地位は戦局に於てよりは精神的に優越なる地歩を占めて居た。獨逸人にして米國に親屬を有せぬものはない位である、獨逸人は戦ひ破るとは毛頭思つて居ないが、米國人を敵としてより、大戦をする事を欲せない、獨逸人は米國を敵とせんとして敵としたのではなく、他聯合國と戦

はんとして遂に敵とせざるを得なかつたのである。であるから米國が大兵を進めざる前に西部戦場に於て英佛を屠らんとしたが、事志と違つて米國人は戦はざるを得なくなつた。獨逸は是より戦意頓に衰へたのであつた。而して六月末突如在米獨逸國民同盟は解散した、そしてその巨萬の基本金は米國赤十字に寄附し獨逸人は盛んに我劣らじと自由公債に應募した、在米獨逸國民同盟は何故解散したか志を全く翻へしたからである。其宣告する處によれば、米國に居れば我等は米國人だ獨逸人ではない、今迄の行動は全く誤つてゐたと云ふのである。獨逸國民同盟の解散は米國官憲の外部的壓迫からでなくて自發的である、此の數百人の會員を有する大同盟が一夜にして解散す、其の影響が獨逸に與へた心理的變化は蓋し大したものであらう。私は此の時愈々獨逸の屈服近きありと見て取つた、米國と共に獨逸屈服の大動機を造つたものは日本の出兵であつた。素より日本の出兵は小規模なものであつたが、獨逸は戦争が此上長く続けば日本の大軍の出動を見ねば止まぬものと見て居た、獨逸は戦ひ敗るとは（日本に對しても）必ずしも思つて居なかつたが、プレストリトスク條約で得た歐露方面の利益は、今次獨逸が此大戦に於て得らるべき唯一の利益である、之さへあれば西部戦場や巴爾幹に於て一物をも利益せずとも良いのである。此獨逸の經濟的に頼みとする露國に日本の大軍が殺倒する時は露國の勢力は必ず日本に屈服し、茲に獨逸の勢力は政治的に經濟的に全く驅逐せられるのである、之れ獨逸が講和を急いだ所以の大動機である、又獨逸の對日感情は近來全く變化し青島事件を忘れたるものゝ如く日本に對し思ひを寄せてゐる。此の日本に對し更に精神的に戦はんとする事は一般の獨逸有識者の欲せざる處であつた。獨逸は巴里や倫敦を屠らざる限り、幾ら戦つても自佛に於て一寸の地をも得られざるを知つて居る、獨逸が戦線を撤退するのが何で苦痛であるか、此くの如く大戦に於ける日本の地位は獨逸屈服の大動機となつた事は、

### 附錄五 空ノ洞の獨逸

謙讓の善徳ある日本も豫め心得て然るべきであると思ふ。

大正七年十月十七日『中央新聞』掲載

## 附録五 空の洞の獨逸

獨逸が平和の克復を期して世界に經濟戰を挑まうなどと云ふ議論もある様だが、其れは思ひもよらぬ謬見である。過去四ヶ年に亘る大戦は物資の限りを軍需用に使用し切つた獨逸の現状は、切詰算段に依つて脈を保持してゐる苦境にある。戦後獨逸の商品が堤を決した様な勢で滔々として輸出されるかの如く喧傳されてゐるが以ての外の事である、其様な餘裕は毛頭ない。獨逸がダムピングに依る經濟戰を執行して世界を風靡せんと思つたのは、既に戦前の事に屬してゐる。今日の獨逸國民は心理的に經濟上侵略的精神を喪失してゐるのである。戦後獨逸はより益々總の物資に窮乏を訴へて其輸入に急なる事は火を棍るより明かである。戦時中の國民は緊張した氣分に押へられて如何なる困難、苦も隠忍してゐた。是は百年前の英佛戦争後の事實が證明してゐる、輸入の急を要する獨逸は決して世界に向つて經濟戰を開始しやうとは思はれぬと共に、英國は其標榜した從來の自由貿易は封じて獨逸流となり、獨逸は現在の英國に近寄つて英國式に自由貿易を奨励するに至るであらう。一方平和と同時に獨逸の緊要事は、大戦に注入した資本の回收充實であらねばならぬ。産業を復興せんとしても無資本で成立せず。戦場の軍隊を復員しても與ふべき仕事がないといふ悪結果を招致する。獨逸の資金充實は實に國民的大問題である。夫れには資金の輸入を要するので、随つて對外親善を圖らなくてはならぬ。日本人は對外輸出のみで一國經濟の膨脹をなし得るよう考へてゐるが決して

さうではない。貿易の盛衰經濟界の消長は繫つて輸入の盛否如何にある、輸出は輸入の副産物に外ならない。以上の理由を以てすれば戦後獨逸が世界的經濟戰の開始と否とは敢て贅言を要すまい。日本が獨逸の對外商戰に脅かされて其見地の下に經濟政策を樹立せんとするが如きは甚だしい誤解愚の骨頂と云ふ可きである。反對に英米は著しく門戸閉鎖主義を採らう、英國は自由貿易の非を悟り殊に食料輸入の不便と不利益を知り、必ずや國內供給の方途に出づるに違ひない。一方更に金の自由市場と稱せられ世界金融の中心市場と稱せられ世界金融の中心市場であつた英國は、同じく其危険なるを感知した結果、本年八月廿六日に於て廿七億圓餘の不換紙幣を發行し、又兌換券は八億七千萬圓に達してゐる。英國は戦後此巨額の不換紙幣の整理をしなくてはならぬ。されば當然金を要するのである、隨つて金の輸出停止を餘義なくせらる、即ち英國は對外投資の自由を奪はれる事となる、其結果は如何であらう。英國を唯一の頼みとしてゐた世界の貿易状態は俄然一變するに至る。就中直接影響を蒙るものは我邦である、九月三十日現在に於て我邦は九億四千萬圓の在外正貨を有してゐるが、其大部分は英國にある所で、英國の正貨はと見れば英蘭銀行並に國庫を合して僅々九億八千萬圓に過ぎぬのである。戦後我邦が如何に背筋を立て、返済方を迫つても、英國が即時に應じ得ぬのは明白である。此一事を以て見ても、戦後日本が如何に窮地に陥るかは蓋し想像に難くあるまい。

大正七年十月十七日『國民新聞』掲載

## 附録六 獨逸の月賦革命

獨逸を始めとして埃太利及匈牙利の擾亂は、今や外電の報ずる如く表面に現れ來りて、兵士労働者の革命運動は或は共和政治の要求となり或は議會を包圍し、又或は軍隊反亂を起しつゝありて事態は正しく露國革命と同一の色調を帯びて來た。元來獨逸には近世社會主義の開山マルクスの出でて以來、社會共產主義運動の中心となつて居たが、何分軍國主義にして國民亦獨逸文化を世界に布かんとするものあり。之が爲め獨逸社會黨は軍國主義汎獨主義との争闘に時目を消し革命を誘發する暇と力がなかつたのと、一は獨逸の政治家は社會主義者の經綸を採用して之を實際に行ふので、社會黨の力の如何なるものであるかは未だ一般的に傳へられずに居た。今回の露國革命に對する獨逸社會黨の同情は大したもので、露國革命と云ふも事實は獨逸の革命で、レニヤトロッキの主義精神は獨逸社會主義精神で、要するにマルクス主義の勝利であつた。獨逸の社會主義は二三箇月程前から中欧同盟諸國に全く浸潤し國民の戰意を全く消滅せしめたのであつて、此當時獨逸には既に立派な革命が起て居たが、其革命は月賦濟し崩しの革命であるから、表面や外間には激烈に現れては居なかつたけれど、之を總勘定すれば優に暴力に訴へた革命に優るのである。而して獨逸革命の特色はロシア革命の如く政治革命を終へれば直に社會革命に移るもので、此機會に於て獨逸は全然赤裸々な姿に還元して來るであらう。故に革命の獨逸は殖民地も捨て支那も捨て領土的野心も捨て、裸體の姿を以て聯合側に對せん意圖であるから、カイゼルの退位の如きは今に於ては問題にならぬ。埃太利から匈牙利が獨立する氣勢が看えるが獨立さすであらう、チエツホ・スロヴァツクも必らず獨立するであらう。皆獨立して思ひ思ひの行動を執るであらう。獨逸は今や領土的に又政治的に異分子を包含する國を引廻して重荷を負擔し様とは思つてゐない。目下の獨逸に煩悶があるとすれば、如何にして獨逸革命を徹底するかと謂ふ事である。此場合弾力性だの復活だのを説

くのは時代錯誤の甚だしいものである。

大正七年十一月五日『中央新聞』掲載

## 附録七 獨逸帝國未來記

十四日付米國務卿ランシングの對獨逸回答の正文なるものを通讀したが、最も重要な點は『苟も別々に秘密裡に又自由に世界の平和を攪亂し得る專制的權力を破壊する事、又は若し此權力にして差當つて破壊する能はざるに於ては少くとも實際上無力ならしむる』と云ふ本年七月四日大統領がマウント・バーノンに於て試みた演説中に含まれて居る意味を反覆考慮せよと云ふ事である。從來獨逸國民を左右せる權力は、獨逸國民にして之を變更せんと欲せば之を變更し得る範圍内に屬する種類のものである。若し講和にして獨逸國民自身の行動によりて齎されるものとせば、今引用せられたる大統領の所言は自ら講和の先決條件を形成する。大統領の所見を てすれば講和成否の徑路は一に繋りて此根本問題に關する保障の明確にして、且つ満足なる性質のものなりや否やに在るさうである。米國としては現在の白熱的戰爭熱に對して之だけの事は謂はねば振り上げた鐵拳のやり場がないし、勿論大體に於て英佛とも協調した結果であらうと思ふ。獨逸としては專制的權力即ちホーヘンツォルン家が帝位を退く事は、武装解除よりも困難でない、或はホーヘンツォルン家の皇位繼承を中止するのみならず、皇帝の制度をも廢して獨逸が米國と同様な共和制度を採用するであらう。米國民は未だ戰場に於て眞の意味の戰爭をして居らず、戰爭は必ず勝てるものと思

つてゐるから、ウキルソンとしては現在の地位は頗る興味あるが、若し大勢の赴く處如何ともする能はず、獨逸が皇帝の制度を廢しデモクラシーの制度を採用する事になると、米國の輿論は茲に一變し獨逸に對して同情の念が起きて來るであらう。而して獨逸が次に宣言しそなるものはアルサス・ローレンの獨立承認であらうと思ふ。かくて佛國の戰意に對し多少緩和する方法を探るであらう、獨逸の苦痛としてゐる處は其手に持つ劍を奪はれる事である、言ひ換れば今日の形勢に仄見えてゐるケルン・メッツ、ストラスブルグの戦線即ちラインの守りを解除するので、之だけは承認に難ずるであらう。アルサス・ローレンの還附とか植民地の放棄とかならば或は之を承認しても講和を得んとするであらう。既に獨逸は屈服して積極的の戰爭は一切之を中止してゐる有様であるから、更に進めば一大復員令を發するかも知れない、獨逸は總ての條件に對し拒絶はせぬやうである。而して反對に同情を引くやうな條件を出して來るであらう。斯の如くにして曲折と折衝を重ねてゐる内には、英米佛の社會黨の運動も漸次熾烈となつて、茲に平和の輿論が喚起せられ或程度の處で妥協が出來ると獨逸が見てゐるやうである。尤も戰禍に苦むものは一人獨逸國民のみではないから、大抵の處で妥協が成立しようと思ふ。若し獨逸が屈服を重ねて而も之を承認せられず、愈々棹尾の決戦をなす事にもなれば、獨逸民族の破滅は云ふも更なり、英國も佛國もエライ事になるだらう、英國民佛國民がそれ迄忍耐せぬ事は明白である。

||大正七年十一月十五日『中央新聞』掲載||

## 十 勝者は誰か

||世界文明の危機と日本の使命||

今朝の新聞紙は獨逸のカイゼルが愈々退位したことを確報した。追記。夕刊の新聞紙はカイゼル之れを拒んだとあるが、其は唯だ暫くの時間の問題に過ぎぬと信ずる 我輩は大正七年七月末日『自主的出兵より自主的平和』後段四三二頁 てふ一文を草したとき、獨逸國內の形勢が俄然急變した事實を根基として、次の如き意見を立てた。

此度の戰爭は最早敵味方とも、何れの國の生存をも脅かす危険の無いことが明瞭となつた以上、全く無意味の戰爭となつて仕舞つた。故に我日本は此際西比利亞出兵と云ふ

如き時代後れの小策に腐心することを断然思ひ切り、世界の表面に立つて日本の重大なる使命を盡す可く、日本先づ自主的に進んで断乎として講和を主張して、世界の人類を戦争の惨禍より救ひ出し、世界文明の前に來んとする大危機を免れることを圖れと云ふ是れである。此論文は我輩が時々現戦争に關して新聞や雑誌に公にした意見が、或は誤解せられ或は曲解せられたに對し一々辯明するも無益であると思つたから、一括的に我輩の意見の總勘定を提示する積りで起草したものである。殊に吉野博士は我輩を以て『プロジアン』なりと詰責せられ、畏友室伏高信君は我輩は軍國主義を奉ずるものであると難ぜられ、ジアパンナドヴァータイザーの記者は我輩が *Macht doctrine* に心酔する者であると断定せられた。我輩が從來世に公けにした論文等を一通りでも讀まれた方々は、決して右様の批評を下さるゝことはないと思つたから、我輩は一々辯明することを必要と認めなかつた。殊に我輩が『デモクラシー』我輩は英米の形式的舊式『デモクラシー』を極力排斥するものである此に就ては『新らしい意味のデモクラシー』(後段收録)なる文参照。を徹頭徹尾毛嫌するものであると云ふ批評の如きは餘りに曲解も甚だしいのであるが、其れに對しても敢て答へなかつた。而して右の『自

主的出兵より自主的平和』なる拙文を一覽せられた方々は、我輩があらゆる口實の下に於る戦争を絶對的に人道の曲事と認める事を十分に看取して下さつたことと思ふ。然るに一犬虚にほへて萬犬實を傳ふ、ジアパンナドヴァータイザー紙は甚だ親切にも自主的平和論を始め我輩の意見を時々其誌上に譯載して下さつたが、偽善と洞喝とに目の眩んだ西洋人の中には、我輩の説を曲解して極端に誣妄の批評を罵詈譏を敢てして居る者がある。例へば十一月號の『サーチャライト』なる英文雑誌の如きは、福田は *German pay* に在り(獨逸に買収せられたり)とさへ書いてあつた。猶此の雑誌發行者は其の後問もなく國交に害あるものとして我政府から退去を命ぜ併し誤解を一々辯明するは無用である、況んや故意の中傷譏られた由新聞紙は報じて居る 誣をや、我輩は此等を悉く一笑に附するものであるが、近頃聞く所にては英國のマンチェスターガーシアンや米國の某々新聞紙の如きさへ明かに我輩の名を記して誣妄の評を加へて居るさうである。我輩一個の迷惑位は何んでもないが、此れが爲め我邦の誠心誠意を聯合國民が誤解するやうのことがあるとしたならば、其は甚だ残念な事である。

二

我國民が英米政治家の言動を批評したとて其は決して聯合國に不忠なるが爲めでない。否英國に在つては例へば『ステータスト』誌の如きは極めて忌憚なく國民の缺點や議會の迷惑や政治家の無能や不信を毎號々々攻撃非難して居り、又正義人道の空言斗りで世界の平和の確保せらる可きものでないを繰り返し主張して居る。試みに近頃の號のみに就て見るも左の如き文字を散見するのである。

先づ英國の財政經濟政策の根本的に誤れるを論じては曰く、

『倫敦は加奈陀濠洲の開發に必要な資金を供し得可きやと言ふに戦前一二年前ならば我々は慥かに然りと答へ得可し。然るに

*but seeing how utterly unprepared the whole military and naval organisation of the Empire was; how absolutely ignorant the two Governments have been that have mismanaged our affairs since the mid-summer of 1914; and how difficult it is to force the manner in which wealth can be created that will*

*supply our own home wants, and all the wants of the Dominions of India, and of the Empire, he would be an exceedingly bold man who would venture upon a definite opinion as to what will happen. If a genius of the very first order were to arise; if we were all clear-sighted enough to recognize his greatness as a genius; and if we were humble-minded enough to submit ourselves to his guidance, we do not doubt that the problem would be successfully solved. But suppose the genius does not arise and suppose a number of Mr. Arthur Balfours and Mr. Asquiths go on contending which is to be allowed to muddle our affairs, what will happen? In all reasonable probability we shall fail to reduce our debt rapidly. We shall quarrel amongst ourselves as to what we are to do, and we shall gradually sink. In that case the United States and Japan would rise, and in a generation or two people would moralise upon the rapidity with which great nations like England and Germany had decayed. The real question then is, Have our public men who are visiting us from the outer world really considered all the great questions that we ought to solve, and are they capable of overcoming our stupidity and inducing us to take a reasonable course? As for our public men—will, the past four years warn us not to put overmuch trust in their management, in their foresight or in their conceptions. Statist Vol. XCI.—No. 2103. June 15, 1918. pp. 1025—6.*

我帝國の陸海軍組織の全部が如何に全く無準備なりしか、千九百十四年中夏以來我國



事を誤導したる兩内閣が如何に絶對的に無知なりしか、而して我國內の需要と凡ての領地の需要とを充たす可き富を作る事が如何に困難なるかを考ふる時は、今の時に方つて我邦の將來に關して一定の説を下すを敢てする人は極めて大膽なる人なりと云ざる可からず。若し英國に第一流の天才者が起るならば、而して我等が皆彼の天才としての偉大を認む可く先見の明を有し、又此天才者の指導に我々を託す可く謙遜なるならば、吾人は此問題は解決し得べきものなるを疑はず。然れども如此天才者にして起ることなく依然としてアーサー・バルフォア輩何人、アスキス輩何人か、寄り集つて國事を玩弄することを我々が許すならば、果して何事が起る可きか。凡ての合理的確らしさに於て吾人は我國債を速かに減少する事に失敗す可し。而して我々は相集つて紛々として何を爲す可きかを互に相争ふ間に我國運は衰頽に陥る可し。然る場合には米國と日本とは勃興す可し、而して一二代にして人々は英國や獨逸の如き大國民の衰頽が如何に迅速なるかにつき種々説法を始むるに至らん。眞實の問題は實に是なり。外來の我政治家(濠洲首相ヒューズ等を指す)は眞に吾人が解決するを要す

る凡ての大問題を熟慮したりや。又彼等は吾人の痴愚に打克ち、吾人をして合理的針路を取らしむ可く導くの能力ありや。遮莫過去四ヶ年の經驗は吾人に教ゆるに英本國の政治家の指導先見思考には餘り大なる信賴を置く可からざることを以てす。(二一〇三號(大正七年六月十五日)『帝國戰時内閣論』の一節)

英國民の缺點を指摘して、

我國民の弱點は第一は一週中二三日をスポーツや週末旅行に費し、残り三四日間のみ働く怠惰にあり、第二は我國民の無智にあり、第三は我國民の倨傲自恃の甚だしきにあり(同號『戰後論』の一節)

特に日本に就ては、曰く

太平洋の彼岸には日本列島と稱する長き島嶼の列あり、此列島は元は日本の出生地なりしも、今や眞の日本は此出生地を outgrow して大陸に日本を擴張したり(二一〇四號『太平洋論』)

又ヒューズとウキルソンとを評しては

濠洲首相ヒューズはウキルソン大統領と共に外交手段によりて將來戦争を根絶す可き國際協約を成立せしめ得可しと信するが如し。吾人は之れを信ぜず。今の世界は社會をして安全に生活せしめ得べき社會組織を探索しつゝあるなり。否此の探索は希臘の都市國家の倒壞以來繼續して存せり。而して吾人今日未だ之を發見せざることを希臘時代と寸毫の距りなきなり。

ヒューズにして外交手段は戦争發起人の齒を抜去り、吾人に永久の平和を與へ得べしと信するものならば、吾人は恐る、彼が今倫敦に在るは、彼の代表する濠洲人の幸福を寸毫も齎らすことなくして終る可きを。(同號『戰後論』)

怠惰なる富豪の跋扈を難じて曰く、

不幸にして當時内閣の首班に一人のバルフォアなる人ありて、議會をして何事をも爲さざる事に決心せしめたり。而して吾人は又一人のカーズン卿なる人を有して、アルスターをして、内亂を起す可き準備を爲さしめたりき。否吾人の不幸は此に止まらず、英母國の政府は其の一生中一事をも爲すことなくして終る底のアイドルリツチ(惰

富階級)の手に在るなり。(二一〇五號『戰後論』)

グレイ卿を難じて

不幸にしてグレイ卿の無能なること彼の後任者の凡ての無能なるが如く然り。(二一

〇八號『若しも吾人にして賢かりしならば』の一節)

獨逸の長を擧げ英國の短を慨いて曰く

吾人の敵(獨逸)は實に頑強に而して如何に能く戦ふ可きかを諒解す。否吾人は正直なる率直を以て告白せざるべからず。我敵は實に勇敢に戦ふことを熟知するものなり。而して此敵たる數代の間十分に準備したる強敵なるに、我聯合軍は佛國軍を除くの外には一人の有能なる將帥をすらも有せざるなり(二一一三號『形勢一斑』)

政黨の罪過を指彈して

以上より吾人の學ぶ可き教訓は、準備の義務を全然怠りたるアイドルリツチ(惰富階級)を永久に英國の政界より驅逐せざる限りは、彼等の罪惡は又た吾人の共に負擔するを免れざる所なることは是れなり。最も責む及きは保守黨のバルフォアなり、自由

獄も同罪也。然れどもバルフォアの愚策を反駁せざりし國民も亦責を分たざる可からず。(二一一三號『軍事的準備論』)

政治家の無能無爲を難じて、

獨逸の行動は意外なりしと公言する我政治家等は、取りも直さず其の義務を怠りたるものなるを告白するに外ならず。彼等は新聞記者丈の調査をすら成し居らざりしなり。此くの如き政治家には當時も今日も共に斷じて國事を託す可きに非ず。(二一

二四號『露國と聯合國』)

現議會の違憲なるを論じて、

我現議會は何等眞正の選舉民を代表するものにあらずして、唯だ自己を代表するもののみ

*It has no real mandate from the people, and what is more, it represents absolutely nobody but its members (同號『來る可き選舉』)*

副者は以上の數節を我々日本人が英國批評論として公言する所と比較して、何れがより、

多く露骨にして何れがより、痛激なるかを直ちに悟られるであらう。『ステイチスト』は英國言論界の一人である。決して矯激無責任の言論を弄する黄紙ではない。而して言論取締の峻烈を極むる英國の檢察官が、以上の言を載せた雑誌に一回の禁止も停止も申渡さず、毎號安全に普通郵便によりて遠く日本に在る我々の机上にまで來ることを許してあるのである。

## 三

然るに以上より遙かに微温的な批評を下す我日本人の言論に對して、獨探呼りをすると云ふは、如何にも其人々の不見識を表明するものであるが、其は政略の爲めとして論外に置くとするも、公平なる可き學者迄が妄りに人に對して、プロジァーマン呼りをなして、暗に道德的壓迫、心理的威壓を加へようとするのは怪しからぬ事である。否日本の學校に獨逸教師を置くを不可なりと公言する姉崎博士の如きあるは、實に我々に於ては諒解し兼ねる所である。又博士は東京に在る『獨逸協會學校』を以て、獨逸の野心機關である

如くに公言せらるゝ甚だ以て不都合であると信ずる。博士曰く

“Yes, there are a number that teach—to-day—and I am very glad that you have called the attention of the Government to this in your magazine……the middle schools of the nation, however,——and some of the private educational institutions——are employing Germans at the present time and I agree entirely with you that this should be stopped. Furthermore there is here in Tokyo a middle school that is known as the Doitsu Kyokai Gakko……is, of course, very pro-German.”

但し右は退去を命ぜられた怪米人モットなるものゝ説に全然同説同感なりとして、同人に對し博士が語られた所なりと云へば、或は同人が故意に曲筆したのかも知れぬ。私は寧ろ其然らんことを切望するものである。何となれば、博士が眞に此くの如き愚言を吐かれたとしたならば、其は日本の學界の恥辱たる外はないからである（博士の言なるものには、此以外にも甚だ驚く可き事があるが左迄はと打捨て置く）。

四

正義人道を標榜する英米人の中にも、心事の甚だ陋劣なるものあること、獨逸人の中に之れあると少しも異ならぬ證據は、右の外にイクラもあるが、殊に近頃言論の壓迫をリンチ的に極行することは驚く可きである。民本主義の言論を壓迫する吉野博士が、プロシヤリンチではないか。此事は三井甲之氏が論イマン等と他人の言論を威壓せらるゝも、一種のじて下さつたことを茲に改めて御禮申す。而して人權を尊重すると稱して、其實極端なる軍國主義を實行しつゝある米國に、最近次の如く驚く可き事が行はれたは、吉野、姉崎兩博士其他數多き米國謳歌論者と雖も、否定することの出來ぬ儼然たる事實である。

『千九百十八年九月四日紐育に於て四萬五千人の大捕縛』

紐育及近郊に於て兵役關係登録證票を携帶せざる賑を以て、一日中に捕縛せられたる人數四萬五千、其内譯はマンハタンに於て約一萬人、ブルークリン及クインズに於て一萬、ブロンクスに於て二千二百人、ホボケン及北ハドソンに於て二千人、ジアースーシチに於て八千人、バセイクに於て千三百人、ニューアークに於て一萬人等なり。一時に

四萬五千人の捕縛ありし爲め之を收容す可き所なく、不得止學校公衝を一時之に充てたれども、夜に入りて食事を供するに大困難を感じ、殊に寢臺に至りては到底足らず大混雑を極めたり。司法省の當該監督官チアレスドムデーは右檢舉の結果を満足す可きものなりと公言せり。然れども眞に違法のものは極めて少數なる可しとは當局者すら公言する所にして、唯身邊に登録證票を携帯せずとの廉を以て何れも收監せられたるなり。或る非番巡査の如きは長官其無罪なるを證明したれども、生憎細君不在にして自宅に在る證票所在不明の爲め一夜を收監所に費し翌朝證票到着して漸く釋放せられたり。其の他之に類する挿話は無數なり』云々。

實に亂暴千萬な話であつて、我邦でも米騒動の時随分珍談があつたさうであるが、右に比ぶれば迎も話にならぬ。試みに思へ、某月某日の朝東京の辻々に陸海軍人隊を爲して出現し、通行する丁年以上の男子を悉く誰何して身邊に兵役關係證票を携へざるものは直ちに皆之を捕縛して牢獄に投すること其の數四萬五千人に及ぶとせよ。國民は果して何と云ふであらう、否外國人は之を何と評するであらう。而も是實に正義人道を高唱し

つゝあるウキルソンの下に於いて、紐育市に於いて白晝公然と現に起つた出來事である（在米本邦人の歸朝を極端に妨ぐるも同一筆法であらう）。我輩は此の記事を米國新聞で一讀して嘔然たるもの多時、言辭の出づ可きを知らなかつた。此くの如き状態に對して批評を下すことは果してプロジアイマンであるか。英米に對して故意に惡評を逞ふする所以なるか。是が『デモクラシー』であるならば、我輩は最も熱心なる『デモクラシー』反對論者となる可きを明言する。是が人類獨立の宣言の實行の一法たるならば、其様なる人類獨立には斷然反對する。此れ我々の良心が我々に命令する所である。而して此くの如き虚偽なる『デモクラシー』の敗滅を切望するに於て、我輩は斷じて人後に落ちざらん事を誓ふものである。我々は英國にも米國にも實に數へ切れぬ程の美點長所のあることを十分に認めるものである。其と同時に又た數へ切れぬ程の惡事弊害のあることを十分に認めざるを得ぬものである。獨逸に就ても全く同じである。獨逸には實に想像だも及ばざる長所美點があると同時に醜事怪事も亦無數にある。殊に國として弱點の著明なることは到底英米の比ではない。此事前段の一文に於て稍詳しく指摘して置いた 國民の性格

にも缺陷あり社會にも缺陷があるが獨逸の第一の弱點弊所は其國家組織の上に在る。而して其れが今やカイゼルの退位によつて的確に證明せられたのである。我々は勝ち誇る軍國主義の獨逸よりも屈辱的なる講和を受諾せんとする獨逸に對して甚大の注意を傾むくことを禁じ能はぬものである。 Japanese Germano-maniac だとか "macht doctrine" の崇拜者だとか我輩を評して呉れられたジアパンアドヴァータイザー記者は、予の此の一文を終まで讀まれるれば、必ず其言を撤回する必要を認められることゝ信ずる。

## 五

憲政會總裁加藤子爵は近頃大演説を試みられた中に『當時獨逸の武力を過信したる輩の内には正面反對を口にせざるも、或は諷示的に或は陰口にケチをつけて、暗に參戰を難するが如き風ありし人々も少からざりき。原氏の如きは現内閣の外交方針憂慮に堪へずと屢々口外せられた爲め、幾度か其憂慮に堪へぬ理由の説明を求めたるも、終に其以上聞くを得ざりしが、或は獨逸の實力を過信せられたる結果斯く口外せられしにあら

ざるか。是れ或は我輩の思違ひなるやも知らねど、其末輩と云へば失禮ながら、兎に角原氏の下に當時も今も尙立派なる位置にある一人が明瞭に此ことを言明せられしは我輩諸君の今に記憶に新なる所ならん、我輩は當時より結局獨逸の敗北を確信せるが故に聊も斯の如き憂慮なかりしも獨り我邦のみならず世界各国又斯く過信しつゝありし人の相當に多かりしは事實なりしが如し（中略）我輩一個人としても先づ切腹申譯を免れたることは喜ばしきことなり』云々と言れたやうである。十一月十一日の東京朝日新聞記事による。加藤氏は日獨開戦の責任者であるから、今日獨逸の屈辱的求和を以て切腹免除の特典を得たるものとして喜ばるゝ權利はあるであらうが其他之に類する言を爲す人は澤山にある。或はタイムスの口眞似して、獨逸は battle には勝つ可きも fight には敗けるに相違ない、杯と云つて居た人も少からずある。萬朝の雜報かによれば、政友會出身の某省祕書官は原敬氏が獨逸は必ずしも聯合軍に敗けるとは限らぬと云ひしに對し、否獨逸は必ず聯合軍には敗けると豫言したが如何だ。我輩先見の明はエライだらうと云ふ意味の事を公言せられたそうである。此等の人々は今の獨逸の屈辱的求和を見て皆威だけ高になつて先見

の明をイクラでも誇り得る権利あるものと自信して居るであらう。之に反して參謀部其他に於て、獨逸は必ずしも敗けざるべしと豫言した人々は、何れも豫言が大外れとなつたものと信じて坊主にでもなるか、穴あらば潜り込み度いとも思つて居るかも知れぬ。然し乍ら此等の人々は、其結論に進入する以前先づ篤と胸に手を當て、「勝者は誰か」との間を十分考へたであらうか如何か。獨逸の屈辱的求和は獨逸が聯合軍に敗け、聯合軍が獨逸に勝つた爲であるか否かを吟味することなくして、直ちに受取ることには出来ないのである。勝者は果して誰であるか。

## 六

公平な立場から見れば、勝つた者は決して聯合軍ではない。成程最近二三ヶ月間聯合軍は西部戦場に於て若干の成績を収めた、而して獨逸軍は退却した。乍併獨逸が聯合軍に敗けたから退却したものと、思ふのは早計速断である。聯合軍は勝つたから進出したものと計り考へては事實に相違して居る。言を詰めて言へば、寧ろ反對が事實である。

即ち獨逸が退却したから敗けたのである。獨逸は戦争を欲せなくなつたから退却したのである。敗けんと欲したから退却したのである。敗けて退却したのではない、聯合軍は獨逸軍が退却した跡へ進出したのである。獨軍が敗けたのが原因、退却は其結果たるよりも、退却が原因で敗北は結果である。聯合軍は勝つたのが原因で進出が結果たるよりも、聯合軍の進出が原因で勝利は其結果である。否、獨逸は敗戦したから講和を求むるのではない、講和を欲するから敗戦をしたのである。

## 七

獨逸軍が西部戦場より退却す可きことは、本年の六七月頃から公平な觀察者には疑はないことであつた。果して獨逸は退却し始めた。而して聯合軍の大勝利なるものは其後に起つたのである。獨軍の退却愈々急なればなるほど、聯合軍の勝利は愈々大勝利となつたのである。其勝利は落し物を拾つたやうなものである。然り聯合軍の大勝利とは拾つた勝利である。自分の努力も無論加はつて居るが、自分の努力斗りで此勝利を得

たものとは、フオツシュ元帥始め當事者は決して夢想だもして居らぬこと、信ずる。若し左様思ふならば其れは甚しき『自己誣妄』Self-judgmentである。即ち此度の大勝利の最大原因は聯合軍の能力には存せぬ、獨逸軍の退却の決心に存するのである。

## 八

退却の方針は本年夏に於て看過す可からざるほど顯著となつた。我輩は七月の末に接手した歐米新聞によつて之を知り得た。是れ七月の末に於て前述の『自主的平和論』を起草した所以である。即ち我輩は獨逸はモハヤ戦争を中止す可く衷心より覺悟したるものなるを知つた。故に大抵の條件なれば獨逸（并に填太利も）は必ず講和の相談に應ずるものなりと思つた。故に此際に於て我日本が自主的に斷乎として講和を主張する『ハイタイム』なりと確信した。此論は不幸にして當局者によつて顧みられなかつたのは、今に於いて我輩の甚だ残念とする所である。而して當時は外交問題に就て政府が甚だ神經過敏になつて居るからとの『中外』編輯者の老婆心から、我輩の意見の重要な部

分を削除したが、我輩は次の如く考へたのである。我日本は聯合國及獨逸に對して左の如く提議す可きである。

『此度の戦争は我々聯合國の側に於ては獨逸の軍國主義を滅すことを目的として標榜して居る。然るに今や戦争四年に涉りて決せず、敵味方共に人民の惨苦は極度に達して居る。實に人類文明の大悲惨事である。若し獨逸にして其軍國主義を一掃するの誠意さへ明となれば、もはや此戦争を繼續するのは無益と思ふ。仍て我々は決して權利として又は要求として之を強請するのではないが獨逸に於ては先づ軍國主義の代表者と看做さるゝ現カイゼルに忠告して退位を求めることとし、又た佛白の領土に一の野心なきことを明かならしめる爲めに、自發的に佛白より獨逸軍を悉く撤回し、而して此の戦争の爲めに最も大なる犠牲を拂ひたる佛國聯合軍側にありては最も健實勇敢に奮闘したる佛國に對し、獨逸は甚深の敬意を表す可く、佛獨間多年の紛亂の基たるアルサスローレンの領土權を舉げて之を聯合國に引渡し、其處置に一任することとし、而して以上三項實行の曉に於て隔意なく誠意を披いて講和談判を始めることとし



ては如何。』

是れ極めて公平なる提案であると思つた。カイゼルの自發的退位は、カイゼルをして却て其の終を全からしめる所以、彼と雖も暫時カイゼルとして残るよりも、永久に國民感謝の記憶裡に生くる國民的英雄たる方の遙かに勝れるは十分悟るであらうし、佛白よりの撤兵は領土的野心を捨てた獨逸に取りて當然の事と思つた。アルサスローレンの抛棄は佛獨間永久の平和の大保障である。而して我輩は獨逸の國民は右の提議が威壓的でなく好意的忠告的懇談的態度でなされるなら、而して特に其が今や獨逸が甚大の恐怖と而して尊敬とを表す可く始めたる我日本從來外交上に於てペテン權謀を弄したることなき日本、物質的利害關係は全く持たず、割合に公平なる立場に在る我日本の提議に出づる場合には甚大な注意を之に拂ふ可く、若しも獨逸政府が之れに耳を藉さざるに於ては、或はクーデターを起してまでも日本の提議日本の好意に應ず可しとの民論が勃興するであらう。少くとも南獨逸に於ては必ず然るであらう。然ればタトヘ右提議が具體的事實とならざる迄も、平和の到來を早めるに與つて非常の力ありと確信したのである。

從來從屬的地位にのみ立つて居た日本としては其れ丈けの結果を擧げる丈けでも大成功と云はねばならぬ。而して其は總て世界の正義人道の上に於ける、我日本の使命を盡くす可き第一着手であつて、我日本の世界に一國たる所以の決して偶然ならざることが、永久に世界の人民によつて認識せらるゝ所以であり、殊に向後最も親密の關係を保たざる可からざる露國と支那との民心上に、非常に善き影響を與ふることであると確信したのである。

### 九

若しも獨逸にして開戦當時の獨逸であり、獨逸の國民にして依然として舊態を改めざるものならざるものならば、右我輩の考へた提案の如きは無論愚人の畫夢に屬す可きは當然であつて、如何に我輩が書齋裡の一讀書生、講堂の一空論者であるとしても、左様なる無益な提議を爲すことを日本の當局者に求めるものではない。我輩が確信を以つて右の如き提議が相當の效果ある可しと思つたのは、其の前提として獨逸の國情が根本的に

一變し、殊に獨逸國民心理が徹底的に改造せられたものなるを認めたからである。此認識が一切を開く可き鍵である。

## 十

獨逸帝國なるものは日本帝國とは根本的に其成立を異にして居る。普魯西の某學者は主權は分割し得べきもの *teilbar* なりと主張して聯邦は其主權の一部を分割して之を帝國に委ねたのであると主張して居る。之に對してストラスブルグ大學に永く教授たりし某氏は、主權は分割し得べきもの *verteilbar* にして、分割し得べきものに非ずと主張したさうである（我輩は國法學の事は何も知らぬから或は誤つて居るかも知れぬ、先覺學者の是正を待つ）。之は我輩がミュンヘン大學に於てザイデル教授の講義で聞いた處である。而してザイデル先生はバイエルンの學者として聯邦の立場から之に斷案を下して講義して曰く、主權は *unteilbar* (不分割的) にして *unverteilbar* (不分配的) であると。是だけは我輩慥かに二回迄も親しくザイデル教授の口から聞いた處であるから間違はな

からうと思ふ。我輩は國法學上の主權論を紹介する爲に此ことを引用するのではない。獨逸の國情の如何なるものなるかを示めさうとするに過ぎぬ。即ち普魯西の學者は普國を本位として立論し、ライヒスランドの學者は統一帝國の立場から立論し、而して聯邦中普國と常に拮抗して居るバイエルンの最大の憲法學者は、聯邦を本位として立論して居る。學者の純理論と云ふと雖も、斯く其の居る所屬する所に從つて甚だ違つて居るのである。是れが實に獨逸帝國の國情を語るものである。

## 十一

經濟學の上から例を取れば、伯林のワグナー、シュモラー兩氏とミュンヘンのブレンタノ先生とは、又た右の如く政策上の見解を異にして居る。ワグナーは極端なる保護政策論者である。シュモラーは溫和なる保護論者である。ブレンタノ先生は純英國的自由貿易主義の急先鋒である。ワグナーはビスマルクの國家社會主義の學祖であり、シュモラーは官僚的社會政策の大使徒であり、ブレンタノ先生は英國流の民主的社會政策の代

表者である。故に英國が獨逸に宣戰するや、伯林の新聞中には『ミュンヘン大學のブレントノ今何の顔かある』等と惡罵を加へたものである。ブレタノ先生は獨逸學界に於て普く極端なる拜英主義學者と看做されて居つたからである。『中歐論』の著者フリードリヒナウマンはブ先生の門弟の一人であつて開戦迄は熱心にブ先生の説を祖述して居たが『中歐論』に至つて其立場を捨てたことはナウマン自ら公言する如くであつて、露國のトロツキも亦ブレタノ先生の立場に大に重きを置いて論じて居る。即ち同じ獨逸に在つても英國を敵視する著しきは普魯西であつて、バイエルンの如きはブレタノ先生の感化なくとも英國に對して敵意は持つて居らぬ、否寧ろ之を敬慕して居たのである。唯南阿戰爭以來著しく對英の民心に變化を來したことは、當時ミュンヘンに居つた我輩の自ら觀た所である。是は獨逸人の正當なる義憤の發露である。

## 十二

一事は萬事である、獨逸帝國は一ヶ國の如くにして實は決して一ヶ國ではない。殊に

南獨逸のバイエルン、ウルテムベルヒ、バーデンは北普國に對して常に隠然敵國の觀を成して居たのである。帝國郵便はバイエルンには及んで居ない。帝國金庫證券はバイエルンには流通しない。我輩の留學の第一年偶カイゼルの誕生日に會した。我輩は日本人の考から、タトへ異邦のカイゼルなりとも、其國の大學に遊び其國に厄介になつて居る以上聊か祝意を表す可しとして、當時同じミュンヘンにあつた齋田理學博士、上野藥學博士其他の國人と共に、一同久し振りにて日本食を手製し日本酒の盃をあげて、カイゼルの健康を祝して樂しき一日を過した。さて翌日大學へ行つて講義を聞くと、一回分飛んで居るに面喰ひ隣席の獨逸學生に質したら、『何かカイゼルの誕生日は休日とや、其様な事は伯林にあることなり、茲ミュンヘン大學に左様な馬鹿らしき事はなし、バイエルンにはバイエルンの國王あり、我等の其誕生日は祝するも、カイゼルの誕生日等を祝す可き理由は更になし』との答に、生へ抜ききの日本人たる我々は膽をつぶしたのである。宿に歸つて齋田、上野兩博士に其事を話したら、兩博士とも喫驚して居られて、三人でつくづく獨逸の爲めに悲んだのは今より二十餘年の昔の事である。其後二三年彼の有名なレーント

ゲン博士がカイゼルの誕生日に帝國旗を門戸に掲出したとて民衆の怒を買ひ其結果博士は終にウルツプルヒ大學を去つて我等の母校たるミュンヘン大學へ轉任して來られた事があつたが其時はモハヤ左程驚き怪しみはしなかつたが更らに獨逸人の不幸を染々と感ぜずには居られなかつたのである。凡そ此くの如くである。我輩は四年有餘此ミュンヘンに居つたものとして聯か伯林在住の諸同人とは異つた感想を得て歸つて來たものである。是が今日の場合カイゼル退位の可能を深く感ぜしめた遠因の一である。

## 十三

獨逸は一箇の國ではない澤山の國の合併世帯である。合せ物は離れ物其解體は我が日本の如く眞正に統一した國の場合の様に重大ではない。記して茲に到り机邊に來れる夕刊新聞紙を見ればバイエルンは共和國の宣言を爲したとの電報が載せてあつた。

然れば獨逸の帝國たる其國情の根本的變化は決して我々日本人の考ふる程可能性の乏しいものではない。唯だ普佛戰爭以來帝國の結合力は日々増大して來た。其頂點が

即ち千九百十四年の開戦時である。然るに戰爭の四箇年は此の強き結合力を破壊した。其には一般政治上の原因もあり軍事上の原因もあるが根柢に横る最大の原因は實に獨逸國民心理の徹底的變革である。これは實に意外の事である。我々は獨逸の事は少しく知つて居る積りであつたが今にして思へば何事をも知らざりしと同様に豫言の當否の如き些事ではない。參謀部の人々の戰績判斷の當否の如き小問題ではない。モットく深い重大な實に驚き可き意外な出來事である。

## 十四

大正四年の暮に東京日々新聞記者某氏拙宅を訪はれて『戦後の文明』と云ふ題にて新年號に一文を寄せよと求められた時我輩は之に應じて『戦後の文明は著しく社會主義の影響を受くることゝなる可し』との意味の一文を草した。前段三九頁 是れなり 又た茅原氏の求めに應じて戦後は社會主義と基督教との勢力驚く可き程顯著となる可きかと思ふとの意味の講演をしたことがある。併し右の我輩の言は單に漠然たる想像説であつて其

内容は空虚なるものであつた。我輩は其後に起つた露國の革命や、此度の獨逸革命の如き事の起る可しとは夢にも想つて居つたのではない。言葉の上からのみ見れば、我輩の豫言は的中したように見えるけれども、其言を爲した我輩自身の迂濶、自身の不明の甚しかつたは實に慚愧に堪へない次第である。

## 十五

我輩は加藤子爵が近日攻撃せられた原敬氏の説なるものと全く同様の考を抱いて居たものである。否、我輩は日獨開戦の數日前高松市の講演に於て日本は参戦す可きに非ずと公言したし、其後も屢々其意味の言をなした。今日に於ても左様に信じて居る。少くとも我輩は我邦の爲め實に憂慮に堪へなかつたもので、原氏の言其意味は違ふかも知れぬが、言葉だけは全く同感であつたし、今も同感である。但し我輩は一回も獨逸勝つ可しと言つたこともなし又思つたこともない。此戦争は結局双方疲れ分けになるの外はないと思つて居た。故に今日の獨逸の屈辱的求和の事實ある以上、坊主になつて足らず、

穴に入つて足らざる譯である。併し其れは加藤子爵等に敗けたのではない。先見の明なかりし事に就ては加藤子爵も我々も全く分つ所はないのである。何となれば、獨逸が戦争に於て聯合軍に敗けたのではないからである。此意味に於ては加藤子爵が聯合軍必ず勝つ可しと信ぜられたは大なる誤で、其點に於ては切腹の責任はまだ解除せられて居らぬ。

## 十六

獨逸は敗けた。慥かに非常な大敗北を爲した、之れは疑を容れぬ。乍併しそれは戦争の上の敗北では斷じて無い。而して獨逸に勝つたものは斷じて聯合軍ではない。勝者は歴然として外に在るのである。若しも獨逸が戦争に於て而して聯合軍の爲めに敗れたものならば、加藤子爵始め我邦無数の聯合軍必勝論者は實に如何に御威張りになつても宜しく、原敬氏(寺内氏後藤氏、犬養氏等も恐らく)は全く面目なかる可き譯である。然し事實は左様でない、従て原敬氏の憂慮、我々の憂慮は更らに更らに痛切ならざるを得ぬ

事となつたのである。我々は豫言の當否等と云ふ小なる誇りや誇りの傷つけられた事等を今問ふて居る暇を持たぬ程形勢は重大となつて來て居るのである。

## 十七

獨逸は *Rhein* に勝つた儘かに勝つた。是は拜英米論者も否定し得ぬ所である。併し乍ら獨逸は *Paris* に大敗した。是は如何なる拜獨論者、恐獨論者も否定し得ぬ所である。然ればタイムス受賣りの我邦の *Battle of Marston* 分別論者は其先見の明を誇り得るか。答へて曰く否斷じて否。

獨逸の *Battle of Marston* は聯合軍との間に戦はれた。獨逸はこれには勝つた。然らば獨逸に對して *Paris* を挑んで今や大勝利を占めた相手は聯合軍であるか否大に否勝者は全く外に在る。意外の邊にある。我々の夢想だもせなかつた邊に在る。勝者とは誰の事か。

## 十八

獨逸に對して此の強敵の存することを遠東の書齋に在つて我々が十分に知り得る様になつたは漸く本年の六七七月頃の事であつた。併し英佛米の識者の中には疾くに之を知つて居たものがあるであらう。ランスダウン卿やグレイ卿は或は其人であるまいか。否々最も早く此消息を看破したのはトロッキーであつたかと思ふ。下司の智慧は後から附く。我輩は本年の夏に至つてやつと左様ではなからうかと思ふに至つたので、其迂愚は實に慚愧に堪へざる所である。トロッキーが瑞西に在る頃著した一小著述は畏友室伏高信氏之を邦譯せられた。我輩は思つた恐らく翻譯にして文章は經國の大事と云ひ得るは室伏君の此の譯の如きを言ふ可きであらうと。然るに室伏君は推敵不十分の故を以つて其後其譯書を絶版に附したのみで改訂版を出さないのは實に遺憾此上なき事である。若し改訂版が廣く我邦に行はれ種々なる戦争觀を公けにする識者が一度此の書を通讀しおかれたなら、我國民の戦争觀世界觀は今少しく合理なものになつてゐたであらう。絶版は呉々も残念な事である。誤譯は儘かにあつたが、併し其れは尙軍治君にであらうと思ふ。高信氏の批評が絶版と云ふ結果を來したことは同氏も亦残念に思はるゝことと信ずる。

## 十九

兎に角豫言は雙方の側に於て共に全く大外れに外れた。外れた譯である。實に實に意外なる變化が獨逸國民心理の上に起つたのである。然るにこの頃に至るまで、獨逸は眞に和を求めものに非ず、聯合國は獨逸の軍國主義を根絶する迄は戈を收むるものに非ず、故に講和は斷じて成立せずなどの時代錯誤論が、而も最も世界の形勢に通曉せりと言はるゝ先覺者によつて唱へらるゝは實に驚く可き事である。外務省の武者小路氏は獨逸の求和は草蕪問答で、平和等は容易に求むるものではないと國民新聞に公にせられた。其の翌日の同紙で私は其の迂なるを指摘した。武者小路氏は今は何と言はるゝるであらうか伺ひたいものである。殊に吉野博士の如き甚だ卓越せる専門學者すら、最近の中央公論に於いて『和機熟せず』てふ一文を公けにせられた。而も其の時は獨逸軍はドン／＼退却を繼續して居るときで、又米國に於ける國民獨逸協會全部の徹底的解散の行はれた後であるに至つては、我輩は Wish is father of thought なる西諺の如何にも當

れるを覺へざるを得ざりしものである。

## 二十

此度の戦争は政治家、外交家、軍人等が之を始めた。而も間もなく敵味方共國民は一人の如く驟起して政治家輩を *Down* した。然るに今や戦争の發頭人たる政治家や外交家や軍人はドン／＼落伍して仕舞つた。『ステアチスト』曰く聯合側には將帥としてフォッシュ、天才的政治家なし一人のステーチストの所謂 *Balfours, Asquiths etc.* は悉く世界の表に於て落第して仕舞つた。ロイド・デューヂも半以上落第した。恐らく最後の落第者はウキルソンとなるであらう。我大隈侯も我加藤子も未だ試験の始まらぬ内に落第して仕舞つたと言ふ珍事が起つた。然るに不相替ウキルソンがエライのロイド・デューヂがエライのと過去の夢を見て居るのは愚の至極である。中央公論の高野氏先頃予を訪れて曰く『ウキルソン勝ちカイゼル仆る』と言ふ意味の論文を書けと予答へて曰く問題の所在今や全く外に在り、中央公論に左様なる時代後れの文を載す可からずと。ウキルソン、カ

イゼル輩の勝負の如きは今は最早や我々の心を用ゆるを要せざる所である。百のウキルソンあるも平和は來らず千のカイゼルあるも戦争は繼續せざるのである。

## 二十一

獨逸國民の心理的變化の今最も顯然たるは彼等は Kaisers, Ludendorffs, Hindenburgs, Maximilians を凡て一束にからげて之を別所に置き彼等自身赤裸々に心と心身體と身體とを聯合國の國民と接觸せんことを切望すること此である。此頃屢々外電に其名の見ゆる Münchener Neueste Nachrichten (マイエルン) で發刊の最多數發行の日刊新聞) の如きは最も卒直に此痛切なる心事を訴へつゝあるものである。獨逸の國民はカイゼル、ビンデンブルヒ輩に大事を託して今日に及べるも、今日は既に然らず、彼等は彼等の偽らず欺かざるの赤心を披いて之れを直ちに聯合國の國民の腹中に置かんことを求むること痛切なるのである。彼等の求むる所實に此なり、此を妨ぐるものはカイゼルたるとビンデンブルヒたると誰人たることを問はず、悉く之を滅さずんば已まざらんとしつゝあるのである。

ある。而して先づ最も訴へんとする相手は米國の國民である、而して次には恐らく日本國民であらう。何となれば今獨逸國民の最も恐るゝ所は實に米國と日本との二ヶ國あるのみである。

## 二十二

彼等は謂へらく此戦争を已むるも續くるも今や決定の鍵を握れるものは實に米國と日本とである。故に我等は先づ偽はらざる節らざる我が心を開いて米國民と日本國民とに訴へて戦争の停止を願はんと。我輩は堅く爾か信じて居るものである。マックスがウキルソン大統領に先づ縋りたるは實に此國民の輿望を實現したものと思ふ。決して術策でも權變でもないと信ずる。予は思ふウキルソンの態度にして煮へ切らざる時は、獨逸は次には我邦に泣訴し來ること無しとも限らぬ、我邦は果して此に應ず可き準備ありや否や (斯く云ふと事大的拜外論者は我輩を目して誇大日本人思想に囚はれたり) と云ふであらうか。



## 二十三

獨逸國民は今や peace at any price (如何なる高價を拂つても平和)と望んで居ることは斷じて疑ひを容れぬ。故に聯合國にして要求する所過大なりとも、彼等は(政治家や軍人の謂に非ず國民の謂也)必らず之に應ず可きと思ふ。其態度は革命露國と全く異ならぬ。従つて第二のブレストリトウスク條約否其以上のものと雖も、彼等は應ずる覺悟ありと信ずる。唯だ獨逸の政治家や軍人が之を妨ぐるかも知れぬ。其時こそ眞に具體的革命的爆發する時である。

## 二十四

獨逸國民は何れも小學校に於て三十年戦争の後の獨逸の慘狀の如何なるものなりしやを熟知してゐる。此知識は彼等をして今に方つて peace at any price を要求せしむる所以である。我々日本人は左様な經驗は一も持たぬ幸福なる國民である(足利時代

は別であるが、其は餘りに速いことである。我々の内に其の經驗は生きて居らぬ)。故に我等は三十年役に懲りて居る獨逸人が peace at any price を求むる心情を十分に理解し能はぬのである。獨逸は誠心和を求むるものに非ずなどと稱する我邦識者は、先づ節を屈して萬國史を繙いて三十年役の部分を熟讀熟考すべきである。然ればカイゼル退位の如きは、今日の獨逸に取りては殆んど些事たる事が十分に會得出来るであらう。

## 二十五

さればとて聯合國が圖に乗りて、勝利は自己の努力にて得たものゝ如く自ら欺いて過酷の條件を強ゆる時は、或は不測の大事變が突發せぬとも限らぬ(其何たるかは分らぬ)。此點に於ては本月六日の『國民新聞』に掲げある原首相の意見なるものには、我輩は滿腔の同感を表するを禁じ能はぬ。少くとも原首相の見地は加藤子の其れより數段の高處大處に在ることは疑を容れぬ。而して露國出兵反對の爲めに大使の職を抛ちたりと傳へられる内田氏が今我日本の外相たることは、我輩は我日本のために慶祝せざるを得ぬ

所である。願はくば原首相の意見なるものに誤傳あらざれ、願くば内田氏の露國ボルシエヰキに對する意見なりと稱するものに誤傳あらざれ。而して兩氏は其意見を獨り我々同胞に教ゆるに止まらず、之を有力有効に聯合諸國に提示せよ。是れベテンと策略とを不得手とする我日本の外交をして、其特色を發揮せしむる最善の方法である。

## 二十六

勝つ者は誰ぞ、否既に勝ちたる者は誰ぞ、フオツシユ元帥か、答へて曰く否、ウキルソんか、斷じて否、ロイド、ヂョー、ヂカ、大いに否然らば誰か。答へて曰く獨逸革命 Deutsche Revolution 是なり。獨逸革命我輩は嘗て之を名けて月賦濟し崩しの革命と云へり。蓋し濟し崩し的事なること獨逸の革命たる所以なればなり。英國人は光輝ある革命 glorious Revolution を有し、佛人は大革命 la grande Revolution (又は佛蘭西革命 la revolution française と云ふ) を有す。獨り獨逸人は今日迄何等の革命を有せざりき。獨逸人は Revolt (一揆) は屢々之を有せり。而も革命は二も之を有せざりしなり。今次の大戦を経て始めて獨

逸の革命在り。千八百四十八年のも予は之を革命とは思はず、マルクスは當時『今や獨逸は革命の前宵に立てり』と言ひたれども、其の豫言は外れた。併し乍ら更に深き意味に於て彼の豫言は七十年後の今日、マルクス生誕滿百年目の今日に實現せられんとしつゝあるのである。是れ我輩が原敬首相の言葉を模して憂慮にたへずと云ふ所以である。加藤子爵は斯くても猶憂慮無用論を繰返されんとするや。

## 二十七

獨逸革命は二回に起つた。第一回はレニント、ロツキー之を露國に於て行つた。第二回は今正に獨逸の領土の上に於て現に行はれつゝあるのである。斯く云へば汝は地理を知らずと難する人あらん。非ず、ボルシエヰキの革命は露西亞の革命たると同時に、實は獨逸の革命 (eine deutsche Revolution) であつたのである。唯行はれた國が露國であつた人が露國人であつたのみである。乍去革命の根源は全く獨逸にある。獨逸の思想が露國に輸入せられて革命とまで加工せられたのである。其原料は否其加工器具まで

も悉く露國固有のものは一もない皆獨逸からの舶來品である。露國固有のものはバク、それは革命に直接に何の關係もない。而して此革命は一の小産物的革命を生んだ。ニングロポドキンである。彼等すら實は獨逸品の増殖である。而して此革命は一の小産物的革命を生んだ。其はチエツヒスロヴァクの獨立運動である。レンもトロツキーも否ブレヒアノフもチエツヒの首領たるマサリツク教授と均しく、何れも獨逸革命の實行者である。彼等は何れも同一の源流から其思想を汲み來つたものである。而して今現に行はれつゝある第二の大革命も、略ぼ其源流を同じくして居るのである。我輩が憂慮に堪へぬとし、我邦敵者の空想的世界觀の排撃に苦心する所以は、實に此一點に存するのである。チエツヒ援助の日本出兵に斷然反對する所以も茲に在るのである。チエツヒを援助する日本は朝鮮人が之れを何んと見るかを十分考へてかゝらなければならぬ。

## 二十八

獨逸に現に起つて居る革命は露國の其れの如く現然目の前に突發したものでなく、済し崩し的のものであるから、我々は實に本年の夏迄殆ど之を知らなかつたのである。實

に意外千萬であつたのである。恐らくリーブクネヒトと雖も、少くとも開戰當時に於ては斯くまでとは豫想して居らなかつた事と思ふ。戦争の四年間月賦的にポツ／＼と變化し來りつゝあつた獨逸國民心理の大變化は徐々に進行して來た。併し四年間の月賦を總勘定して見ると、其金額は實に莫大なものとなつて居た事を我輩如き愚人は少しも知らなかつたのである。無論變化は豫期して居た、故に憂慮した。然し事實は憂慮に十倍百倍して居たのである。此點に於ては嘗て我輩の論を評して、今近く突然として社會主義國家が出來たら、福田の論は悉く無用に歸すると言はれた堺利彦氏に對して、坊主になつて不明を謝しても猶且つ足らぬ次第である。

## 二十九

獨逸の國民性は『中外』の拙文後段にに於て指摘して置いた通り容易に移らないものであつた。其が何時迄も變らないものと思つて居たは我々の迂濶であつた。今や獨逸の國民性は實に驚く可き大變化を遂げた。否此變化を獨り獨逸のみに止めざらんとす

るのである。米國は第三の舞臺たる軍國主義の侵略はもはや問題とならぬ。今や之に代るに革命の侵略が始まらんとしつゝあるのである。其責任は無論獨逸の政治家や軍人が第一に之を負ふ可きであるが、獨逸國民を驅つて斯くならしめた聯合國にも責はある。故に『中外』の論文に於て我輩は次の如く云つて置いた。『他方から考へて見ると、今度の戦争は、此の獨逸の非大國的性格を著しく強めたかも知れない。世界の國と云ふ國は寄つてたかつて獨逸を叩き潰さうとして居る。斯る境遇に置かれれば、餘程寛仁大度な性格を持つ國民でも自棄に陥るを免れない。四面皆敵である。人を見たら敵と思へ。カイゼルと其の政府が斯う考へるのは仕方が無いとして、若し獨逸六千萬の國民に此の念を強からしめたならば、是れ眞に獨逸國民の墮落である。若し斯くの如くなれば、今度の戦争は誠に人類の爲めに不幸な戦争と言はなければならぬ。世界の文明人中から六千萬人丈を畜生道へ追込んだことになるのは人類全體の大損失である。(略)カイゼルを廢し或は獨逸帝國を滅ぼして、其の國民的性格が著しく改良するならば結構であるが反對に獨逸六千萬の國民が斯くの如く墮落するならば、心の底から文明の進歩を冀ふもの

に取つては、此度の戦争は人類の大々的損失と斷じなければならぬと思ふ」と。

## 三十

若し我輩の見解にして大過なしとせば、獨逸六千萬の國民を此危険より救ひ、世界文明の前途に横はる此の大難關を免れる爲めには、唯一つの道しか存せぬ。其は外でもない。聯合國が獨逸國民の忍辱的求和に對して圖に乗つて過酷慘忍なる條件を課することなく、敵を待つに *fairness* を以てすること此れである。カイゼルを退け、兵を國境の内に收め、或はアルサス・ローレン或は海外植民地を抛棄させて猶ほ飽くことを知らず、更らに過大の條件を強ひ、而して殊に所謂經濟戰なるものを戦後に開始して、更らに獨逸國民をイジメ、抜くが如きことあらば、是れ獨逸六千萬の國民を驅つて世界に危険思想を傳播す可き毒菌となす所以である。實に憂慮と云ふも到底及ばざる所である。之に反し敵に課するに相當公明なる條件を以てし、軍國主義と其の代表者とは飽近之を斥くも、赤裸々に其の誠衷を披き來る獨逸國民に對しては、文明的武士道の *fairness* と *justice* と

humanityとを以てして彼をして謝恩の念を起さしめば希くば獨逸國民の墮落を防ぎ、而して世界文明を脅さんとする這箇の大危険を免るゝことを得るであらう。

三十一

然り而して此點に關しては、我日本は實に有力有効なる發言を爲す可き義務あり、又權利ありと確信する。『國民新聞』傳ふる所、原首相の言なるものにして大過なくんば、氏も亦粗ぼ卑見と同感なるが如くである。是れ實に日本の爲め世界の爲め慶祝に堪へざる所である。原内閣にして百の失政あり千の過誤ありとするも、此一事に就て過去の政府の無爲の罪を購ひ、我日本をして自主的に指導的に、世界平和の爲めに有効なる努力を爲すことを得せしめば、我等は最も熱心なる原内閣の謳歌者たるを憚らざることを斷言するものである。何となれば、是れ實に我日本をして最も高き最も聖き意味に於ける、最後の勝者たらしむる所以であると我輩は確信するからである。

||大正七年十一月十一日稿同十二月『中央公論』掲載||

十一 新世界の文明に於ける佛蘭西の使命

我輩は曾つて本誌極東時報に『新しい意味のデモクラシー』本集後段収録といふ論文を寄せ、その中に於て當時の我が總理大臣寺内伯が、一貴族院議員の發したる質問、即ち『歐米諸國に於ては、此の度の大戦はオートクラシーに對するデモクラシーの戦であるといつて居るが、我が政府の之に對する所見如何』といふ質問に明答することを避け、顧みて他をいつた不徹底なる態度を遺憾なりとし、日本がオートクラシーを敵として其の廢滅を期するのは、我が國是に合したる正々堂々のことである、日本の國體は如何なる點に於てもデモクラシーと容れぬものではない。唯だ舊い意味、時代後れのデモクラシーは、決して我國に許されぬものであると述べて、新しい意味、真正なる意味のデモクラシーと舊きデモ

クラシーに就いて概説したことがあつた。而してこの慘憺たりしオートクラシー對デモクラシーの戦争も、今や首尾よくデモクラシーの勝利に歸した如くであるが、我輩は是を以て直ちに我輩の意味する真正なる新しい意味のデモクラシーの勝利と認めることは出来ない。何となれば、獨逸のオートクラシーを内より亡ぼした現在の獨逸のデモクラシーも、是を外より倒すことに努めた英米のデモクラシーも、我輩の見る所によれば、未だ共に真正なる意味のデモクラシーとしては許し難い點があるからである。新世界のデモクラシーは何としても更らに一段の洗練を経なければならぬ。而して我輩は現代に於ける諸々の文明國の文化の實質を通觀した結果よく此の大任に堪へて、戦後の人文の嚮導に任じ得る最高の文化は、佛蘭西文化より外にないと信ずるものである。即ち本文の目的は來るべき新世界の文明に於ける佛蘭西文化の重要な使命を明かにせんとするに在る。

## 二

寺内伯が一議員の質問に對して、日本も亦真正なるデモクラシーの爲めに獨逸のオートクラシーを倒さんとするものなりと言明することを避けたる爲め、伯自身は勿論、日本國民までが軍國主義を奉ずるものでないかといふ様な誤解を招いたことは、我輩の深く遺憾とする所であるが、同時に我輩は衆議院に於て、此交戦はオートクラシーに對するデモクラシーの戦で、日本も亦た當然聯合與國と共に獨逸のオートクラシーを倒さんが爲めに起つたのであると言明した、尾崎行雄氏の主張にも全然賛成が出来ない。何となれば、尾崎氏の所謂デモクラシーは全然英吉利のデモクラシーで、而も極めて形式的にして舊式な偏政治的デモクラシーであるからである。

一體真正なるデモクラシーは、『デモス』といふ言葉の本來の意味通り、國民の凡ての階級、凡ての身分を網羅した、そのデモスのクラシーでなければならぬ。尾崎氏等の謂ふデモクラシーは、人文の向上は先づ政治の新運動に待たねばならなかつた十七、八世紀に於て、動産階級に屬する一部の國民が、不動産階級に屬する一部少數の國民にとつて代る爲めに樹立せられた代議政治といふ政治の様式に膠着し、人格の自由と財産の保證をその

二大項目となすもので、其實質は矢張國民の一部分に過ぎない財産階級のクラシに過ぎない。即ち我輩の名づけて pseudo-democracy (假面的民主主義) と呼ぶものである。

所詮は政治を以て人文の一切なりと考ふる謬見に囚はれ、殊に財産權の擁護を國家存在の第一義とし、謂ふ所の人格の自由も畢竟財産を有する人の人格の自由であつて、財産なきものゝ人格は實際に於て其の保證極めて薄弱なるを否定することが出来ない。論より證據、今日の法律は殆んど全く財産階級本位の法律で、民法何百條其の五分の四は財産のあるものを保護する條文ばかりである。

## 三

我輩は近頃有名なる法律學者花井博士の『自救權』に關する論文を一讀したが、其の論旨を約言すれば、財産權擁護の爲めに必要止むを得ない場合には、非常緊急の手段をとることができるといふのである。然しこれはいかにも囚はられた舊式の、或る意味よりいへば甚だ有害な論といはなければならぬ。花井博士の説によれば、自救權は財産所有者

のみにあるので、財産なきものには自救權はないことになる。然しながら人の第一に尊重すべきは財産にあらずして生存であるのである。而して此の生存維持の場合に自救權を認めずして、財産擁護の場合のみ之れを認むるのは、何としても社會の實際とかけはなれた架空の議論といふべきである。しかも斯かることを花井博士の如き總明なる法律學者が唱へるのを以つて見ても、現在の法律がいかに財産擁護に偏して居るか分る。

之に對して我輩は去る八月の米騒動に關して Right of extreme need (極窮權) の實行と認む可しと主張したが、その意味は今日の如く物價が騰貴して生活がたへられなくなれば、之れによつて困窮するものが、生命を維持する爲めに非常手段に訴へるのは止むを得ない。苟くも極窮權の發動を防がんとするには、必ず生存權の尊重を第一義とした政治をとらねばならぬといふのである。然るに有名なる刑法學者牧野博士も、亦た米騒動を以つて緊急權の一現象と觀て居られるのである。日本語の譯字は違ふが、我輩の極窮權と同じ意味であらう。牧野博士は流石に佛法學を出立點として深い哲學的思索を積み

れた進歩した法律學者だけに、こゝまで徹底して居られる、想ふに博士は新しい意味の眞のデモクラシーの消息にも通じて居られるであらう。之れに反して花井博士は尾崎氏同様、未だ舊式のデモクラシー、財産擁護のデモクラシーに迷つて居られるのではあるまいか。

而して今回のオートクラシーに對するデモクラシーの戦に於て凱歌をあげたデモクラシーが、此の古い意味のデモクラシーであるならば、それは畢竟毒を以て毒を制したに過ぎない。斯るデモクラシーの勝利は、人類の幸福乃至世界の人文の進歩に對し決して益も加ふる所はない。換言すれば、此の勝利が新しい意味のデモクラシーの勝利であつてこそ、獨逸のオートクラシー、否世界中のあらゆるオートクラシーの倒壊を、人文の大々進歩として心から欣ぶ意義を生ずるのである。

## 四

我輩は斯の如き見地より、今回の戦争に於ける各聯合與國の努力乃至貢獻を観察した

結果、此の新しい意味のデモクラシーの勝利の爲めに最も奮闘し、最も意味ある貢獻をなしたものは、單り佛蘭西あるのみと斷言する。他は暫らくいはず、我邦の如きも現に戦争には參加したが、戦争の此の深い高い意味にまで及んだものは不幸にしてなかつた。何ぞ管に寺内伯のみならんや。國民の大多數がその點について正しい理解を缺いて居た。よし少數の人がそれに思ひ及んだとしても、それが國家活動の精神となるに至らなかつたことは争はれない事實である。故に今日講和會議に臨むに當つても、南洋諸島の占領とか、青島の不還附とか又はシベリアの利權獲得といつた類の、誠に些々たる物質的利害にのみ没頭して、此の戦争の深刻高尚なる意味を體得し、如何なる覺悟を以つて講和會議に臨む可きかを考へない。我輩は深く是を悲しむ。これが鎖國の時代なら、斯る高尚なる精神が理解し得られないのも強ち無理でもあるまいけれど、兎も角聯合國の一員となつて、此の重大な意義のある戦争に參加した日本としては、誠に残念千萬のことである。而して日本の此の無理解は、特に佛蘭西の文化に對して最も深く恥ねばならぬ。それを思ふと我輩は佛蘭西に於ける我輩の先生又は友人に對し、日本人として殆んど顔向けの



ならぬ様な慚愧の情に堪へない。

さるにても佛蘭西が國を擧げてあらゆる辛苦を嘗め殆んど最悪なる條件を忍んで毅然として世界の文化の上に一新紀元を劃すべく奮闘した大功績に對しては佛蘭西の友人としては勿論、單に世界の一市民としても深く感謝しなければならぬ。實に佛蘭西は今回の戦争を通じて最高の名譽を擔ふべき國なるは勿論、我輩の信する所によれば唯一の許容せらるべき解釋に於ける、デモクラシーのチアムピオンであつた。然るに我邦にはウキルソンの人道論や、ロイドジョーヂの正義論や又はグレイ子爵の國際聯盟論に隨喜の涙を流す人は澤山あるが、この戦時中及び戦後に於ける佛蘭西の高尙なる大使命に對して、讚美の聲を發するものは腹立たしい程に極めて少い。

## 五

この事につき、我輩は聊か我が國人の反省を促す爲め、左に一の具體的事實を述べようと思ふ。即ち佛蘭西の友人に對しては誠に申譯のない事であつたが、十一月廿一日東京

市に於ける休戦祝賀の大祝典に當り、全市は日本及び與國の國旗を以て埋められたが、中に就いて聯合與國の國旗は多くは英米の國旗で、此の戦争の最初より最後まで讚美の洪水を以て満たすも尙及ばない程の大功績を積んだ佛蘭西や白耳義の國旗は、之を英米のをこれに比して其の數が甚だ少なかつた。それから又各國の國旗を扇形にまとめた飾りも各所で見たが大抵のものは中央に日章旗をとりつけその左右に英米の旗をしつらへ、佛蘭西や白耳義の旗は夫より下の地位に置かれてゐた。我輩は是を見て深き不満を感じた。後數日我輩は代議士鈴木梅四郎氏の主催する青年社會政策學會の講演會に招かれ、青年會館に於いて一場の演説を試みた。その際不圖見ると演壇の一隅にある扇形の旗飾りが、矢張り日本國旗を中心として英米國旗を左右に配し、佛蘭西、白耳義の旗に不當の地位を與へて居るのに氣がついた。そこで我輩は滿堂の會集に向つて、休戦祝賀の意志を表現する裝飾に於て、斯る不注意なる過失を平氣でしたり、看過したりすることに、日本人が如何に此の度の戦争の高尙なる意義に通ぜざるかを無意識裡に表明したのは遺憾であると考へ、會集に向つて次の様な意味を演説した。

後段收録『社會政策』  
策とは何ぞ』參照 即ち

此の度の勝利の半ば以上は佛蘭西軍の奮闘の賜物である。若し佛軍が忍苦健闘してあの海嘯のやうな獨逸の猛襲を支へなかつたなら、今日の大勝利は決して見ることができない。英國艦隊の敵國封鎖は勿論今回の勝利の一大要素たるに相違ないが、これは消極的であつて積極的ではなかつた。之に比すれば佛蘭西の功業は、日本の武士道からいつても、文明の武士道からいつても、一點の批難を容れざるのみならず、真正なる實戦に於ての功績として、其の名譽は將來永く佛國の頭上を飾るに足るのである。此の事は英國の第一流に位する公平なる新聞雜誌も認めて居る事で、現に "Spencer" なる最大經濟雜誌の如きは、毎號フオツシユ元帥を以て、此の戦争に於ける唯一の天才的大將軍なりと推賞し、英國には是に及ぶ將軍一人もなしと反覆痛論して居る。之は決してお世辭にあらず、最も的確なる事實である。然るに斯く真正なる武士道に於て、此の度の勝利を確保した佛蘭西の國旗を第一位に置かないのは、日本人が佛蘭西の貢獻に十分且つ正當なる諒解を有たない一の證據である。

我輩の此演説に對して聽衆が非常な大喝采を與へて呉れた事を、我輩は愉快の情を以つて佛蘭西の友人に告げたい。何となれば、此我輩の演説に與へられたる熱心な喝采は、少くとも日本の知識階級に屬する青年の多數が我輩と所見を同じくした證據で、やがて

又日本の青年が佛蘭西に拂ふ敬意の象徴であると思ふからである。

## 六

然し是れは單に小さい、しかも過去の一例に過ぎないが我輩の憂ふる所は將來のことである。即ち將に來らんとする新世界の文化の上に於て、佛蘭西の文化がいかに重要な地位を占むべきかといふことを、日本人が諒解して居ないのは誠に残念なるのみならず、實に世界の一員としての日本人の恥づべき甚だしき缺陷といはねばならぬ。

我輩は敵國と雖も獨逸に幾多の美點長所のあることを認め、過去四年間に屢々これを公言した。その爲めに東京に於る或る新聞などは我輩を獨逸狂とさへ罵しるに至つたが、それと同時に我輩は必らず又佛蘭西文明の美點をも高唱して置いたが、不幸にして此點はいつも彼等の注意を逸したやうである。實戦に於ると同様、言論に於てもフェアプレーを第一とする我輩は濫りに敵の長所までを罵倒せず、又濫りに味方の缺點までを讚美しない。この嚴正なる立場から我輩は戦後の新世界に於る佛蘭西文明の意義の

重大なることを、以前にも増して一層我國人の間に力説高唱せんとする者である。是れ若干ながら佛蘭西の學問を學び、佛蘭西の哲學者の恩をうけた一人として、當然なすべくなさざるべからざる義務なりと信ずるからである。

蓋し尾崎氏或は花井博士等の唱へられる財産本位の政治觀乃至社會觀は、主として英米の舊式なるデモクラシーの思想を祖述して居るのであつて、即ち財産階級資本階級又は *haute Finance* のクラシーの意味に外ならない。殊に此の度の戦争によつて獨逸を亡ぼせば、向後は世界の商業上に於て獨逸の競争を免がれ、世界のあらゆる市場が英米資本家の獨占到歸するのを喜ぶのは、是れ決して真正なるデモクラシーの勝利ではない。獨逸のオートクラシーを亡ぼすことは勿論必要であるが、之れに代ふるに國家の一小部分に過ぎない資本階級の横行する時代を以てするは、決して人文進歩の意味をなさない。我輩が過去に於て屢々最も恐るべきは金禍であると叫んだのは、決して獨逸は恐るゝに足らずといつたのではない。獨逸はもとより恐るべきであるが、デモクラシーの假面をかぶつた金禍の方が、更に、以上警戒を要するといふ意味を述べたのに外ならぬ。

實に真正なるデモクラシーとは一の取り除けなく、總べての國民を本位とした社會及び政治組織でなければならぬ。單に政治上に於て國民の一部階級が優勝の地位を占める如きデモクラシーは實は一部階級のクラシーであり、單に政治的のクラシーである。未だ社會上のクラシーではない、即ち真正なるデモクラシーではない。

『政治は決して人文の一切にあらず』といふ motto は、我輩が慶應大學の講演及其他の機會に於て度々繰返した所で、今日以後の世界に於ては、政治以上にもつと高尚なる人文の發達が來らねばならぬ。而して此意味の發展に對してこれ迄佛蘭西も、英吉利も、獨逸も及び其他の國々も多少の貢獻をなしたつたが、今や獨逸の所謂 *Kultur* なるものが全くその性質を一變せんとしつゝある。即ち今日のところでは未だ確言はできないが、獨逸の將來はデモクラシーでも英米とは異つた意味で、矢張一種の *pseudo-democracy* となることと思はれる。所謂ソートシアルデモクラシーがそれである。此ソートシアルデモク

ラシーは、恰かも英米の議會デモクラシーが假面的デモクラシーであるが如く、我輩のいふ眞正なるデモクラシーではない。兩者の相違は英米の議會デモクラシーが財産階級を本位とするに對し、獨逸の社會デモクラシーは Proletariat を本位とする點であつて、兩者共に國民の一部階級のクラシーにして、眞正のデモスのクラシーでないことに於ては即ち一である。而して斯る pseudo-democracy は其何れが勝利を得たにしても、斷じて人文進歩の意味を以て歓迎すべき理由がない。彼の露西亞のボルシエヴキズムも亦獨逸のソーシアルデモクラシーと殆んど同一の性質で、是も嘘のデモクラシーである。

斯くて英米の議會デモクラシーが勝つてもだめ、露獨の社會的デモクラシーが勝つてもだめだとすれば、世界中何れの國が眞正なるデモクラシーの旗頭となり、嚮導者となり、鼓吹者となる資格があるかといふ問題が當然提起せられて來る。我輩は日本がこれを任とすることは、毫も日本の國體と矛盾するものでない事を確信するものであるが、其の他の國も此の點に於ては略々日本と同様である。茲に佛蘭西のあるありて、過去數百年來偉大なる哲學者、科學者、文學者、思想家等が築き上げた獨得の文明を基礎とし、その上に

立つて將に來らんとする世界の進歩に對し、眞正なるデモクラシーの教師となり、大使徒となり、世界人類の正に墮ち入らんとする危険を防ぎ、人類の進むべき正しき道を指し示すべき運命を持つて居ると信じ得られることは、單に我輩のみならず、全人類の喜びであるといはねばならぬ。

## 八

我輩は近く『勝者は誰れか』前段一九  
九頁参照と題する一文を公にしたが、其論旨の大様は、今日獨逸の絶對的降服を見るに至つたのは、主として獨逸に於けるソーシアルデモクラシーの勝利が原因である。即ちデモクラシーがオートクラシーに勝つたには相違ない。カイゼルのオートクラシーは確かに亡びた。然し勝つたものは眞正なるデモクラシーとはいはれない。勝つたものは獨逸の嘘のデモクラシーで、此勝利は資本的侵略國に對しては一の危機を意味するものと確信する。今日獨逸の絶對的降服によつて悲惨なる戦争が終つた事は、人類文明の爲めに勿論喜ばねばならぬが、然しながら吾人は勝利の歌

を唄ふと共に直ちに背後に迫る世界文明の大危機あること及びこの大危機を防ぐ義務があることを決して忘れてはならぬ——といふ意味である。

斯いへばとて、我輩は休戦の成立を喜ぶ情に於て決して人後に落つるものではない。唯我輩はそれのみに心を奪はれて居ることの甚だ危険なることを、單り日本人のみならず、世界に向つて警告せしに居られないことを痛感するのである。而して此の危機に際して我輩は、我が日本は確かに日本の使命を帯びて居ると信ずる。幸にも原首相の意見として『國民新聞』に現はれたものを見ると、この日本の使命に就いて多少の考慮を費しつゝあるが如くであり、更らに過日慶應大學に於て原氏のなしたる演説を傳聞するに、一層進んで來るべき世界の文明に對する日本の地位に關し、同氏が著しく進歩的にして且つ徹底した見解を持して居ることを示された様である。

然しながら、世界文明の大勢は甚だ大で、之に比すれば日本の力は何としても未だ甚だ微弱なるを認めねばならぬ。處が幸にも茲に佛蘭西がある。我輩は軍事上の力に於ては、日本も佛蘭西と比肩し得ると信ずれども、文明的大使命の遂行に當つては、日本は佛蘭

西の弟子とならねばならぬと思ふ。佛蘭西が世界文明の危機に際し、驟然起つて眞の新しい意味のデモクラシーの爲めに奮闘するならば、日本は茲に好個の同業者を得て、佛蘭西の文化と相呼應して、日本は日本ながらの獨得の貢献を、この崇高なる事業に對してなし得ることと思ふ。この崇高なる事業は日本の獨力では遂げられない。之を遂げる爲めに日本は有力なる指導者、協力者を要する。而して我輩は是れを英に求めず、米に求めず、獨に求めず、宜しく佛蘭西に求むべしと主張する者である。

## 九

過去に於て日本は獨逸の陸軍醫學、哲學、科學を己れの師匠としたが、今や是等一切のものはソーシアル・デモクラシーの下に立つこととなつて著しくその性質を變じ、最早師匠とする價値を失つてしまつた。是れは決して獨逸が敗けたからさういふのではない。又獨逸が強大なる帝國でなくなつたからさういふのでもない。全く獨逸がソーシアル・デモクラシーに打ち勝たれたからさういふのである。實に日本の二千年の歴史と文明

とは、今や社會民主化したる獨逸から學ぶことは、不可能でもあり不都合でもあることになつたからである。尤も獨逸の自然科學或は醫學の如きは戦後と雖も依然たるものがあらう。唯獨逸の哲學や、經濟學や、法律學や、社會學や、政治學や及びその他の人文科學は、ソーシアルデモクラシーの影響をうけて著しくその性質を變じ参考とはなるに相違ないが最早日本の師とするに足らぬ。然らば轉じて英米に學ばんか、是れは先きにも述べた通り、資本家横暴財産階級跋扈の嘘のデモクラシーで、日本が全身を捧げて師とすることはできぬ。此のデモクラシーは場合に依つては、或る意味に於て日本の國體と兩立し難いことが起つて來るかも知れぬ。我輩がかくいふのは決して米國が共和國であり英吉利が政黨政治國であるからといふ様な淺薄な意味ではない。政治上の制度や組織の如きは敢て問題とするに足らぬ。我輩は我二千年の歴史と文明に依つて築き上げられた日本の社會組織、殊に其社會心理の立場から、さういふ憂慮を抱くのである。既に獨逸は師とするに足らず、英米も亦然りとすれば、日本が仰いで師とすべき文明は唯一の佛蘭西文明あるのみである。しかも是れは決して單に日本のみの問題ではない。端的に世

界の問題である。佛蘭西文明の嚮導を要する國は日本以外に尙澤山ある。否、近き將來に於て世界の文明は全體として充實したる内容と力のある非侵略的なる嚮導者の必要を痛切に感ずるに相違ない。此時に當り、よく此の世界的渴望を満たすべき重大なる責任は、かゝつて佛蘭西文明にありと我輩は確信するものである。依つて此の機會に於て我輩は數多き佛蘭西の先輩及び友人に對し、深く此點に考へ及んで貰ひたいと切望する。世には多年佛蘭西の國民的元氣の源泉であつたアルサス・ローレンが、宿願通り再びその手に歸つたので、この大喜悦大満足の爲にその精神的緊張が多少弛みはしないか、又は侵略主義の國となりはせぬかと心配する者もある。戦後人文の嚮導に任すべき最高の文明國たる佛蘭西にとつては、もとより斯る心配は無用であらうが、佛蘭西の識者は斯る他山の石に對しても深く省る所あつて、戦後の新世界に於ける佛蘭西の文化的使命の重大なることを以て國民を勵まし、アルサス・ローレンの回復よりも、より一層高尚なる元氣の泉によつて、民心の緊張をはかられんことを熱望する。

何故に我輩が佛蘭西文明を以つて、今後の人文を嚮導するに足る選まれた文明と觀る

かと云ふことは多少歴史的に殊に私の専門たる經濟思想の上から立證したいと思ふが、それは後日の機會に於てなすこととし今回は只以上の大體論に止めて置く。

||大正七年十二月一日稿同月廿四日『極東時報』第八十一號掲載||

## 十二 資本的帝國主義を排す

### 獨逸革命は狂言に非ず

此文が讀者の眼に觸るゝ頃には、講和談判に就ても稍具體的事實が知れるに至るであらうけれども、今日の所では未だ何事も之を逆睹することが出來ない従つて茲に言ふ所は、或は六日の萬蒲たるの觀なきにしもあらずであらうが、今日迄に得た所の諸報に就て觀れば、此度の講和談判は聯合國の側に於ても必ずしも歩調を一にするとも考へられな

いが對手とする所の敵の側に於ても果して統一ある政府が衝に當ることが出來るであらうか甚だ疑はしいのである。今日迄の諸報を綜合して考へて見ると、現在獨逸の權力を取つて居る所の社會民主黨並に舊官僚派の妥協内閣は、永い運命を持つて居らぬものと考へられる。是は何れから云つても甚だ徹底しない所の内閣であつて、社會民主主義を徹底せんとすれば舊官僚系との妥協は必ず之を打切らなければ成らぬと思ふ。又若し舊官僚系にして異つた形に於て勢力を維持して行かうといふならば社會民主黨の人々と事を共にして行くことは到底永續すべき筈のものでない。我邦人士の内にも獨逸の革命なるものは、果して本當のことであらうか否か、聯合國を欺く一種の狂言でないかと云ふことを憂へて居るものも尠からずある。此の如きは甚だ事情に迂い所の見解であつて、あれだけの革命なるものが狂言として行はれることは到底あり得ないことである。露西亞の革命の如き、又一種の狂言でないかと云ふ考へが随分西洋にもあつたのである。今日になつては最早之を狂言など考へる人はない、獨逸の革命も同じことである。嘗にカイゼルの退位しただけで、後は舊帝國の勢力を其儘に存續し、聯合國を欺く手

段として居ると云ふことはある可からざることである。現にカイゼル退位すると云ふ説の傳へられた時、我邦の或人士達の中、カイゼルは退位しても皇太子若くはカイゼルの孫が位に即くであらうとか、又巴威の國王が皇帝になるであらうと云ふやうな途轍もない迂濶の事を言つて居る人が随分あつた。是は獨逸の國情をも知らぬ者であるのみならず、獨逸の國民心理を全然了解せざる迂愚の見である。既にカイゼルにして退位するならば、孫や玄孫等を持つて來て取り換へ引換へた所が何もならぬ。

### 講和談判と英佛の主張

カイゼル退位といふことは既に非常なる事件である。之が一度決行さる最早如何にした所が堤を切つて水を流した如く、其勢ひは滔々として止まる所を知らないのである。唯それにしても舊官僚系のエルツベルグ或はゾルフ輩が政府に居ることは甚だ心得ぬことであるが、是は社會民主黨が戦時中四年有餘の間著るしく妥協的態度を採り、政府の御用黨と疑はるゝ程讓歩しつゝあつた習慣の餘勢と觀る外はないのである。彼等は

今日に於て、決して之を冀ふて居らぬものであるが、如何せん國務の進行上、彼等は何等の知識を持つて居らぬから、舊官僚系の人々を容れる他には法が着かないで、暫時忍ぶ可からざるを忍んで行つて居るものと考へる外ないのである。併し乍ら是れも今日の勢では、此儘にして彌縫して行くことは出来ないことに成つた様である。遠からず是等の官僚系のもものは逐はれる外はない。さて然らばエベルト、シアイデマン等が強固なる統一政府を維持して行くことが出来るかと云ふに、我輩は斷じて不可能と考へる。少くとも南の獨逸は全く分離する、或は北の獨逸の内にも幾つかに分立が起つて、統一の無い獨逸となることは、暫時已むを得ないことと考へる。然らば講和談判が思ふやうに進行しない、或は折角談判を進めて見た所が、其引受けた條件を的確に履行する力が無い。是がため最も不満足を感じるものは英國であらう。英國は獨逸から幾多の物質的利益を取るべく期待を以て居るのである。此望みは恐らく此度の講和談判に依つては充たされないのであらう。従つて甚だしく不満足を感じることになると思ふ。佛國はさうでない、佛國はアルサス・ローレンを取ると云ふことが何よりも希望であつて、是は疑ひもなく取れる。



故に講和談判の結果が何うならうとも、國民は決して甚だしく失望に陥ることはあるまい。之に反し英國が獨逸から得んと期待するものは主として經濟的利益であるが講和談判に依つて個々の具體的經濟的利益を得ることが出来なくても、從來英國の世界的資本侵略に對して、最強敵であつた獨逸が倒れたと云ふことは、英國に取つて甚だ喜ぶべきことであるに相違ない。此邊を考へて英國は講和談判の結果は何うならうと萬々歳である。故に英國は講和談判に於て期待する所の具體的經濟的利益の取れなかつたことを補はん爲には、向ふに競争者のない經濟的霸權を樹立すべく大に努力するに相違ない。又戦争のために非常に多額の經費を使つた。其補充のため大に國富を充實する必要がある。即ち十九世紀の全體を通じて、世界を商業的資本的に侵略して其優勢を維持し來つた英國は、更に戦後に於ては自由なる手を與へられて、其資本的侵略主義を以て世界を横行することにならう。是が先づ當面の第一問題である。

### 資本的侵略主義の害毒

而して此の世界的なる資本侵略は何れの國も多少の迷惑を被らなければならぬことである。我日本の如き同盟國と言ひ條經濟上の利害は別問題である。所謂金錢のことは他人と云つて、砂治上に於ては同盟して居つて、同盟の基礎は牢乎として動かぬものとしても、經濟上の利害は必ずしも英國が日本の利害と拮抗することを敢てしないと云ふことを保證してある譯でない。但し英國が日本に對し挑發的積極的に侵して來るといふ意味ではない。英吉利は自國存在の必要上、東洋と云はず西洋と云はず、世界中何處に於ても其の資本的侵略主義の勢ひは、益々強くなつて行くものと見なければならぬ。資本的侵略主義の旺盛と云ふことは、其自らに於て一の大きな毒であるのみならず、其毒を消す可き反對毒を醸し出すことを免れないのである。毒消しの毒とは何であるかと云ふと社會民主主義の旺盛である。社會民主主義其ものは色々の理由から起るに相違ないけれども、經濟的具體的に考へて見ると、資本的侵略主義旺盛の隨伴者である。近世に於て社會民主主義が非常な勢力となつたは、十九世紀が資本的侵略主義になつてからのことである。資本的侵略主義が盛んになればなる程社會民主主義は之れに對抗して

盛んになつて来る。斯く云へば、資本的侵略主義の最も盛んなる英國に於けるより、却て獨逸に於て社會民主主義が勢力を得てゐるのは、如何と云ふ反問が起るかも知れぬが、是は少し考へて見れば直ぐに解釋の付くことである。獨逸に於て社會民主主義の盛である事は、獨逸に於ける資本的侵略主義は比較的新しく起つたもので、而も最も猛烈の勢ひを以て勃興して來たからである。獨逸が帝國を爲した時に、世界の形勢を観ると、世界到處の有利なる財源は殆ど皆英國の手に收められて居つて、是と拮抗するには非常な努力を費さなければならぬ。そこで獨逸は資本的侵略主義のために非常に努力することになつたのである。獨逸の軍國主義なるものは此れから起つたのである。武斷的軍國主義は恐るべく、又惡むべきものであるけれども、是は主として戦争の上に現はれ來た場合の事であつて、二六時中世界民衆の生活を壓迫しつゝあるものではない。

### 獨逸の權力政策

民衆の經濟生活の上から云へば、武斷的軍國主義よりも更に恐るべきものは、經濟的帝

國主義即ち資本的侵略主義商業的征服主義是である。英國に於ては之を帝國主義と云ひ獨逸に於ては之を世界政策又權力政策と云つて居る。名前は異なるけれども事實は全く同じで、何れも資本的侵略主義に外ならぬのである。世界の富源といふ富源利權といふ利權は悉く英國人の手に在るから、獨逸が是に對抗して起るには非常に無理な割込をしなければならぬ。人一倍の努力をしなければならぬ。獨逸は國を擧げて、凡ゆる努力を此經濟的利權の擴張資本的侵略主義の樹立の爲に盡して居つたので、武斷的軍國主義も畢竟は其爲めの一つの手段である。經濟的利權擴張のためには、何うしても有力なる陸海軍を要し、徹底した武斷的軍國主義を要する。獨逸の學者は商業及權力政策 (Handels und Macht politik) と云ふことを云つて居るが、是れは誠に善く其の實を顯して居る。彼等の商業政策は單に順當に一國の商業を發展させる丈では到底間に合はぬ。右の手で算盤を弾き、左の手に劍を持つと云ふ商業及權力政策であらねばならぬと考へて居つたのである。獨逸に在つて極めて非軍國主義的思想を持つて居る學者でさへも、海軍擴張には常に賛成して居る。其最有力なる論據として言ふには、一國の海軍なるものは、一國買

易高と比例して行かなければならぬものである。英國の貿易は世界一である。従つて英國の海軍は世界一である。獨逸が若し世界貿易に於て英國に負ないだけの額を占めようと云ふならば、即ちこれを防護する力として亦英國に次での大海軍國でなければならぬ。此故に陸軍の費用には左程力を盡さずとも、海軍の擴張のためには大なる犠牲を捧げることを辭せない。斯く主張して居る學者が少からずあつた。是は其實に於て軍國主義なるものは要するに資本的侵略主義遂行の手段として、必要視せられたと云ふ事實を語つて居るのである。聯合國が擧つて絶滅せざる可からずと稱する所の獨逸の軍國主義なるものは、軍國主義の爲の軍國主義では無い。獨逸のオートクラシーと謂ふものも、つまりは獨逸帝國の統一を強固ならしむるために必要と考へられたものである。獨逸國民は資本的征服即ち世界的經濟戰の優者たるには、其代價としてオートクラシーを甘受せなければならぬことになつた。何故オートクラシーてふ高い代價を拂ひつゝ、帝國の統一を強固にしなければならぬかと云ふに、統一した帝國となるにあらざれば、世界の大部分を占めて居る英國に拮抗することが出来ないと思へたからである。

### 資本的侵略主義の反對毒

普佛戰爭後の獨逸は一に此方針を取つて一切の計劃を立て、一切の行動を爲しつゝあつた。如何にして英國と齊しく資本的侵略國となるべきかと云ふことに全力を注いだものと斷じて大過はない。獨逸の思想も獨逸の學問も著るしく此影響を受けて居つた。哲學と雖も此影響を全く免れることは出来なかつた。近く物故した佛國の哲學者ブートルーは『戰爭と哲學』と云ふ書物を著して、獨逸の哲學は軍國主義の一の道具となつたと云ふ意味を主張してゐる。是は一面に於て眞理である。更に一步を進めて、獨逸の哲學を首め多數の學問は、軍國主義よりも寧ろ經濟的資本主義、即ち資本的侵略主義の用務をも務めたものであつて、公平客觀に眞理を研究する學者と雖も、自ら其居る所の國の風潮を免れない、殊に社會經濟の學問に至つては、新勃興の資本的侵略主義の色彩を著しく帯びて居たと謂つて差支ない。然るに今や獨逸は革命に依て、資本的侵略主義と全然反對の方面に驚進せんとしつゝある。新革命を斷行した社會民主主義なるものは、實に資本

的侵略主義の反對毒として起つて來たものである。獨逸が資本的侵略主義に熱中することが強くなればなる程、獨逸に於て社會黨の勢力は擴張した。社會主義なるものは單に思想の上の産物であるのみならず、今日は獨逸に於て具體的に大きな産物となつたのは、端的に此意味を證明するものと思ふ。社會主義の跋扈を防がんとするには、言論の取締思想の統一と云ふやうな事では到底出來るものでない。言論思想は到底力を以て壓迫し、取締ることの出來るものでない。反對に又如何に思想の上に於て跋扈した所が、是に實際の活動力を與へる所の時勢が其處に無ければ、單に一の思想として残るだけで、猛烈なる具體的運動となるものでない。是に具體的基礎を與へるものがあつて、社會主義々義は即ち反對毒となる。其の具體的基礎とは資本的侵略主義である。故に資本的侵略主義にして存する以上は、如何に壓迫し如何に抑壓した所が社會主義々義が勃然として起るは當然不可免事である。反對に資本的侵略主義を採らざる限り、社會主義々義は具體的大勢力となることは無い。獨逸に於て社會主義々義が實際的大勢力となつたは、獨逸の資本的侵略主義が然らしめたのである。資本主義の毒が甚だしくなればなる

ほど、反對毒たる社會主義々義は非常な勢ひを以て加速的に發展して來たのである。

### 獨逸の資本的侵略主義の敗滅

獨逸の資本的侵略主義は餘りに焦りに焦つた爲めに、此度の大戦争となり聯合國を悉く引受け、是と戦争しなければならぬことになつたが、此大戦争に於ては未だ獨逸は負たとは言はれない。軍事上公平に觀察して、獨逸は負たと云ふことは出來ない、双方とも疲れ分になるの外ない形勢であつた。然るに安ぞ知らん外敵よりも寧ろ内敵の方が強かつた。獨逸の焦りに焦つた資本的侵略主義の爲めに、激成し刺戟せられて、國內に於ける社會民主思想は成長した。斯くて獨逸は内と外兩面に敵を受けることになつた、外なる敵は左程強くなかつたが、内なる敵は意外なる勢力を持つて居つた。此意外なる勢力を持つて居る國內の敵のため、獨逸の資本的侵略主義、其依て建つ所の軍國主義なるものが倒れたのである。故に此勢ひにして變ぜざる限り、獨逸は資本的侵略國でなくなつてしまひ、却つて反對なる社會民主國となるであらう。

最早世界列國は獨逸に依て資本的攻撃を被る憂ひは、少くとも當分の間全く無くなつてしまつた事と斷じなければならぬ。然るに我邦の識者の中には、随分見當違ひの觀察をして、戦後獨逸の恢復力は甚だ急速であらう、今一時革命のため獨逸は餘儀なく屏息してゐるが、多少秩序が回復し整理が附いたならば、獨逸は再び非常なる勢ひを以て世界の經濟場裡に有力なる活躍をなすであらう、是れ經濟上大に恐るべきであつて、世界列國は是に對して備へなければならぬ、日本に於ても其覺悟をしなければならぬと主張してゐる。是は飛んでもない間違つた考へである。手近な例を以て言へば、戰爭中我邦の識者論客、否専門の經濟學者までが、戦後獨逸が大々の經濟戰を挑んで來るであらう、戰爭中は輸出が止まつてゐるが、獨逸の製造工業は澤山に拵へ溜てゐるであらう、一度講和成立し世界の秩序が着いたならば、堤を決して水が流れる如き非常な勢ひを以て獨逸品が溢れる、即ち獨逸は大々のダムピングを行ふであらう、是れ最も恐るべき事である、日本も準備しなければならぬと云ふ説を唱へ、此論は殆ど取除の無い位に唱へられて居たが、我輩は屢々其誤解なる事を駁撃して居つた。我輩の考へでは、獨逸は戰爭に従事して國內凡ゆる

る力を擧げて此方に熱中して居るのである、何の餘裕あつて戦後のダムピング等の用意をして居るものか、獨逸はそんな暢氣な態度で戰爭をして居るのではない、又それ程の力が獨逸に在ると思ふは、是こそ恐獨病に中毒したものである、そんな馬鹿なことはあるものでない、と云ふことを屢々公言した。然るに今日は如何、戦後に於る獨逸のダムピング恐るべしと言つた論者は、果して何と言ふか。休戦後獨逸の狀態今日頻々と我々の耳朶を打つ、獨逸國內の狀況は何を吾々に語るか、戦後ダムピングのための準備は何處に出來て居るか、現に今食ふ物もなく着る所の衣服もなく、國內ガラン洞となつて居る有様ではないか、獨逸がダムピングを行ふだらうと恐れた論者は、今何の顔かある、實に愚な話である。是と同じく革命の獨逸が非常に活躍するであらう、經濟上容易く恢復するであらう、ダムピングを行ふであらうと云ふのは、獨逸の眞相を誤つた論に外ならぬ。買冠られる獨逸は宜いかも知らぬが、さう云ふ誤つた判斷に基いて、日本向後の經濟的方針を定むると云ふことは、飛んでも無い事と謂はなければならぬ。此度の革命の性質を全然了解しないから、此の如き空想が出て來るのである。

## 英米今後の思潮

戦後に於て再び獨逸が經濟的に侵略主義を採らうなどと云ふ考へがあれば、何で見す／＼彼のやうなる無條件降服をすであらう。彼の無條件降服は必ずしも軍事上から出て來たのではない。獨逸國民の心理が一變して仕舞つて、武斷的并に資本的共に一切の侵略主義は之を遂行した所が到底駄目である、軍國主義は破産したと云ふことを國民が徹底的に悟つたからである。聯合國が言ふが儘に、軍艦も悉く引渡すアルサス、ローレンも放棄すれば大砲も引渡し、言ふが儘、命の儘に凡ゆる軍國主義の道具を放棄してしまつたのである。是は社會民主々義から言へば甚だ徹底した態度であり、誠と言ふ語を用ひ得るならば、眞に誠ある所の態度と謂はなければならぬ。社會民主々義の何者たるかを十分に知つて居る者から云へば、斯くてこそ社會民主々義の實行と言ひ得るのである。軍艦の引渡を漕つて見たり或は、領地の獲得を冀ふたりして居るならば、それこそ我邦論者の考へるやうに、獨逸革命は全く狂言と謂はなければならぬ。然るに何もかも投出し

て殆ど聯合國の言ふが儘になると言ふことは、是社會民主々義の徹底した證據である。即ち資本的侵略主義は近き將來は獨逸に於て起り得ない否却つて其反對に社會民主々義なる反對力が獨逸を支配するのである、従つて資本的侵略國としての獨逸に對する恐獨病は之を一掃すべきである。經濟的軍國主義は武斷的軍國主義の敗滅と共に獨逸に於て敗滅したこと右の如くである。反對に此獨逸に打勝つた聯合國の内、英國及米國は勝利の爲に、愈々益々資本的侵略主義を強めるであらう。若し此度の戦争が、英國なり米國なりの不結果で了つたならば、或は資本的侵略主義も衰へたであらう。然るに意外なる大勝利を占めて、言ふ所の條件は悉く聽かれ、要求する所の條件は悉く容れられると云ふ状態になつて、英米の資本的侵略主義の前に、之に對抗すべき勢力は何もないことになつて了つた。彼等は思ふ存分腹一杯世界を股にかけて横行し得ることになつたのである。所が資本的侵略主義が横行する所、其處は社會民主々義の勢力を得る所である。英米の資本閥が世界征服に熱中すること甚だしくなれば、必ず遠からざる將來に於て、英米の社會民主々義若くは是に類似する所の同じ種類の反對毒は、又猛烈に起つて來

ることは殆んど豫言し得るのである。

## 二 大主義の角逐

此の如くにして來らんとする世界は、資本的經濟的侵略主義對社會民主主義、此二つの大きな力の相角逐する舞臺となることであらう。英米國は資本的經濟的侵略主義のチアムピオンとして、露獨の社會民主國と相對して、世界に於ける兩極端を代表することとなるであらう。資本的侵略主義又は武斷的軍國主義の上から言へば、獨逸は一敗地に塗れて再び立つ力は全然ない。此點から言へば、獨逸人は固より獨逸に同情を持つて居る人は、今や悲觀の極に陥つて居るに相違ない。加之悲觀しつゝも尙十分に諦めることが出來ないで、そこで獨逸の經濟的恢復力は存外敏速であらうとか、或は獨逸の統一なるものは數百年來歴史的に發達し來つたものである、それが容易に分解することは到底あり得ないことであると力んで居る人が我邦の獨逸通の中にも尠からずある、是は全く物の見方が間違つて居るのである。如何なる事があるとも、擱後速き將來はいざ知らず、近

い將來に至つて獨逸が元のやうな侵略主義國として、軍事的にも經濟的にも復活す可き見込は無いのである。然らば獨逸として全く悲觀すべきかと云ふと、必ずしも然らうでない。或點から云へば、寧ろ獨逸は其本善に返つたものと謂はなければならぬ。獨逸は政治的には或は四分五裂するものであらう、又露國に對し折角結んだブレストリトヴスク條約に於て大なる利益を得たが、之を吐出さなければならぬことになつてしまつた。けれども社會民主主義の立場に立て見れば、獨逸は非常に改まつたものと謂はなければならぬ。露國に反動が起れば兎に角、今日の露國である間は、露國は一の社會民主國と見ても大過は無いのである。但しそれは政治的に謂ふのでない、政治的に言へば、露國はどこに在るか分らぬ、現在は紊亂して居る。併し乍ら社會的に言へば、今露國を支配して居るものは社會民主主義である、又埃國と雖も社會民主國となるであらう、又我邦が援助を與へたチエツヒスロヴァツク國なるものは、全然社會民主國となるであらう、其大統領のマカリツク博士は社會民主主義の上に立つて獨立運動をなしたのである。社會黨を極力危険視する我軍閥や侵略主義者が、此のマカリツク博士を助く可く西伯利出兵を極力主

張したのは一種のアイオニーである。而して獨逸其ものは政治的に四分五裂するけれども革命的に成功する所は即ち社會民主主義が行はれる所である。外國に對して軍事的若くは經濟的に侵略することがなくなつた代りに、獨逸の社會民主主義が勝利を占める點から言へば、今歐羅巴大陸は其一半を擧げて社會民主主義の占領に委した譯である。其發源地は獨逸であるから、獨逸の社會民主主義は一の大なる力となつた譯である。此社會民主主義の内にも、王室中心主義と世界主義とあつて、彼のラサルンは王室中心主義を標榜して起つたのであるが、彼の死後間もなく彼の主義は捨てられて、世界主義のマルクスが勝つた。大正七年五月五日はマルクスの誕生から滿百年に當る。此滿百年目にして彼の世界的社會民主主義が、少くも歐羅巴の一半を思想上に征服した事になつたのは、眞に不思議の因縁と謂はなければならぬ。然のみならず英米に於て、其資本的侵略主義が熾になればなる程、是に對抗して社會民主主義若くは是に似寄つた思想が熾になつて行くに相違ない。歐羅巴に於て其一半を征服し、英米に於ても其社會に於ける大なる勢力となることは、世界に於ける社會民主主義が益々擴まると云ふことを意味して居る。

社會民主主義を極力非なりとする立場に立て居る吾々から言へば、是は歴史あつて以來の大變事で、而して又大危険と斷せねばならぬ。

### 獨逸社會主義の歸趨

此度の戦争はオートクラシーを打倒しデモクラシーが打勝つたから結構であると云ふ世上の論者は、果して此事實を考へてさう云ふことを言つて居るのであらうか、何うであらうか。畏反吉野博士はオートクラシーが仆れデモクラシーの天地となつた而して獨逸は向後穩和なる社會主義に依つて、國力の恢復を計るであらう、是は結構なことであると云ふやうな意見を述べられて居るが、我輩は博士に服し得ぬものである。穩和なる社會主義とは何の謂であるか知らぬが、獨逸の社會民主主義は、果して穩和なる主義であらうか。成程過去三四十年間獨逸社會民主黨は、一の政治運動として段々穩和なる態度を取つて來た。併し是れは資本的侵略主義、武斷的軍國主義を眞向に振翳した政治組織の中に在つて其存在を維持する爲めには、隱忍して是に迎合して行く必要があつたから



である。然るに今日は最早迎合する必要がなくなつた。己の思ふ所を十分に行ひ得る自由の天地となつた。従つて武斷的態度を取るとか、又侵略的態度を取る必要はない。吉野博士は穏和なる社會革命と言はれるが、穏和なるものが何故に彼の大騒ぎをする、何の爲めに無條件降服をしたが、譯の分らぬことになつてしまふ。近き將來に於て吉野博士の所謂穏和なる社會主義なるものは地を拂つて無くなることは、我輩は今から之を豫言するに躊躇しないものである。而してそれは吉野博士の所謂デモクラシーで決してない、ソールンアルデモクラシーである。等しくデモクラシーと言ふけれども、吉野博士のデモクラシーとは大變に異なるのである。吾々は此ソールンアルデモクラシーなるものを、學問上實際上共に之を斷乎として否認するものである。現在の政治組織に迎合する必要なき所には、所謂穏和なる社會主義なるものゝ必要も亦無ない、獨逸の社會民主主義は必らず徹底する外ないと思ふ。

### 英米の人道呼はりは偽善也

然らば是に反對する吾々の立場も徹底的でなければならぬ。吾々は妥協も讓歩も少しも出来ない。學問的良心の上から全然之を否なりとするのである。故に此立場に立つ吾々としては、實に今日の世界は最大なる危険に遭遇して居るものと云はざるを得ぬ。即ち聯合國の大勝利なるものは非常に高い價を拂つたもの、寧ろ價の方が高過ぎると云つても差支へないと考へて居る。吾々は英米の正義人道呼はりは偽善的にして、而して此偽善的正義人道は勝つとも、世界の幸福を來す所以でない、屢々主張するのは此ためである。英米が勝てば資本的侵略主義は益々熾になつて世界の一大危険を意味する。然るに又一の危険は、今や更に大なる危険、即ち社會民主主義の大勝利によつて勝ち得られたのである。吾々は同時に二大敵を迎へたことになつた。此意味から云へば、此戦争がドツテの勝利とも着かず、疲れ分けになつたのが一番世界のためになつた。社會民主主義も大した勢力を得ることも出来ず、資本的侵略主義も非常に疲れ果て、世界を横行する力が無くなつて、是に於て初めて真正なる永久の平和を得られると我々は考へて居つた。今も左様に考へて居る。此度の大勝利なるものは、此の如くに莫大非常なる犠牲

を拂つて出来たものである。犠牲とは數十萬の人が死傷し三千億の軍費を使つたと云ふこと許りではない、是れも犠牲には相違ないけれども、犠牲の内の比較的少なるものである。それよりも更に大なる犠牲は、一方には社會民主主義を世界に旺盛ならしむることになり、他方には英米の資本的侵略主義をして世界を蹂躪せしむること、是が實に絶大なる無限なる且高價なる犠牲である。人類が此戦ひの爲に正義人道に立戻つたヴヰルゾンが人道を叫んで初めて茲に真正の人類の獨立を得たと云ふことは、是は全く夢を見る者の言である。吾々具體的事實の上に思想を置いて居る者から云へば、正義人道は益々其光りを晦ましたと謂はなければならぬ、人類真正の平和の見込は益々少くなつたと謂はなければならぬ。成程軍事上に於ては一時平和は得られるであらう、併し乍ら軍事上の平和は決して永久の平和でもなければ、又最高の平和でもない。如何なる高價を拂つても、軍事上の平和さへ得らるれば宜いと云ふことは、却て人類を墮落に導く所以である。吾々が時あつて不吉なる干戈を取つて立つことは、軍事上の平和より尙尊いものが人類に在ると云ふことを認むるからである。

### 國際聯盟は無意義

今や軍事的平和は得られ、當分軍事上の大戦争は起ることは無くなつたかも知れぬ。併し乍ら名は平和と稱して、其實眞の平和ならざる所の勢ひは益々強くなつて來た。即ち英米の經濟的軍國主義が滔々として世界を漂はしつゝあるのである。是に比すれば所謂戦後の復員戦後の勞働問題、各國負債の償却問題とか、不換紙幣の始末とかは、寧ろ小なる問題である。産業の復舊と云つても、若し社會民主主義が世の中に徹底するとすれば、今迄立つた計劃は皆根柢から覆へされる。どうせ何れも駄目である。反之所謂經濟的帝國主義の立場に立てば、自然産業の復舊とか、又不換紙幣の始末、公債の整理がなかなか難問題となるのである。併し社會民主主義が徹底すれば、例へば國債整理等は比較的簡單になる。凡ゆる國債は放棄しても始末は着くし、又英國で此頃勢力を得て居る議論のやうに、資本徴收と云ふことは、大々的に斷行することも何でも無いことである。唯産業的帝國主義をどこ迄も捨てないと云ふ以上は、是等の事が大變な問題にならう。なぜ

なれば經濟的資本的侵略主義に第一必要なるものは資本である。其資本を尊重し擁護することは、國として社會として第一の根本的要件である。然るに公債を放棄し、或は資本を政府に徴収して、之を以て公債の一次的償却に充てんとするときは、或は嚮後資本の蓄積が非常に妨げられることゝなるかも知れぬ、是は容易ならぬ事である。然ればと云つて、嚮後三十年四十年に亘つて公債の元利を償却して行くと云ふことは、是又重大なる社會問題を含んで居る。社會民主主義に定つてしまへば、是等は比較的輕微の問題になつてしまふ。であるから獨逸の産業復舊は餘り大なる問題とはならぬ。社會民主主義を徹底すれば、吾々が見て打勝ち難き所の難問とする所も、存外容易に處理せらるゝことと思ふ。資本的侵略主義を益々充實して行くと云ふ英國に於てこそ、是等が大變な問題になり、天才の大政治家起るにあらざれば、如何ともする能はざる有様に立ち至つて居る。先年巴里に開かれた經濟會議も、其真正の目的は英國の資本的侵略主義の一の準備行動であつたに外ならぬが、今日獨逸が此の如く無條件屈服をして資本的侵略主義を捨てた以上は、彼の經濟會議なるものは殆ど無意義になつてしまつた。従つて經濟同盟とか何

とか云ふやうな事も皆無意義になつてしまつた。あれは獨逸が戦後恐るべき經濟力を以て資本的侵略主義を振廻して來るであらうと云ふ前提の下に意味を成すものである。獨逸が資本的侵略主義を捨てた以上は、是れに對抗する聯合國の經濟同盟なるものは無用の長物である。又グレーが主張する國際聯盟と云ふことは、グレーは高い理想の上から唱へたのであらうが、之を具體的に解釋すると、やはり英國の資本的侵略主義の機關となる傾向のあることは否定は出來ない。經濟的に之を利用するのではなければ、國際聯盟と云ふことは半以上其具體的の意義を失つてしまふ。戦争防止機關として國際聯盟を作つても、英米にして資本的侵略主義を捨てない以上は、戦争を絶滅せしむることは到底出來ない。獨逸を亡ぼしてしまひ、否獨逸六千萬の人間を悉く虐殺して了つたとしても、決して世界の永久的平和は得られない、なぜならば過去に於て戦争と云ふものは、多くは資本的侵略主義の行詰つた結果起つたものである。

### 資本的侵略主義に與す可からず

商業の發達は戰爭の起ることを防止せず、却て之を招致することは寧ろ當然の話であつて、各國貿易上の競争が激しくなれば、是が最も多く戰爭の直接原因となるのである。人種の憎悪と經濟的利益の衝突とが、凡ゆる戰爭の起る二大原因であることは歴史の證明する所である。然るに英米にして其資本的侵略主義を捨てないのみか、之を益々充實して行く以上は、英米自ら戰爭の發頭人とならぬ迄も間接に挑發せられて、再び世界に戰爭が起ることは斷じて免れないのである。國際聯盟を拵へることは無意義に屬する。國際聯盟を拵へるより英米自ら進んで資本的侵略主義を捨てることが、寧ろ戰爭防止の手段である。尤も人種の憎悪の上から戰爭が起ることがある、即ち經濟的利益に關係なく戰爭が起る事もある。其を防ぐ爲には國際聯盟の如き大に有効有力であらう。日本の如き經濟的利益のため戰爭することはあるまいが、日本が餘り人種的の壓迫を被れば、憤然として干戈を執らなければならぬことに當然立ち至るであらう。乍併世界全體として見れば、人種の憎悪ばかりで戰爭が起る機會は甚だ少い。人種の憎悪に加ふるに經濟的利益の衝突が大に關係するのである。經濟的利益の衝突方面を少くすれば、尠くする

程戰爭の機會は少くなる。今敵なる獨逸は資本的侵略主義を捨てたから、此方面からは當分戰爭は起らぬが、反對に英米に於る資本的侵略主義の旺盛を極むるに従つて、戰爭の憂ひは決して全體として減りはしない。我邦が英米に倣つて資本的侵略主義を取つて對抗するに於ては如何であるか、是は到底出来ない相談である。又斷じて爲す可からざることである。近來支那に於ける利權獲得とか、西伯利の富源獲得とか云つて、我邦にも經濟的侵略主義資本的軍國主義の議論が行はれる様だが、是を英米の資本的侵略主義に比ぶれば、高の知れたものである。我邦は資本的侵略主義に與すべきで無い。而して然る以上は社會民主主義は毫も恐るゝに足らぬ。健康體には反對毒は起らぬ、或は却つ藥となる。社會民主主義を絶大の危険なりと云ふ意味は、資本的侵略主義の行はるゝ所に於てである。然らざれば寸毫の危険もない。我邦にして資本的侵略國となれば、此危険あり、然らざれば何の危険もない。世界を脅かす此二大危険は常に相對、相關的である。然れば我邦は建國以來の國本を益々發揮して、非侵略主義を獨り軍事上のみならず、經濟上にも一貫す可きである。是一には國內に一の危険をも留めざる最も安全の道であると

共に、向後の世界に處して、我邦獨得の長所を以て眞の平和眞の正義を進むる所以である。而も講和會議に於て、我邦が此立場より正々堂々と世界に於ける非侵略主義の爲に有力なる發言を爲すことが、今我邦に取りて當面の最大問題である。英米は必ず我物顔に振舞ふであらう。其矢表に立ち得る國は佛伊を除いては日本あるのみである。世界を鎖さんとする暗雲を排除する大任は、實に繫て我邦に在りと言ふ可きである。單に若干の具體的利益にのみ着眼して此大任を忘れることあらば、日本の日本たる所以は、果して那邊に在るか疑はざるを得ない事とならう。

||大正七年十二月十日談話筆記同一月一日至五日「東京日々新聞」掲載||

### 十三 世界經濟戰の謬想を排す

英國では戰爭の後の戰爭 War after the war と云ふことを言ふものが澤山ある。我邦でも之に倣ふ論者尠しとせぬ。戰後の戰爭とは畢竟經濟戰のことを云ふのであつて、武器の戰爭は今や終つたが之より起る可きものは經濟上の戰爭である、平和克復と共に各國は戰爭によつて蒙つた損害を回復す可く、全力を擧げて産業の振興を圖るであらう、其結果は世界の貿易場裡に大競争が起ることとなり、各國とも其製造工業品を賣出す爲めに販路の争奪に従事するであらう、又資本の利益を増大す可く資本利殖市場の争奪に力を用ふるであらう、是れ即ち世界到る所に經濟戰が起るに相違ない理由であると彼等は云ふのである。従つて我邦も亦覺悟を爲さねばならぬ、あらゆる施設を經濟戰と云ふことを目標として割出さねばならぬと教へつゝあるのである。これは單に貿易業者や資本家が自己の利益を擁護す可き施設を、政府に向つて要求する口實として主張するのみではなく、眞面目な公平な専門學者も亦た同様に力説する所である。故に若し其論にし

て誤なきものならば、我々が折角悲惨極る大戦争の終結したのを衷心から喜んだのは一時の夢で、更らに經濟上に於てより大なる犠牲を要求する所の新しい戦争に従ふことゝなるので、世界の平和とか人道の勝利とか云つたことは、全く我々自ら欺いたことに外ならぬ譯で、誠に迷惑千萬なことゝ云はなければならぬ。目に見えて兵士が死傷したり都村が破壊せられたりすることが無くなつたと云ふ丈の違ひで、人類は依然として『凡てのものゝ凡てのものとの戦ひ』を繼續せねばならぬとは實に心細い限りである。併し乍ら戦後の經濟戰なるものゝ必ず到來す可きこと論者の言の如くであらうか、我邦は世界經濟戰に必ず從事せざる可からざること論者の教へ諭す如くであらうか、此出立點を十分に吟味して見た上でなければ、輕々しく其威喝や激勵に同ずることは出來ない。論者の中には必ずしも經濟戰襲來を確信する譯ではないけれども、同胞の油斷を戒めるには、斯く云つて激勵するに若かずと思つて、右の如く主張するものもあるかも知れぬ。其老婆心切は感謝す可きではあるが、有りもせぬことを有るが如くに教へて、國民を鞭撻すると云ふは、決して永續することではない、何時か其威喝の真相が暴露すれば、其結果は

却つて前よりは悪くなることは疑を容れぬ。又數多き論者の中には、財閥者資本家階級の利益を代辨す可く、世界經濟戰の襲來を聲を高くして叫ぶ人もあるかも知れぬ。何々博士の戦後經濟論と云へば、如何にも容觀公平なる學理研究の結果の如く聞ゆるけれども、奚ぞ知らん、其の人は疾くの前に成金の番頭か手代かに墮落し了つて居て、其成金が一攫千金の利を得る機會を多くする必要上、經濟戰爭を主張し、又實際之を希ふものもないとは云へないのである。歐洲には随分其例がある、炭山所有主の旨を承けて、兎角天下に事あれかし、事さへあれば石炭の價は高くなる、其れで本願は成就だとの立場から、外交上や國際關係や又はは國內の經濟問題に就て事端を滋からしめる可く、煽動挑發的の議論を鼓吹する者が、識者とか學者とかの招牌をかけた者の中にもある例は尠からずある。其等の輩の教唆に乗つて、其生活上に動搖を被る國民こそ實に氣の毒千萬なものである。軍事の戰が資本主殊に軍需品製造家の策略の爲めに挑發せらるゝ例あることは、世人も知つて居る所である。軍戰さへあれば、軍需品製造業は繁昌する、船舶所有主は大儲けを、其の彼等が機會ある毎に好戰的氣運の激成に力や金を惜まないのは誠に當然である、經

濟戰論の鼓吹者の中に其種の人々は絶無だとは如何して斷言する事が出来る。世には危険思想と云ふ事を云ふ人が少からずある。若し眞に危険なる思想ありとすれば、斯くの如き武斷的並に經濟的好戰論が其れである。其他の思想は少くとも我邦に於ては、決して眞に危険思想と云ふことは云はれぬ。我國家我社會の基礎は牢乎として抜く可からず、社會主義思想の爲めに之が危ふせらるゝなど、云ふ如き薄弱なものではない。然るに武斷的並に經濟的好戰論は、一見誠に尤もらしいほど其れほど危険なのである。眞に世界經濟戰が差し迫つて居るのなら、其存在を大言疾呼して國人に知らせるも宜しからう。之に反し其様な危険は實に存在して居るのでなく、所謂『願望は思想の父』で、論者は經濟戰の起ることを切望する爲めに、無いものがあるかの様に力説して、飄箏から駒を出したり、嘘から眞を産み出したりするものであつたなら、其れは實に危険千萬な話である。乃ち論者の唱ふる世界經濟戰なるものが事實有ることか、又有り得可きことかを仔細に吟味する事は、今日に於て甚だ緊要な問題であると信ずる所以である。

## 二

戦後の經濟戰云々の論は戦時中既に屢々繰返された所で、而して其が具體的の運動となつて顯はれたのは、巴里に於ける聯合國經濟會議なるもの是であつた。乍去此運動は今日に於ては全然無意味のものとなつた。聯合國經濟會議延いては經濟同盟と云ふものは、主として敵なる獨逸が戦後世界の經濟界に跋扈するであらうとの杞憂と前提の上に出張せられたのである。我輩が其を杞憂に基くと主張するのは、今日に於ては異論を見出さぬと思ふが、當時に於ては殆んど一人も我輩の論に耳を藉して呉れる人はなかつた。獨逸が戦後に大々的ダムピングを行つて世界市場の奪掠に従ふ可しとは、確定の事實なるかの如く認められて居た。之に對して我輩は獨逸は左様な呑氣なる態度を以て戰爭に従つて居るものではない、あらゆる資源あらゆる能力を戰爭に傾倒して居るものである、何の餘力あつて戰爭を爲しつゝある片手間に、更らに戦後のダムピングに對する準備などを爲す暇ならんやと、是れ我輩が獨逸ダムピング論に反對する論據であつ

た。さて休戦成立後知れ渡つた獨逸の状態は如何であるか、何處にダムピングの準備を爲した事實があるか否々、中々左様な呑氣な次第ではない、我々の想像に幾倍するほど獨逸の現状は悲惨なものである。ありとあらゆるものは悉く戦争の一事に傾け盡して、今日にはモハヤ一物をも止めない有様ではないか。獨逸ダムピング論者は此有様を見て、曩時の杞憂論の非を悟る可きである。然るに今に至つて猶迷夢を醒さず、更らに曰く、成程現在の獨逸は疲弊して居る。乍併これは遠からざる將來に於て恢復せらるゝに相違ない、而して獨逸は更らに非常な力を以つて世界貿易場裡に活躍するであらうと。是れが世界經濟戰論の重なる論據となつて居るのである。

## 三

吾輩の觀察する所、右は一獨逸の力を過信するのみならず、此度の革命の真相を寸毫も理解せざる誤謬と、二英國が其資本的侵略主義をシアシチファイする爲めに、ありもせぬ獨逸飛躍論を以つて世界の人の耳目を眩して居る、其魔術に陥つて居る迷ひとの二に

甚くものである。獨逸の實力は大なるものであつた、將來も亦た必ず大なるものであらう、之れは吾輩も十分に認める。乍併其力如何に大なりとて過去四年の大戦争は、其力の最極限を傾け盡したものである。戦時中ダムピングの準備などのしてなかつたと同じく、近き將來に互つてダムピングを大々的に行ふ餘力は到底存して居るものではない。而して縱令其餘力が存するとしても、之を所謂經濟戰に傾注し來る可しとは、戦前の獨逸に就てなら想像し又た期待し得らるゝ所である、否左様に期待する方が當を得て居たのである、乍去獨逸は革命したのである、其革命は單にカイゼルを追つただけで終る如き皮相的の革命ではない、否政治的の革命のみに止るものでない、社會を國家を國民生活を社會民主化せずんば已まざる社會的の革命が現に進行しつゝあるのである、今日はまだ僅かに發端に過ぎぬ、更らに更らに社會民主化は進むの外はないのである。然らずして單にカイゼルを追ふとか、政體を替へるとか云ふ事の如きに止まるなら、彼の無條件的降伏絶對的求和は、半以上無意味のものとなつて仕舞ふ。社會民主主義の上に立つ革命を行ふ覺悟があつてこそ、彼の俄然急變したる求和的態度が出て來たのである。之を一の狂言と見る



人も我邦にあるが其觀察の不透明は唯々驚くの外は無いのである。左様な馬鹿らしい狂言が六千萬の人衆を包む獨逸に於て行へるものとしたら其れこそ人文史上未曾有の珍事である。

## 四

社會民主々義は資本的侵略主義、經濟的軍國主義とは絶對的に相容れぬものである。獨逸に於て社會民主々義が今日の如く普及したのは獨逸が英國に對して資本的侵略主義の競争を大々的に遂行した結果である。所謂毒を制するの毒である。如何に言論を壓迫するも、如何に思想を取締るも、資本的侵略主義を取る國に於ては晚かれ早かれ社會民主々義(若くは名を異にして實同じき運動)の起る事は之を防止することは出来ないのである。獨逸に於て仆れたものは、獨り武斷的軍國主義のみと思ふは大なる誤である。武斷的軍國主義は少くとも過去四十年の獨逸に於ては、全く資本的侵略主義の手段として其従僕として旺盛を極めたのである。是は決して獨り獨逸のみに限られた現象では

ない。殆んど社會發展の根本通則と看做さざる可からざる事實である。而して世界經濟戰なるものは、少くとも十九世紀の後半から二十世紀にかけては英の資本的侵略主義と獨逸が之に眞似た資本的侵略主義との對抗の謂に外ならぬのである。

然るに今や獨逸に於ては其反對毒たる社會民主々義が勝を占めた。此主義が勢力を得れば得るほど、資本的侵略主義は勢を失ふ可きは當然である。資本的侵略主義が無くなれば、經濟戰の起る餘地も亦無くなる。かくて少くとも英獨間の資本的侵略主義の抗争は(遠き將來はイザ知らず)消滅する運命に陥つたものである。此度の獨逸革命の眞相を理解すれば、獨逸のダムビング獨逸の經濟戰なることの無意味なることは直ぐ分る可き筈である。世上の論者は獨逸革命の心理を少しも理解して居ないのである。

## 五

第二に英國は此度の勝利によつて愈々世界を經濟的に横行し資本的に征服するに殆んど向ふ所(采國は別として)一人の敵なき事となつた。敵のないのに戰爭の起る理由

はない。然るに英國人が切りに獨逸のダムペング論を力説する所以は、所謂テレ隠して、自己の横行を世界の前にジアスチファイするには、我れ好みて之を爲すにあらず獨逸が脅すから不得止對抗手段として、斯かる事を爲すのであるとの口實を得るのが主たる動機である。現に獨逸の求和は眞面目でない狂言であるだからウント過酷の條件を課さねばならぬと主張すると同一筆法である。今日はモハヤ獨逸の狂言云々の妄なることは疑もないに拘らず、我邦では拜英論者中時勢後れの人々は、延着のタイムスを其儘に受賣しつゝあるのは笑止千萬なことである。

以上二つが世界經濟戰論の起る主なる根據と思ふ。而して之に加ふるに、誠心誠意の杞憂論者あり、又た成金御用の經濟的軍國主義論者あり、相共に世界經濟戰論を如何にも眞なる事の如く、世人に思ひ込ませるに努力しつゝあるのである。

是れ實に恐る可き危險思想であつて、頑迷なる反動論者と相待つて、當分は我邦の國論に大なる累を爲すものと信ずる。而して此謬想に段々深入りして、日本をして歩一歩不知不識の間に英國流の（或は米國流の）資本的侵略國たらしむることありとしたならば、

般鑑は遠からず獨逸に在り、外は世界憎惡の標的となり、内は社會民主々義の勃興を止むる事能はず、腹背共に強敵を受けて二進三進も行かぬ事、今日の獨逸の如くならぬとも限らぬ。反之資本的侵略主義の侵入を防遏し、眞に正義人道の上に（演説や外交文書の上計りの正義人道では駄目である）國本を確立すれば、如何なる思想が入り來るとも、決して憂ふるに及ばざるのである。社會主義やデモクラシーは我日本に於ては、決して何等の危険を意味せぬ、それによつて動搖する如き薄弱なものでは我日本の國本は斷じてない。乍併資本的侵略主義に陥るときは、獨逸に於ける如く其反對毒たる社會民主々義の勃興することは如何にするも免れ難いのである。英國は向後益々資本的侵略國となるであらう、我邦には之を羨む人も尠くない様であるが、新進の日本が英國の眞似をするは、獨逸と同じ運命に陥る外はない。而して英國も亦た資本的侵略主義を益々盛んに行へば行ふほど、社會民主々義若くは類似の主義の運動が勃然として起ることは之を免れまいと信ずる。米國も亦た同じである。唯時期に長短がある計り資本的侵略主義の導く可き最後は皆一である。單に武斷的軍國主義の危険なるのみでない。否武斷的軍國主

義は多くは資本的侵略主義の従僕として起るものである。即ち國と云ふ國は何れも資本的侵略主義を續行して行く以上何れも今日の獨逸と同一運命に立到るの外はあるまい。

而して獨逸は其資本的侵略主義の時期の短かくて済んだだけ幸福であつて社會民主々義が若し健全なる發達を遂ぐるものならば（過去に照らす可き經驗が何國にもないから、其將來は豫測する事全く不可能であるが今日の悲運は却つて幸運となるかも知れぬ。反之益々資本的侵略主義の深味へ陥り行く國こそ神の前に於て世界の歴史の上に於て最も不幸なる國と云ふ可きである。幸にして我邦は資本的侵略主義は若干の論者之を唱ふるのみで未だ事實となつて居らぬ今に於て此度の貴き教訓を深く味つて日本は日本として飽迄も正義の上に立つた平和的經濟國として進む覺悟を定むべきである。世界經濟戰が事實起つたとしても、日本は其仲間入は斷じて爲す可きではない。況んや其は少く共（英米間は別として）今日の世界に於て事實ならざるをや。殊に成金御用連が自家の利益を主張する口實として力説する世界經濟戰論なるものは、之を一束にから

けて國外に放逐す可きである。聞く所によれば實業界の長老中濫澤男爵だけは經濟戰等と云ふことを唱ふるは甚だ不可なりとの意味を公言せられつゝある由是實に空谷の梵音である。願くば男爵は更らに其聲を大にして同胞の迷夢を醒まし我等の前に横はる怪敵を退治するに力を惜まざれ。

|| 大正七年十二月八日稿同一月『太陽』掲載 ||

## 十四 資本的侵略主義の危険

|| 戦後の世界を救ふ者は佛國と日本とあるのみ ||

講和談判の経過は如何になり行くか、今日に於て之を豫測するは不可能でもあり、又愚

な事である。唯予輩が刻下の感想を以て判断すれば、英米の樂觀論者は恐らく甚しき不満足と不安心とを購ふに過ぎない結果に陥る事かと思ふ。意外なる勝利に眼がくらんで、デモクラシー萬歳と唱へて居る人々は、其勝利なるものが如何にして得られたかに就て反省してゐない。予は嘗て論ぜし如く、聯合國の全體として言へば、今回の勝利なるものは、己れの力で獲得したところの勝利たるよりも、寧ろ拾つたところの勝利である。勝利が戰場に落ちてゐたのを、英米は之を拾つたに過ぎない。恰かも下手な獵夫が己れの放つた鐵砲玉で落ちた鳥と思つて拾つたのが、奈んぞ知らん、其の鳥は他人の彈丸に當つて落ちたのであつたと同様である。己れの放つた彈丸は速く空をかすめて他方に飛んで居るのである。眞に鳥を撃ち留めた彈丸は聯合國の大砲から放つたのではなくして、獨逸の革命が放つた彈丸である。デモクラシー萬歳、オートクラシー全敗と絶叫してゐるけれども、其のデモクラシーはロイド・デヨーデやウキルソンのそれではなく、又恐らく我邦に於て吉野博士や姉崎博士の力説せらるゝところのデモクラシーであるまい。近頃加藤子爵はデモクラシーの勝利といふ事を巧妙に説明せられたといふ事であるが、恐らく

之も今次の眞正の勝利者たるデモクラシーの意味ではあるまい。成る程、デモクラシーが勝つた——併しながら、これはウキルソン以下加藤高明子に至るまでの諸氏が意味するデモクラシーでは断じて無い。以上諸氏の意味あるデモクラシーなるものは、英米舊式の政治的デモクラシーである。然るに獨逸のオートクラシーを一撃の下に粉碎したデモクラシーは、其名はデモクラシーではあるけれども、其の性質は全く異つたものである。即ち獨逸のソーシアル・デモクラシー是れである。加藤子爵は此のデモクラシーを指して言はれたのでは恐らくあるまい。是はウキルソンやロイド・デヨーデさへも意外と感ずるに相違ない。——若しデモクラシー萬歳といふ事が言へるとすれば、其の萬歳呼號者はソーシアル・デモクラシー萬歳の事であることに氣がついて居るか何うか。

併しながら斯く言ふものゝ、今次の戦争の上には、獨り佛蘭西だけは實に勇敢に又獻身的に奮闘した。彈丸は狙を外れたけれども、鳥を拾つた同じ仲間の内では、勳功第一に居ることは断じて疑を容れない。我邦の識者の中には、獨逸に革命の起つたのは畢竟食糧の不足が原因である、而してこれは一に英國海軍の偉大なる威力を以てしたところ

の獨逸封鎖の力である。随つて向後日本も大海軍國とならねばならぬと主張する人もある。然るに獨逸封鎖に依つて苦しむのは獨逸軍人のみでない。獨逸六千萬の老幼男女悉く之が爲に苦しんだのである。兵糧賣にしてかゝつたと云ふ事は、戦争の習ひとして止むを得ないとは言へ、吾人の標榜する人道主義から見て果して讚美すべきものであるか、謙信が信玄に鹽を贈つたといふ逸話を武士道の美談とする氣概には到底及ばぬ。寧ろ甚だ卑怯な且つ慘酷な所業である。

之に反して佛蘭西の勝利は如何なる意味の武士道から言つても、一點の非難を挿む餘地のない立派なものである。吾人は理論より云ふも感情の上からでも、日本人として此の佛蘭西人に對して實に言ふべからざるの尊敬と共鳴とを感ぜずには居られない。然るに我邦に於ては英米崇拜論者のみが跋扈して居るからして、佛蘭西の此偉大なる勳功に對して充分なる諒解(アンプレシジョン)を有して居ない。之は實に残念な事であり又眞に怪しからぬ事である。此事に就ては他の處に於ても述べたのであるが十一月二十一日東京市の休戦祝賀の際に、日本國旗の外に英米の國旗は到る處に之を見たが、

佛蘭西の國旗は場の一隅に有るか無しかに置かれてあつた。殆ど總てがそれであつた。青年會館に於て予輩が講演した時に、ふと壇上を見ると、そこには日本國旗を中心として左右に英米の國旗が列つて居る。而して佛蘭西の國旗は其の下方に淋しく置かれてあつた。これは一些事であるけれども、やがて我國民の世界的眼光の狭小不注意、英米崇拜の弊害を暴露したものである。

斯く軍功第一に居る佛蘭西は、此度の講和談判に於て不満足を感じることに最も勤い國であらう。只最も失望するであらうと思はれるのは英吉利である。何となれば、佛蘭西は全く祖國の運命が必要としたからして此の戦争に従事し、而して力の限り奮闘した。物質的野心、經濟的野心、人種的野心の如きは殆ど有しなかつたこと、それは我日本と全く同一である。只佛蘭西は多年の懸案あるアルサス・ローレン問題の解決のみは期して居つた。而して之は既に休戦條約に於て其の多年の希望は達せられたのである。此れ以上佛蘭西としては敵なる獨逸から多大の獲物を得ようとは望んで居るまい。それ故に彼は講和談判の経過が如何に成り行かうとも甚しき不満足を感じるべき道理がない。

之に反して英吉利人は多大の物質的利益を期待して居ると思ふ。然るに講和談判の経過として英吉利人の期待して居る程のものは恐らく獲られぬであらう。随つて彼等は大きな不満足又は不安心を免れないであらう。併しながら、具體的なる物質的利益の點から言へば、よしそれが不満足であつても、英吉利が従來目の上の痲痺として居つた、恐るべき競争者なる獨逸が無條件的に降伏したといふことは、歐羅巴の均勢を全然覆へして、最早や均勢と云ふ事すらも問題とする必要はない程になつた。歐羅巴に於て否世界に於て、米國を除いて英國に對抗する國は一つもないことになつた。此點を考ふれば、英國民は決して失望するには當らない。併しながら、それは他面に於て世界の大危険を意味する。——獨逸のオートクラシーは憎むべしとするも、とにかく英國以外に一の大勢力が存して、之と對抗して居つたと云ふ事は、世界の均勢を維持する上に於て大なる力があつた、それが今減びてしまつた。此の點から言へば、世界の列國は如何に軍備を擴張するも、如何に海軍を大にするも、尠くとも當分の間はこれを用ふるに處がない。絶大なる強國英吉利と太刀打の出来る國は世界中に一ヶ國もない。即ち世界は英國の富、英國の海軍

の支配に一任する外は無い形勢となつた。資本的侵略主義の横行は、實に向後の世界に取つて絶大の危険を包藏して居るものである。ソシアル・デモクラシー對資本的侵略主義兩者何れが勝つか、向後の世界大問題である。

## 二

具體的利益の上から言へば、講和談判が甚だ不満足のものであらうと云ふ事は、敵なる獨逸の責任者がゐなくなつた結果である。カイゼルを聯合國に引渡したところで、彼は五尺の身體の提供し得るのみであつて、英吉利人の求むる具體的利益は最早其の手に中に存しない。カイゼルを八つ裂きにした處で一錢の償金も取れず、一片の土地をも取れはしない、而して予の見るところでは、恐らくカイゼルは速からず死ぬるであらう。之が彼に取つて最も安全にして且當然の道行である。何となれば、カイゼルの生きて居るところを迷惑とするのは、聯合國よりも獨逸そのものゝ方がより大である。カイゼルにしても、生き長らへる限りは復辟運動が起らぬとも限らない、又之でなくとも、暗に反對運動の

策源地となる危険がある之は獨逸の革命政治家の最も恐るゝ處である。兎に角當面の責任者は最早今は無いのである。今日獨逸を支配して居るソーシアルデモクラシーは、此度の戦争に始めから反對した人を尠からず含んで居る。又た獨逸の社會黨は普佛講和の際に佛蘭西を餘り壓迫してはならぬと主張して所謂公平なる講和を盛んに主張したのもあり、就中アルサスローレンを割讓せしむるは斷じて不可なりと力争したのである。それが爲めに彼の有名なる謀反事件を惹起して、社會黨の重立つた人々は皆な獄に投ぜられた。併し今のエベルト一派にして、とにかく獨逸を統一し得らるれば講和談判に於ての當面の責任者として聯合國の要求に應ずる力はあらう。併し之が甚だ疑はしいのである。予の見る處では、エベルト内閣の運命は餘り長くはないのである。所謂セバラーチストの運動益々盛んになつて來る、遂に分裂を免れぬであらう。リーブクネヒト一派の勢力は益々強くなつて來る、これ丈でもエベルト内閣を倒すかも知れない。況して南獨逸の如きは公然分離を宣言して居るのである。

獨逸が一個の共和國になるか、數個の共和國に分れるかは興味ある問題であるが、予輩

は寧ろ後者の可能性の大なることを認める。尤も所謂勞兵會なるものが形勢に乗じて政權を執るやうになるかも知れない、さすれば所謂ミリタリズム(武斷政治)が一時出現するかも知れない、我邦の獨逸通の中には斯く信じて居る人もあるやうであり、又内心之を希望して居る人もあるかも知れない。之は無理からぬ事である。獨逸流の哲學觀歴史觀のみで頭を固めた人から言へば、兎に角獨逸國民の過去百年の努力の標的は、獨逸の統一といふ事にあつた。之を度外に置いては近世の獨逸は了解出來ない。然るに縱令革命があつたと言つても、其が獨逸の統一を打破するといふ如き事は到底あり得ないと云ふるのは、尤も千萬の事である。又他方に獨逸人のオルガニゼーション(組織力)獨逸人のエフィシエンシー(能率)といふ事を深く信じて、よし今一時革命の爲に對絶的の屈伏をなしたとは云へ、獨逸は間もなく其統一の力に依つて偉大なる回復を實現するに相違ないと信ずる人が可なり、澤山にある。予の見る處ではこれはとんでもない間違である。今回の獨逸の革命の真相を全く了解する力の無い議論と言はねばならぬ。

戦争中も我邦の學者や實業家の間に所謂戦後の經濟戦といふことを頻りに唱道した

人があつた殊に戦後に於て獨逸が非常な勢を以てダムピング(投賣)をやるであらうといふ事は有力なる經濟學者すら屢々唱へて居つた。予は之に對して常に其愚論の甚しき事を繰返して主張した。其理由は戦後の經濟戰に對しても準備を成しつゝ、此大戰爭を獨逸がやつて居るなどとは獨逸を買ひ被るにも程がある、嗤ふべき恐獨論である、同時に最負のひき倒しである。殊に獨逸國民の國民的自覺にケチをつける議論であると主張した。カイゼル許りが戰爭して居るのではない、獨逸國民舉つて戰爭して居つた。而して全力を擧げて食ふものも無く、着るものも無くても之に堪へ忍んで戰つたればこそ、あれだけの戰爭が出来たのである、何の餘力あつて戦後のダムピングに備ふべき準備を傍ら驚むなどといふことがあらうか。獨逸にはそれ程の力はありはしない、同時に獨逸國民はそんな暢氣な覺悟を以て戰爭して居るのではない、一生懸命にやつて居た。其故に戦後の獨逸のダムピングを恐れるなどといふことは意氣地なしも甚しい經濟論であると屢々主張した。擬て今日はどうかであるか、如何なるダムピングの準備が出来て居るか、食ふもの着るものも無い獨逸であればこそ無條件で屈伏したではないか、我邦のダムピング論者は此の状態を見て果して何といふか。獨逸に對する觀察の愚蒙を極むること凡そ此の類である。

戦後の獨逸が容易に回復して、世界經濟戰に有力な活躍を成すであらうなどといふ現在の議論も其の愚なるに至つては全く此の類である。予輩の平素最も尊敬する氣賀法學博士の如きでさへも近來此の種の議論を公言して居らるゝやうである。又實業界に於ては和田豊治氏の如きも或る新聞に左様の議論を出して居られた。

和田氏はとにかく氣賀博士の如き専門學者にして尙ほ且つ有數なる獨逸學者でありながら、此の種の獨逸カブレの議論を唱へらるゝのは、如何に獨逸の實情が我邦に了解せられて居ないかの有力なる證據であらう。經濟戰などに於ての勝利者にならうなどとの考へがあるならば彼の如き無條件降伏などを敢てする氣遣は無い。獨逸の軍人は成程大和魂は持つては居らぬ、併し獨逸魂を有して居る、何ぞムザ／＼と軍艦を英吉利の手に引渡してノコ／＼と歸つて來るものぞ。然るに之を敢てすると云ふのは、彼等の思想が全く變つたからである。カイゼルの下に武力的並に經濟的世界侵略を理想として居



つた獨逸國民は最早や存在してゐないからである。

乍去國外に居る獨逸人は依然として右の如き夢を見て居るかも知れない。此間予は某獨逸人に向つて、君はリツプヴァンウキンクルだ、君は最早や今日の獨逸人ではない、カイゼル時代の遺物だ、だから今日の獨逸が少しもわからないで憤慨してゐるので、國に居る眞正の獨逸人は君のやうな事は考へてやしない、君よりは我々日本人の方が遙かによく眞正の獨逸を知つて居るものだと言つてやつた。獨逸人のみでなく、日本人の中にも十年前に留學した時分の獨逸、否開戦間際に追出されて來た當時の獨逸が、今日の獨逸だなどと思つてゐるものが多い、ボンヤリも又甚しいではなからうか。開戦間際の獨逸國民であつたら、決して今回の如き休戦をする筈はない、否極端に獨逸を憎み罵る拜英米論者の中にも、密かに戦後の獨逸の回復などを恐れて居るものが少からずある。彼等も矢張一種の恐獨病者である。——戦後の獨逸は全く異つた立場から新たに出發するであらう、それ故に容易に有力なる共和國が出現して、カイゼルの帝國に代るであらうなどといふ事は見當違ひの觀察である。故に講和談判に際しても、物質的利益を投げ出さしむべき

相手が恐らく見付かるまい。之れ予輩が講和談判の経過は極めて不満足なものに終るであらうと云ふ所以である。

併しながら、それと共に世界は二つの大なる對敵の戰場となるであらう。即ち英吉利の經濟的帝國主義と其反對毒(アンチドット)たる社會民主主義是れである。此二つこそ全く相容れないところの不倶戴天の仇である、兩者の間に妥協の道は寸毫も存してゐない。それ故に此儘に放置すれば世界の自餘列國は、英の資本的帝國主義、經濟的侵略主義に均霑して餘澤を受くるか、社會民主主義にかぶれて社會革命を行ふか、何れにしても世界の文明は、今や此の二者の對抗てふ絶大な危険の前に立つて居る。之は實に恐るべき形勢と言はねばならぬ、知らず、彼の政治家學者等は之を自覺してデモクラシー萬歳と言つて居るのか。

## 三

予輩の信ずる處に據れば、此の危険なる世界の形勢に處して、世界を救ふべき使命を有

してゐるものは、獨り佛蘭西と日本とあるのみ。海賊主義でも無く、革命主義でもなく、過去の文明を破壊せずして、更に之に建設的の貢獻を成し得る力あり、又なさねばならぬ義務を有して居るものは佛蘭西と日本とである。

佛蘭西は今回の戦争の爲めに非常なる苦しみを嘗めた。それにも拘はらず、舉國一致所謂ラスト・マン（最後の一人）に至るまでといふ決心を以て戦つた、そして歴史上に殆ど類例の無い偉業を樹立した。無論軍事上では數の上に於て佛蘭西は獨逸の敵ではなかつた、又戦術の上に於ても劣つて居つた。準備（プレ・エアドネス）に至つては殊に劣て居つた。だから戦争の上に於ては獨逸に對して常に強味はなかつた。其でありながらあれ丈け持こたへたといふ事は、可なり佛蘭西の事を知つて居る積の吾々さへ、全く豫想外であつた。獨逸のエイシエンシーの大なるものであつた事は言ふまでもないが、之に對抗した佛蘭西のエイシエンシーの實に豫想外に強大であつたといふ事は、我邦では未だ充分に認められてゐない。否佛蘭西人のモーラル・エイシエンシー（道德的能率）國民的能率の偉大であつた事は殆んど度外に置かれて居る。予輩は軍事上の形勢

の甚だ悪かつた時に於ても、佛蘭西國民の道德的能率の大なる事を屢々公言してゐた。

斯くの如き大なる道德的能率は、即ち佛蘭西文明の將來を語るものである。従來佛蘭西文明は一方アングロサクソン文明、他方獨逸文明の間に板挟みになつて居た。それ故に哲學上に於ても科學上に於ても、又文學上に於ても第一位を占むる譯に行かなかつた。然るに此度の大戦争に於て、非常なる訓練を受け、非常なる試験を受けた佛蘭西文明は、戦後に於て非常なる勃興を來すに相違ない。而し十九世紀より二十世紀に互りて佛蘭西は若干の異例を外にしては、全く侵略主義を取らなかつた國である。軍事上殊に經濟上に於て彼は全く侵略國でなかつた。陸賊も海賊も働かなかつた國である。之は消極的に奈翁のお蔭と言つてもよからう。併し其反面に於て、佛蘭西が經濟上に於て退歩したかの觀を成したのは止むを得ない事である。何とならば十九世紀は經濟的侵略主義萬能の時代であつた。此時代に處して非侵略國たる佛蘭西が、表面上退歩の姿を示した事は寧ろ當然である。併しながら積善の家には餘慶ありで、十九世紀の大半を通じて、非侵略主義を以て一貫して來た彼は、今や世界文明を救ふべき使命を帯ぶる事となつた。十九世紀

は資本主義の時代であつた。此點に於ては佛蘭西も亦時代の氣勢に漏れてゐない、矢張り資本主義の國であつた併しながら佛蘭西の資本主義は侵略的資本主義ではなかつた。轉じて我日本は如何侵略主義も資本主義も全く我邦にはなかつたと斷言して差支へない、況んや資本的侵略主義などといふ事は願つても出来ない事であつた。無論經濟的發展の通則に漏れずして、我邦に於ても徳川時代に於て漸次經濟生活が資本主義的になつたことは疑ふべからざる事實である。併しそれは對内的であつて對外的資本侵略主義るものは極めて最近を除くの外は我邦にはなかつたのである。——支那に於ける利權獲得とか、西伯利亞に於ける利權獲得とか言つたところで、高が知れたもの、否資本的侵略主義でなかつたのみではなく、市場的にも侵略主義ではなかつた。之は一面我邦の弱點たるに相違ない、これ故に日本の軍國主義者帝國主義者は之を甚だ遺憾として、我邦をして市場的侵略主義國進んでは資本的侵略主義國たらしめんと焦慮苦心して居る。併しながら、之は獨逸の例を省みれば其の恐なる事一目瞭然である。獨逸の軍國主義といふものは武斷的軍國主義のみではない、英吉利に對抗して經濟的軍國主義を取つた事が、今

日の結果を來したのである。然るに日本が後れ走せに其の眞似をするなどとは、之れこそ亡國の所業である。

斯の如くにして世界列國の内に尠くとも過去一世紀間に於て資本的侵略主義國でなかつたのは佛蘭西と日本とがある。然らば此の兩國が其の特殊の地位を自覺して、一面には資本的侵略主義に對抗し、他面には社會民主主義に對抗して、世界の文明を脅かさんとしつゝあるところの危機に處して進むことは、これが今後の世界を救ふべき唯一の途であり而して其の使命が、日佛兩國に繋つて居ると予輩が主張するのも、決して空想では無いと信ずる。

|| 大正七年十二月談話八年一月『中外新論』掲載 ||

## 十五 拜英論も亦た甚しからずや

十五 拜英論も亦た甚しからずや

三三

日本を以て英國の植民地視せんとする謬論は、戦争中之を識者なる人々の口より聞き、て我々の苦笑に堪へなかつた所であるが、其は獨逸と云ふ共同の敵を有して居つた間は、若干心にも無い空御世辭の必要からとして我慢も出來た。然るに敵の殆んど撲滅せられた今日、殊に同じ聯合國の仲間の問題に就て、日本人であり乍ら、英吉利人さへ心ある人の中には到底公言せざる可しと思はるゝほどの英吉利本位論を唱ふる人のあるは誠に困つたことで、此くの如き人があるから、國體擁護の思想統一のなど、保守チヨンマゲ論が勢力を得て來るのである。我々は日本人である。日本人たる以上其思想は、必ず日本人の思想である可き筈で、『我思ふ故に我在り』を模して、『我思ふ時既に日本人たり』と云はざるを得ぬのである。日本人たることは經驗的にゴテ／＼理窟をこねくり返して初めて知り得ることではない。我々の思想に取つては、我々が日本人たりと云ふことは『アブソリュートカテゴリー』である可き筈である。然る間に如何に社會主義にかぶれた人と雖も、決して危険性を帯ぶることはなかる可き筈である。之れに反し我々が物事を考ふるに、我は日本人たりとの『アブソリュート』あるに非ざれば、其は危険性を帯び得るのである。

若し國體擁護と云ふとが意味を有するとすれば、其れは社會主義（即ち資本主義の對敵）又は此の頃流行の民本主義（即ち官僚主義の反對）に對抗するものではない、對抗の必要はない。何となれば社會主義も民本主義も日本人が日本人として思想するものたる以上は、國體に對し何の破壊性危険性をも帯びるものではない。唯だ社會主義、民本主義が日本人として思想せられず、『インターナショナルイズム』としてのみならず、却て外國人の思想として思想せらるゝとき、茲に多少の危険性が起る。具體的に云へば、獨逸の社會民主々義、英國の民本主義、米國のデモクラシーを其儘に、顔許り日本人であつて、頭や心はすつかり獨逸人なり英米人なりに化石して仕舞つてゐるものとして、獨逸的に又は英米的又は露佛的に思想せられたるに至りて、之を合理付くる處の『アブソリュート』が丸で逃つて居るから、其處で日本としての『アブソリュート』たる日本國體に多少の危険性（國體は其等の人々の言論や思想で些の動搖を來すものでないは勿論である、唯だ思想上の危険性たるに止る）を帯ぶるに至るなきを保せぬ。危険性の有無は今姑く措く、其顔を日本人にして其頭や心を外國人とすることは、合理的存在として許す可からざること、

學問上思想上我々は之と戦はねばならぬ、否其打破を期せねばならぬと信ずる。之は我等が日本人たる限り當面の要求であり又た義務である。

茲に我輩は平生學者として又た人格者として深く敬服し居る所の僚友中に稍々其嫌のある公言を聞くに至つたことを甚だ遺憾とする。殊に其論は何等學問的の立證を伴はざる『ジヨルナリスチック』の論斷たることを更らに悲まざるを得ぬものである。其は即ち大正七年十二月十日の東京朝日新聞に掲げられた林毅陸教授の『講和の基礎問題』(五)の一節である。念の爲め左に引用する。

想ふに海洋自由の論は、特に今回の開戦以來頻に獨逸人に依つて唱へられた。而して獨逸人の目的とする所は、キエールマン及びヘルトリング等の公言せるが如く、英國をして海上要塞を撤去せしめ、例へばジブラルタル、マルタ及香港に於ける武裝的根據地を放棄せしめ、以て海上權を打破し、以て獨逸の世界的活動を自由ならしめんとするにある。彼等は實に今回の開戦以來、英國が制海權を握れる爲に非常なる苦痛を感じ、其の結果、自由論を絶叫するに至つたのである。然も英國の制海權は幾世紀の努力に依つて築かれたものである。英國の生命は實に之に依つて維持されてゐるのである。獨逸は狂暴無比の潜航艇戰を以

てするも、之を破り得ざりしものである。然るに一朝口舌の力を以て、此の英國の制海權を打破せんとするは、餘りに蟲の好き話と言はねばならぬ。されば英國人の冷笑を以て之を迎へて居た。従つて本年一月八日ウキルソン氏が十四箇條中に此項を掲ぐるや、英國人は不快の感なきを得なかつたのである。今回愈々ウ氏十四箇條が講和の基礎とせらるゝに及び、英國海軍協會の如き率先して反對運動を起し、に解釋自由の保留を爲すこととなれるは、當然の成行である。

是れ豈に拜英論の甚しきものにあらずや。我日本人は海の自由に就て今特に自發的に之を主張する地位に立たずとも、日本の國本たる非侵略國、眞正の正義人道國たる國是の上からは、當然ウキルソンの主張に合致す可き筈である。當然海の自由の主張に熱心に賛同す可きである。否其れがウキルソンの主張に係らず、エベルト、シアイデマンの主張にかゝるとも、又はクレマンソーの主張にかゝるとも、トロツキー等の主張にかゝるとも、海の自由其ものは正々堂々たる主張であつて、我々は日本人として全く之に共鳴せざるを得ぬものである。抑も海の自由は、ユーゴー、グロシーアスが壯年の著述たる *Mare Liberum* に於て、始めて學問的に法理的に唱道したる正義の議論である、之に對して *Mare clausum* (鎖

されたる海論の主張者セルデンは、英人は之を喜ぶとも世界の公論は之を非とするのである。我々日本人も亦然る可きである。グローションアスは西班牙葡萄牙の海賊主義に對抗す可く其の山海論を提唱して、而して世界の公論は全くグローションアスに與みしたのである。海の自由と海賊主義とは兩立せぬ。西班牙葡萄牙の海賊主義のみが唯一の海賊主義ではない。海の自由を拒むものは即ち海賊主義を捨てざるものに外ならぬ。然るに非侵略國として二千年の光榮ある歴史を有する我々日本人が、今海の自由を拒むのを以つて當然なりとか、又之に對する正義の主張を目して一朝口舌の力に依るものなりとか、又た幾世紀の努力によつて建設したものだから、如何に曲事非事であつても、之を尊重せざる可からずとか、獨逸軍國主義者の口吻よりも更らに甚しい海賊主義論の主張を爲すとは、豈に驚く可きの事にあらずや。幾世紀の努力によつて世界の爾餘の國權を壓迫して海上に横行したことは、如何に世界の不幸なりしかを知らざる可からず、之れによつて非常の苦痛を感じたものは、獨り單に獨逸のみに止まらぬ世界皆然りである。獨逸の陸賊打破せざる可からざると同じく、又た此の海賊主義の打破を期す可きで、ウキルソン

が其チアムピオンとして顯はれたることは、世界に光明を齎すものとして、世界の公論は必ず心より之を歓迎す可き事である。而して其主張が毒に對する毒たる強力暴力によらずして言論の力を以て打建らるゝは、正義公明の立場を愈々明にするもので、過去幾世紀世界に横行し、殊に過る一世紀世界を苦しめたる海の獨占を、一朝ウキルソンの口舌の力を以て（ウキルソンならずとも、エベルトの口舌の力たることも事は全く同一也）打破するを得るは、實に結構なことではないか、其でこそ正義人道自由デモクラシーの眞の勝利を絶叫し得るのである。獨逸の軍國主義も一朝口舌の力を以て仆し得たならば、如何に我々は幸福なりしぞ。然るに何千億の費と何萬の人命とを其絶滅の爲めに費したは、實に悲惨極る事であつたのではないか。此の犠牲を拂はずウキルソンの口舌の力で、而して我々皆ウキルソンに加擔して熱心に之を主張するによりて、幾世紀に渉る海の不自由から世界を解放する事が出来たらば、其れこそ姉崎文學博士の言はるゝ通り、ウキルソンは眞正なる人類獨立の大使徒、人類解放の救主となるのである。我々日本人も及ばず乍ら、此のウキルソンに聲援するによつて日本の國本を發揚し、兼て世界のあらゆる正義運

動の仲間入をする可きである。英人が之に反対するは我田引水論なり英人として反対するは恕す可き點がありとするも、日本人が之に反対するは恕す可き點は一もないのみならず其れこそ日本の立國の大本たる非侵略主義正義人道主義を褻切るものと思ふ。林君の説の如きは、日本人が日本人として思考するものとしては如何にして立てらる可きか、我輩は全く之を理解する能はざるものである。林君は此の問題に就ては其頭を英國人の頭と入れ替へたのではあるまいか、左様とでも解釋せざれば、『我生るゝ時既に日本人たり』而して『我思ふ時既に日本人たり』と信ずる我輩如きものには、實に不思議千萬である。之を目して拜英論も亦甚しと爲す果して亦た君を誣ふるものなりや否や、所感を記して同胞の清鑑を乞ふ次第である。

|| 大正七年十二月十日稿八年一月十五日『日本及日本人』掲載 ||

## 十六 世界の平和望み遠し

造語の魔力は驚く可し嘗ては民黨吏黨と云ふ造語が少からぬ用をなした。官僚打破、憲政擁護等も にと取つて巧妙な造語であつた。所謂官僚の徒は此點に於て遠く政黨者流に及ばぬ。乗公持平などは甚だ拙い造語であつた。肝膽相照す等は官民の合作であつた。少くも勝つて居たが純民製造語には逆も及ばぬ。思ふに犬養毅氏の政治的魔力の一半は其巧妙なる造語術に胚胎するであらう。併し日本第一の造語術の泰斗を以てしても西洋人の其れの足下にも寄り付けぬ。此度の戦争は實に一面に於て造語戦であつた。ロイドデューゼウエルソンを始め英米の政治家は腦漿を絞つて造語法の競

争をして、世界の人間を其巧妙なる魔術にかける可く一生懸命にやつた。其中でもウキルソンは水際立つた巨匠であつた。軍國主義の撲滅、オートクラシーの退治而してデモクラシーの勝利の如きは巧妙中の至妙なるものであつて、誠によく世界の耳目を引付ける大魔力を有して居た。民族自決主義なる造語は功過相半すと云ふ可きであらう。バルカン、スラヴ民族を颯する力は至大であつたが、印度人、愛蘭人、布哇人、菲島人さては朝鮮人までが之を振廻すに至つて、造語者はハタと當惑したのみならず、西洋人の口眞似をして民族自決主義などと唱へた日本人は朝鮮人が自分にも民族主義の適用をと叫び出したには少からず面喰らつたであらう。苦しまぎれに謂ふ所の民族自決主義とは歐羅巴限りの話である、亞細亞などへ輸入す可き性質のものではない、杯とコジ付けて居るのは、如何にも笑止千萬な話である。機會均等主義杯も其れである。『制海權』の『利益範圍』のと云ふことが、如何して機會均等主義と兩立し得るか。機會を均等にしたら今日の英國は消滅して仕舞ふではないか。其れでも宜しいのか。今日までは兎に角獨逸と云ふ共同の敵があつたから、造語術の濫用も忍び得たがさて今後は其濫發した造語の如末を

如何つけるか。英米の政治家はケロリと忘れた様に顧みて他を云ふことに妙を得てゐるから、巧に切り抜け得るかも知れぬが、其口眞似をした日本人は禍なる哉。日本は左様に器用に人を瞞着する藝當が出来ないから、輸入造語の整理には少からずマゴつくことと思ふ。或る人々に取つては物價調節以上の大事件であらう。思へば笑止千萬な話である。無併合無賠償主義などと云ふ事は、今日既に早く何時何處にゾンナ風が吹いたかと云はん斗りに誰も口にしなくなつた。我輩嘗て『何の爲に戦ふ』に於いて無併合無賠償とは戦敗者用の造語であることを指摘した。獨逸に敗けはせぬかと懸念しつゝあつた頃は聯合國はボルンエヴキキから此造語を無斷借用して、萬一の場合に備ふ可く振り廻して居たが意外にも戦勝したとなつた今日、そんなことは癡言にも發言した覺えがない様な顔をして居る人々、其名を正義人道の主張者と呼ぶのである。所が茲に國際聯盟てふ造語だけは今現に問題になりつゝある。或は嘘から出た眞で、國際聯盟は出来るかも知れぬ。其主張者のエドワード・グレイ卿は高い理想の上から此論を立てたのかも知れぬ。併し乍らよし國際聯盟が出来て戦争防止の施設が有力になつたとしても其は決



して世界に眞の平和を齎らす所以とならぬ。否或點から云へば、其によつて愈々益々英國の資本的世界征服の大勢を鞏固にすることにならぬとも限らぬ。我輩は今茲に國際聯盟其ことに就て論ぜんと欲するものではない。其主唱者のグレイ卿其人は却つてより、悪き平和攪亂の種子を、而も遠からざる過去に於て播いた人であることを一つ立證して見て、世界平和の望み未だ遠いことを示さうと思ふのである。

## 二

グレイ卿の播いた平和攪亂の種子とは何であるか、一言にして言へば、英國の資本的侵略主義の公認是である。即ちグレイ卿は千九百十四年七月十日英國議會に於ける外務省豫算討議の際次の如き公言を敢てしたのである。

"I regard it as our duty, wherever *bona fide* British capital is forthcoming in any part of the world, and is applying for concessions to which there are no valid political objections that we should give it the utmost support we can, and endeavour to convince the foreign government concerned that it is to its interest as

well as to our own to give the concessions for railways and so forth, to British firms, who carry them out at reasonable prices and in the best possible way.

右意譯

予は次の事を認むるものなり、世界の何れの部分に於ても、善意なる英國の資本が提供せられ、而して有効なる可き政治的反對の存せざる利権の讓與を要求するときは、吾人は吾人の與ふ限りの最大の助力を之に與へ、相當なる價と最善の可能なる方法とに於て之を經營せんとする英國の商人に對して鐵道其他の利権割讓を爲すことは、英國の利益たるに止まらず、其當該國の利益なることを、其當該國の政府に力説する可く努むることは、吾人の義務なり

これは如何にも巧妙に言廻してあるが、露骨にして正直なる日本語に翻譯すれば『英國の外交方針としては、英國の資本家が外國に於て其資本投下を欲し、之に對し利権の割讓を望むときは、英國政府は極力其資本家を擁護後援し、相手國政府に強要して其要求を貫徹せしむることゝす』と云ふ事である。即ち資本的帝國主義の採用を公然聲明した次第である。乍去英國の資本的帝國主義、經濟的侵略主義は、決してグレイ卿に始まるも

のではない。否グレイの前にパーマーストーンあり、最も有力に資本的帝國主義の主張に勉めたのである。パーマーストーンは政府の公力を濫用して、外國に於ける英國資本家の庇護に力を用ゐ過ぎたと非難された。貴族院は彼の政策を難じた。女皇陛下も熱心に反對された。下院に於ては保守黨の領袖サーロバートピール猛烈に彼を攻撃した。然れどもパーマーストーンは屈する事なく曰く、『昔羅馬の市民は、我は羅馬市民なり』とさへ公言すればあらゆる侮りを防ぎ得たる如く、英國の市民は、世界中如何なる地方に往くとも、英國の注意深き眼と強力なる腕とは、彼を擁護するものなるを信頼して可なりと。此れ丈け聞けば誠に當然の事で一尙不都合のない様であるが、彼が此く頑張つた其具體的の出來事は何であつたかを知らねばならぬ。其出來事は英國の國家的利益に係などのある事柄でなく、全然一私人の利益擁護に關することであつた。即ち葡萄牙生の猶太人ドンパンフコなる男が何處を如何したか兎に角英國國民たる國籍を取得して居たが、希臘のアテーンに住んで居て、希臘政府に或る債權を有すと稱して之を強請した。然るに彼は其事件を希臘國の法廷に提出せず英國政府に訴へた。政府は彼の要求

に應じて英國の一艦隊を希臘のピレエヴス港へ派遣して直ちに彼に對し支拂ひを爲す可しと談判に及んだのである。其際上院、下院、女皇陛下が極力其事を非とした爲め、パーマーストーンは以上の言を發したのである。其横暴驚くべきであるが、不思議にも英國の輿論は漸次パーマーストーンに降伏し、遂に彼の立言を一種の原則と認むる様になつた。其以後英國の外務省は世界到る處に於て、其公の力を以つて英國の資本家を擁護した事は實に枚擧に遑ない（獨逸の膠洲灣占領は全く英國の弟子入をしたものに過ぎない）。埃及を取つたのも香港を取つたのも皆其れである。近くは支那で問題となつて居る阿片の密輸入の如き、殊更正義人道呼ばはりを盛んになし獨逸を世界の公敵呼ばはりをなしつゝある間の出來事としては甚だ皮肉である。況んや支那では其阿片を燒却するに代へて、之を列國の赤十字社へ寄附するとは、我輩をして溜飲三斗を一時に下げしむる底の痛快事である。支那に人あり、日本に人なしと云はれても一言もない。日本も偶には阿片赤十字寄附の如き痛快な事をやつて、偽善的英米人の膽を破つて貰ひ度いものである。林則徐の阿片燒却より此方が遙かに利巧にして、而して言はふ様なき皮肉な思

切つたやり方ではないか。林則徐は地下で嘸大笑して居る事であらう。英米聯合してヴェネズエラに艦隊を派遣したのも、山師的資本家擁護の爲であつた。否、グレー卿が波斯の内亂に乗じて露西亞が波斯に出兵するを承諾したのも、資本家擁護の爲ではなかつたか。其最も極端なのは南阿戦争である。如何なる拜英主義者も南阿戦争をまで正義の戦と呼ぶ勇氣は持つまい。南阿に於ける英國資本家、殊にダイナマイト獨占業者の利益擁護が端の原因であつたではないか。否、埃及に於てはミルナ卿は一英國銀行の總裁として名を貸した。土耳其の一英國銀行の頭取はエドワード王の寵臣と傳へられたカーナーネストキヤツセルであつた。其他類例はイクラでもある。而して獨り歐羅巴、亞非利加に止まらぬ。遠く遠東にまで此の資本家擁護の外交の手は及んで居るは人の知る所である。英國の貿易の保護國民的利益の擁護の爲めと云ふのは表面の事實際に於ては個々の資本家の庇護の爲めに、外交と海軍とが用ゐられた例は實に屢々である。而して外の國は何れも英國の眞似を始めた。國內に於て労働者の頭を刎ねる資本家は、國外に出でて弱き外國民の頭を刎ねるのである。而して其爲めに國に費用をかけて居

る。其費用は國民一般が之を納める労働者も之に参加する、是れはマルクスの言葉に倣つて云へば第三次的掠奪 (Tertiary exploitation) と稱す可きであらう。生産者として掠奪せらるゝが第一次的消費者として掠奪せらるゝが第二次的で、而して段々第二次的掠奪が増大して來るとマルキシストは云ふが、此の第三次的掠奪も亦増大しつゝあることを忘れてはならぬ。

## 三

資本的帝國主義は十九世紀の末葉に至つて益々盛んとなつた、これは英國を始め歐羅巴の國々の對外經濟關係の變遷に基くのである。木綿紡織業の中心たるランカシアが英國の富源であつた、此英國即ちマンチェスター主義全盛の英國は、主として商品輸出國として其大を致した。英國は正に貿易の霸王であつた。而してマルクスが其資本論を打立てる材料は、此時代の英國から取り來たつたものである。故に彼は主として第一次的掠奪を見た。彼の學徒が『資本主義』と名づけて攻撃するものは主として此形態で

ある。然しながら時勢は進んだ、英國の對外經濟關係は一變した。元より英國は今日に於ても世界貿易の覇王である、大なる商品輸出國である。而して此の輸出工業に於て資本主義の盛なることも依然たるものである。乍去マルクスの見た時分の英國は其れ丈けであつた。今日は左様でない、更に之に加はるものが起つた。其れは『輸出資本主義』(Exportcapitalism) こんな名稱は西洋人は用ひぬ、我輩の手製語である) 是である。詳しく云へば英國は單に商品を工業品を輸出するのみでなく、資本輸出國となつたのである。佛國は商品輸出國としては第二流第三流位であるが、資本輸出國としては英國に次ぐのである、乍去『輸出資本主義』の横行は逆も英國と比す可くもない。獨逸は商品を輸出する資本も輸出するが未だ十分でない、ソコデ人間を生を儘輸出して居た。英國では資本家なり、事業の主宰者なり、技術の指導者なりは輸出するが、勞働者生産實行者、精神的勞働者、手代番頭の輸出は餘りせぬ、國內に於て十分に之を使用する餘力がある。獨逸は國內に於て十分に之を使用し盡せぬ故、生の儘人間を外國へ輸出して居た。此れは獨逸が英國に遠く及ばざりし點である。國內で有爲の人間に活動の餘地を與へ、其生産の結果た

る商品を輸出するの利と其生産の實行に當る可き人間を素材として輸出するの損とは、離人の目にも明白に比較せられ得る事柄である。人間を國內で養へば、國全體の利益は勿論企業者が其頭を刎ね得るの利も亦大である。然るを人間を其儘輸出すれば、企業者の利益は全部外國の企業者に歸して仕舞ふ。即ち米國は其多數の獨逸移民から此利を收めた、其れ丈け獨逸は損をしたのである。然るに、英國は國內に於て人間も資本も用ゐる丈け用ゐて生産した商品を輸出して利益するが、其でも猶資本に餘りが出来る程富は大である。従つて其餘つた資本は是非之を輸出せねばならなくなつた。此は一に英國々富の偉大なる増殖の結果である、羨しいと云へば實に羨しい限である。佛國は左様ではない。國內に企業力も精神も十分でないから、資本を用ひこなし得ぬので、資本を生を儘輸出して居たので、其有様は人間を素材として輸出して居た獨逸に似てゐるのである。だから獨逸の人間と佛國の資本とを何とかして結び付ける工夫はないかとは、兩國でも考へて居た人もあるのである。

兎に角、英國は十九世紀の末葉に於ては大なる商品輸出國たると共に、大なる資本輸出

國となつた。ソコデ資本主義に一新生面が開けて來た。我輩が『輸出資本主義』と名づけ、又『資本的帝國主義』と名づくるものは是である。何故に資本輸出國は資本的帝國主義國となるかと云ふことは、マルクスの説を少しでも知つて居る人に對しては、別段に説明を要せぬことである。今日の經濟組織の下に於ては、資本の生命は頭を刎ねることにあつて、頭を刎ねることなくしては資本は存続せぬ。國內で頭を刎ねるが國外では頭を刎ねぬと云ふことは有り得ぬことである。處が國內に於ては財産本位の制度が嚴然として完備して居るから國として別に侵略する必要はない。あらゆる法律制度の下に甚だ順序よく規模井然として、資本は其勿頭作用を續けて行く、是れが所謂『法治國』の有難味である。而して我々は其の經濟學を以て其の行程を論理付けることに殆んど全力を注いで居る。好運兒！恵まれたる者！汝の名は資本である。然るに一度國境を出ると左様は行かない、あらゆる危険は資本を脅かすのである。ソコデ此の危険に對して資本を擁護する必要が痛切に感ぜられる。商品の輸出即ち貿易も本國の保護を要する事は勿論である。即ち『貿易は國旗に従ふ』と云ふ諺さへある。國家の權力が先づ進んで行く、貿

易は其庇護の下に追従して行と云ふのである。然し是は多くは既に過去の事に屬する。十六世紀、十七世紀の頃は其通りであつた。英國では海外輸出商人の一團體に『マーチアント・アドヴェンチュラス』と云ふのがあつた、海外商人は一種の冒險家であつたのである故に鞏固なる團體を作る必要があつた。彼の各種の特權會社、レギユレートツド・コムパニースも何れも此必要から起つた。最後に起つたのが株式會社である。今日では株式會社は何業にも行はれるが其抑の發端は、冒險的海外貿易に限られて居た。即ち和蘭の東印度貿易會社、其真似をして英國の東印度會社が世界に於ける株式會社の嚆矢である。(拙著『續經濟學研究』 『株式會社研究』全集第四集 『經濟學考證』並に近刊の津島學士の名譯『株式會社法史』を看られよ)。海外貿易即ち商品輸出業は當時にあつて甚だ冒險的のものであつた。故に國家はあらゆる特典の保護を與た。其れでも十分でなくて、資本を廣く公衆から募りて利益と危険とを廣く分布する株式會社が起つて、一人又は少數の人の敢てし得ざる冒險を爲したのである。中世末葉伊太利の『コムメンダ』と云ふのも、亦海外貿易が特に危険の多かつたから起つた一種の組合である。

我邦の御朱印船も亦粗ぼ同様の必要から起つた制度である。所が十九世紀となつては、最早海外貿易に特殊の危険なるものはなくなつた。世界は開明し、何れの隅に行くも安心して貿易商業を營むを得ることゝなつた。唯だ非常の場合には、母國外交又は海軍の保護は無論必要であるが平生は其要はない事になつた。即ち「貿易は國旗に従ふ」と云ふは空言となつて、却つて「國旗は貿易に従ふ」と云ふ方が當を得る様になつた。輸出商人は其商品が賣れて代價が取れさへすればよい、代價が取れないとて其れ丈けの損と諦めて、次回は他の方面へ轉ずれば事は濟む。一度限りで見切を付けることが出来る。僅斗りの掛賣代金の爲に、母國の艦隊を出動して貰ふ程の事はない。而して事實に於て、先に於て身體財産の安全は殆ど脅かさるゝ事はない。然るに資本輸出家は左様は行かない、一度資本を投下するか貸付けるかすれば、其關係は永く續くものである。元金の回收せらるゝ迄は厭でも關係を絶つ譯に行かぬ、元金に對する利益の配當貸金に對する利子は永く繼續して年々取立てなければならぬ。商品の賣手の様に、一度限りと諦めて他へ轉ずると云ふ事が出来ぬ、即ち其投下資本債務國の内政の如何民情の如何は彼に取つ

て重大にして繼續的の意義を有する。従つて危険の起るを免れぬ。身體の危険は無いとしても財産の危険がある。利子が取れなくなるかも知れぬ、元金がフイになるかも知れぬ。ソコで此の危険に對して擁護して貰ふ必要がある。相手國の内政紊亂して債權がフイにならぬ様、投資した事業が害されぬ様、利益又は利子の支拂が安全確實である様になければ困る。ソコで自然母國の官權母國の外交、母國の海軍を頼まねばならぬことゝなる。是れパーマーストーンからグレーに至る迄に、漸次に發達して來た資本的帝國主義の根據である。海外に投下せられた自己の資本を擁護するためには、早晚債務國の内政に干渉することとなり、果てはそれでは不十分だとて、一層の事一思ひに併呑して仕舞ふ、埃及が其の好適例である。昔は土地を賣るのが帝國主義、侵略主義の仕事であつた。印度は商品輸出時代の初期に於て、貿易の安全の爲めに東印度會社の手を以つて英國が取つて仕舞つたのである。今日は商品輸出の爲めに他人の國を取る必要はない。其國の宗主權に手を觸れずとも、其國民の購買力さへ盛んになれば宜い、其爲には却つて宗主權を尊重して置く方が宜い位である。ダカラ商品の輸出を主とする資本主義即ち貿易

は、或程度迄眞正の正義人道と一致する（コレ平和的資本主義と名づけて、侵略的資本主義と區別するも差支ない）。文化の低い國民を啓蒙して文明に向はしむれば、我商品に對する購買力が殖へる。即ち文明の開發と貿易の發達とは能く兩立し得る。英國の自由貿易主義の倫理的使命は茲に在る。米國がペリーを日本に遣はして開國を促たのも此消息を傳へる。然るに資本輸出時代になつては事が變つて來た。資本の生命は勿頭である。文化の發達は必らずしも念とせぬ唯投下した資本に對し利廻りが好くさへあれば宜い。其國の經濟力の發達は必ずしも要せぬ。其國民の勞働を出來る丈け掠奪すれば事は濟む、餘り閉明に進んで其國民の富が増し、外資を要せぬ外國の企業者を要せぬと云ふ様になられては、却つて困るのである。何處迄も資本的奴隸であつて欲しいのである。其國民の文化が進めば方外に高い利率は收められぬ、國內の投資と違はなくなる、其れでは何にもならぬ、従つて資本の輸出は文化の低い國、又は能率の低い國、貧弱の國へと向ふ（従つて危険は多い）。其でなければ高い利率は收められぬ。商品の輸出は却つて反對に購買力に富んだ國、即ち能率の高い國、進歩的の國へと向ふ（従つて危険は少い又は絶

無である）。英國の商品輸出先としては、歐洲の文明國が最大得意であるを見ても知る可きである。之に反し資本の輸出先は埃及なり、土耳其なり、印度なり、波斯なり、亞弗利加なり、又は支那なりであるではないか。昔は弱い國は干戈を以つて併呑した、今日は資本を以つて金縛りにする。昔は弱國から貢納を徵收した、今日は年々絶えず高利を支拂はさせる。形は違ふが道理は一つである。高利貸は時としては債務者の破産を喜ぶ資本輸出國も時には債務國の事實上の破産を望むのである。

茲に少し學究的説明を挿入することを許して貰ひたい。資本の輸出と云ふと、或は金を輸出することゝ早合點する人があるかも知れないが、其は誤である。資本の輸出と云ふも實は品物の輸出である。支那が何萬兩借款すると云ふのも、其れ丈けの金貨を送るのではない、其金額に對する品物を支那へ貸すのである。かく云ふと其れならば資本の輸出と商品の輸出と何も異なる所はないではないかとの反問が起るであらう。然り、手續の上からは何等の相違はない、然し其の作用は大いに違ふのである。賣品として輸出すれば、之に對して代價として又た相手國から品物を取るのである。簡單な例にして説明し

て見やう。支那に對して英國が一ヶ年三百萬圓の輸出をする（他國との貿易は全く無いものと假定して）、支那は之れに對して三百萬圓の品物を英國へ與へる。假りに英國の三百萬圓は綿絲及機械類のみであるとすると、支那の三百萬圓は農産物であるとすると、此場合英國の資本の利益は何であるかと云へば自國で三百萬圓に當る綿絲及機械類を生産するに方つて得る利益と之に對して輸入する農産物より得る利益と是である。然るに今支那は三百萬圓の農産物を英國へ與へる餘力がないとする然れば綿絲及機械は買へない、ソコデ借款を三百萬圓英國からする。其借款の三百萬圓を振替へれば、支那は差當り何物も輸出せず、三百萬圓の綿絲機械類を英國から買ふことが出来るのである。其れが英國の資本輸出、支那の外資輸入である。品物の動くことは同じである、然し其れから先は違ふ。何となれば、支那は其三百萬圓を返さなければならぬ。返す迄は年々利息を拂はなければならぬ。ソコデ支那は例へば年々三百萬圓に對する五分、即ち十五萬圓丈の農産物を唯で英國へ送らねばならぬ。期限になれば三百萬圓丈の農産物を英國へ送らねばならぬ、品物をやり取りする貿易の場合には英國の利は賣つた品、買つた品

の二方のみにあるが、借款の場合には更に之を加へて利息の利益がある。即ち二重の利益でなく三重の利益を得るのである。支那としては品物を直ちにやり取りした場合には同じく二重の利があるが、借款の場合には、此の利益から利息の損を差引かなければならぬのである。これは取引が公平に行はれる場合の話であるが、債務國となれば常に弱者であるから、品物の輸出入に就ても普通の輸出入の場合の様な利益は得られない。其れよりも少しの高を以て我慢せねばならぬことゝなるが常である。従つて債權國たる英國の利益は彌が上にも大となるのである。此の大利益あればこそ危険を冒して資本を輸出するのである。國內投資と同じ割合の利しか收められなければ、決して資本を冒險的輸出することはないのである。

かくして資本輸出國は、債務國民の勞働を掠奪すること、國內勞働に對するよりも遙かに多いのであつて、斯く甘い汁が吸へるからこそ、國內の資本主義は一轉して輸出資本主義となるのである。斯くて債權國が債務を資本的に侵略することゝなるのである。



## 四

元より國際間の關係に於て資本に有り餘つて居る國が其足らぬ國へ之を供給することとは結構なことである。外資を輸入して未開地を拓き新富源を開發するは、類全體の幸福を増進する所以である。其道理は國內に於て資本の力によつて生産を進歩せしむると少しも異らない。資本其物には功徳がある許りで、何の不都合もないことは、國內に於けると國際間に於けると、何等の區別はないのである。如何なる社會主義者と雖も、此意味に於ける資本の功徳を否定するものではない。然し乍ら、今日の經濟生活に於ては、此資本の應用が一種特殊の作用を伴ふ、其作用に不都合が存するのである。『資本主義』と云ふのは、單に資本を用ゐて生産を營むと云ふ意味ではない。右云ふ特殊の作用を伴ふ資本の運用法を指して云ふのである。其特殊の作用とは、即ち頭を刎ねることは是れである。今日の資本主義の下に於ては、此の頭を刎ねると云ふことが資本の生命となつて居るのである。頭を刎ねない資本運用法は無論ある、併し其れは今日は行はれないので

ある。此事の説明は經濟原論に於て繰返されてあるから今管々しく之を説かぬ。ところが國內の産業に行はるゝ資本主義は、國內勞働の頭を刎ねるに止るが、輸出資本は一方に於て國內勞働の頭を刎ねると共に、他方に於いて外國産業の頭を刎ねるので、二重三重の利益を占めて居るのである。資本として輸出する商品に就いても、其生産に當つて第一次的頭が行はれる利息なり元金なりの償還として輸入する商品に就ては、第二次的頭が行はれる。而して更らに之に加へて右に説明した様に國外の勞働産業に對して別種の頭が行はれる。否、詳しく云へば國外の勞働に對しても、第一次、第二次と二回に頭が行はれるのであるから、合計四回の頭が行はれる。是は順當の貸借であつても、今日輸出資本主義の下に於ては免る可からざる所である。然るに英國を始め歐米の俄權國は、更らに其作用を倍加す可く輸出資本に特別の庇護を加へて、其國外に於ける頭作用を彌が上に大ならしめるに努めて居るのである。之れが即ち資本的侵略主義と呼ぶ所のものである。資本が外國へ輸出せられて國內で使用せられないと、其部分丈は國內勞働の頭が停止せられると主張する學者もある。是れは大なる謬見である。資本

の輸出とは金の輸出ではない、矢張品物の輸出である。其元利の償却も金の輸入で行はれるのではない、矢張品物の輸入で行はれるのである。されば資本其ものとしての掠奪が行はれないと云ふ丈で、其輸出商品の生産に於ける掠奪、其輸入元利償却品の消費に於ける掠奪の行はれることは、寸毫も變りはないのである。然るにそれに附加して資本的侵略主義の作用によつて、債務國は更らに二重の掠奪を被むるは、以上云ふが如くである。否其のみに止まらない、資本的侵略主義の實行は國費の膨脹を意味する、外交の經費は勿論として海軍（並に陸軍）の増費を伴ふ。其經費は又國內生産者消費者の負擔を増す。勞働者は更らに重荷を課せられるのである、即ち予が第三次的刎頭と名くるものが行はれるのである。

## 五

英國の海軍は今日では、其一半をあげて資本的侵略主義の下僕となつて居る海外投資の庇護の爲めに用ゐられて居る。獨逸の軍國主義が國權擴張の爲に用ゐられたよりも、

更に強い意味で英國の *Navalism*（我輩は之れを軍國主義に對して海賊主義と邦譯す可しと信ずる）は、其資本國の道具となつて居る。獨逸の軍國主義撲滅せざる可からずと主張した人々が、此の海賊主義の撲滅を叫ばざるは、如何に資本的侵略主義の病が膏肓に入つて居るかを端的に證明するものである。果然此頃徵兵制度全廢論が高唱せらるゝと同時に米國は海軍の大擴張を斷行すると米國の海軍卿は聲明して居る。陸賊は滅絶せざる可からず、海賊は益盛んに行ふ可しとは、何たる滑稽何たる矛盾ぞ。此の滑稽が毫も怪まらないのは、歐米人の頭が資本的帝國主義にスツカリ馴致せられて居る結果と見るの外はない。即ち國際聯盟によつて陸戰の杜絶を期すと呼號するグレイ卿其人は、海賊的資本侵略主義の爲めに大氣を吐いた人であることも、斯く考へれば毫も不思議でないことになる。陸戰を杜絶した丈で、世界の平和が得らる可しとは、嘘も宜い加減にして貰ひ度いと答へざるを得ぬ。乍去英國に取つて云へば、大陸軍國たる獨逸を滅し又徵兵制度の廢止によつて新たに大陸軍國の起るのを防ぐのは、其 *Navalism* の安全全盛を期するに願つてもない名案であるから、熱心に之を主張するのである。己れ獨りが世界

を横行す可きである。外の國が其様な非望を抱くことは世界の平和に害があると云ふのである。即ち謂ふ所の世界の平和とは、世界が英國の制海權、Naval Baseを道具とする英國の資本的征服の下に、絶對に服従すれば得られると云ふのである。『スタートウスクオ』の維持とは即ち此謂である。權力の均衡とは英國の世界征服の維持の事である。

## 六

今日迄の世界は、變化の方法として戦争を免るゝことが出来なかつた。變化は進歩を來す上に免る可からざる所である。一切の變化を杜絶すると云ふことは、進歩を停止することゝなる。唯今迄の様に此變化が戦争によつて實現せられ、具體化せらるゝことは、人類の迷惑とする所である。問題は變化を杜絶することではなく、變化の方法として、戦争以外の平和の方法を求むることである。侵略征服によらざる變化の方法を見出すことは是れである。個人として變化の避くべからざるが如く、階級とし變化の免かるべからざるが如く、國としての變化は必要である。其れがなければ進歩は期することが出来ぬ。

ぬ。國際聯盟によつて、陸戦を杜絶することが出来るとしても、所謂制海權を有する國のみは資本的侵略によつて絶えず變化し、絶えず進歩して行き得るが、然らざる國は一切の變化従つて一切の進歩を斷念せざる可からずとすれば、其は人類全體としての退歩を來す外はない。否其迄我慢しては居ない。力あり、富ある國は同じく資本的侵略國となつて、可能なる變化を實現することに努むるとなる可きは、火を賭るよりも明かである。斯くして世界平和の望は愈々遠いことゝなる。我々は其様な虐偽な平和を斷乎として排斥する。我々は戦争を斥くると共に、其れよりも更らにより、惡き資本的征服侵略をも排せねばならぬ。戦争によらずして世界の各國が、眞に平和の間に當然の變化を實現し、最能の進歩を遂ぐ可き方法を求めねばならぬ。其は未だ見出されて居らぬ。是我輩が世界平和の望未だ甚だ遠しと斷ずる所以である。

## 七

資本的侵略主義の代價は國民が一般に之を負擔する。國中の一部階級たる資本家の

利益を擁護するに要する費用は其資本階級のみが之を負擔するのではない、國民凡てが負擔するのである。労働者階級も無論其負擔を免れぬ、即ち第一次、第二次、頭の外に更に間接税、又は直接税の納税者として此の重荷を負ふのである。一方に社會政策的施設の恩恵は被るが、他方に資本的侵略主義の代價を支拂ひつゝあるのである、誠に際限の無い話である。ところが労働者の被むる不利益は之に止まらない、資本が外國へ輸出せられると云ふは、多くは國內に資本が豊富であるからであるが、必ずしも國內に於て其を用ゐる道が皆無である次第ではない。否、國內の資本に不足を告げて居るにも拘らず、輸出せられる場合はイクラもある。我邦の如きは其手近な一例である。支那への借款は資本が有り餘つて居るからとは決して云へない。即ち國內資本を無理に切り詰めても輸出する。其方が資本主に取つて利益が多ければ、國內資本供給の不足などを顧みるものではない。而して恰かも商品輸出を無理に奨励すれば、國內に於ける其價格が騰貴して、一般消費者労働者の生計を困難ならしめるが如く、國內に用のある資本を無理に割いて外へ輸出すれば其結果は國內資本の供給を不足ならしめ、延いて資本利率を高からしめる。資本利率の高いと云ふことは、労働所得の低いことを伴ふことを免れない。反對に資本が有り餘つて居る國でも其の資本を輸出せずして國內の事業に投下すれば資本は甚だ潤澤となるから其利率は下る。従つて生産は樂となり、労働所得は高まり得る。資本の輸出は外國に於ける労働産業掠奪の作用を爲すのみならず、間接には右の如く國內に於ける労働を不利に導くこともあり得るのである。殊に資本の潤澤ならざる國が、無理に侵略主義實行の爲めに、其不足なる資本を割いて外國へ輸出すれば、國內労働の不利益は愈々甚しくなり、其負擔は益々重くなるの外はない。資本的侵略主義は資本に富める英佛の如き國に取つても、労働者を苦しめるが資本の乏しい日本の如きに取つては、其作用は猶更甚しいのである。されば資本的侵略主義は國際間の平和を攪亂する原因たるの外、國內の平和を攪亂することを免れない。即ち社會民主運動は其反對毒として起つて、茲に階級戦争が演出せられる。單純なる資本主義でさへ、社會的平和は屢々脅かされんとしつゝあるのに、更に加ふるに輸出資本主義を以てす、世界平和どころか國內平和の望も、亦甚だ遠い事となる外はない。之に比ぶれば、獨逸の軍國主義の危険は遙か

に小なるものと斷ず可きである。其小なる危険——而も日本に取つては少くとも今日迄は、殆んど何等の危険とはなつて居らなかつたものが滅ぼされたとして、更らに更らに大なる危険たる資本的侵略主義の魔道に陥るならば何にもならないことである。我輩があらゆる機會に於て資本的侵略主義の危険を絶叫して同胞の猛省を促す所以實に之が爲めである。願くは讀者我輩を以つて正體なき幽靈に怖れて妄言を繰返すものとなす勿れ。

附言。畏友室伏君の一月號の『中央公論』に於て我輩の所説の骨子は獨逸學者のモイリッポ  
ンと云ふ人の『ミューンヘナーノイエステナハリヒテン』に掲げた論文と同じであると言は  
れた。我輩は不幸にして右新聞を手にするこゝが出来ぬから、ボンの所説如何を知らない  
が、室伏君教ふる如くんば甚だ愉快なことである。ボンはミューンヘン大學教授兼高等商業  
學校長で、米國へ交換教授として招聘されたことのある人である。我輩に取つては氏は同  
窓英遊の學友で、滯獨中の最親友常に往來した人である。開戦以來全く音信を通ずるを得  
ないを憾として居たが、今室伏君の仲介によつて間接に消息を得るは、實に會心のこ  
とで此の點深く室伏君の博識に敬服すると共に、其の親切を感謝せざるを得ぬ。而してボ

ンは大の英國崇拜者で『タイムズ』の愛讀者である。氏は永く英國に遊び殊に愛蘭農政に就  
ては英國人さへも推して權威とする人である。其の拜英熱は終に嵩じて氏は純英國婦人  
を娶つた。故に氏が英國を特に惡様に考へることはあり得ぬことである。其のボンにし  
て吾輩の排英論と符節を合せた様に同じ説を公にするのは、偶々吾輩に何等の『プレヂ  
デイス』なきことを證するものと信ずる。吾輩は感情上英國を憎むとの評言は御訂正を  
願ふ、吾輩は感情上英國は大好きである。唯だ偽善的正義人道論を憎むのみである。

大正八年一月十八日稿同二月十一日『我等』掲載

## 二 對抗か順應か

|| 世界に於ける日本 ||

### 一 聯合國經濟協商の實何くに在る

一 聯合國經濟協商の實何くに在る